

青野滝北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡 発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代から連続と続く数多くの遺跡が残されており、先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県においては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して平成26年に発掘調査を行った宮古市田老字青野滝北に所在する青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。

発掘調査では、縄文時代中期に特徴的に見られる複式炉を持つ堅穴住居跡がいくつも重複して見つかったほか、陥し穴状土坑なども確認され、当地域における縄文時代中期後葉を主体とした集落跡の存在が明らかになりました。

この報告書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成28年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野 洋樹

例 言

- 1 本書は岩手県宮古市田老字青野滝北における青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は三陸沿岸道路建設に関連して、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受け、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 岩手県遺跡台帳登録の遺跡番号と調査時の遺跡略号は以下のとおりである。
青野滝北Ⅰ遺跡：遺跡番号 KG84-0118、遺跡略号 ATKⅠ-14
青野滝北Ⅱ遺跡：遺跡番号 KG84-0108、遺跡略号 ATKⅡ-14
青野滝北Ⅲ遺跡：遺跡番号 KG74-2290、遺跡略号 ATKⅢ-14
- 4 本調査の期間と面積は以下のとおりである。
青野滝北Ⅰ遺跡：平成26年4月10日～9月19日 面積4,200㎡
青野滝北Ⅱ遺跡：平成26年4月10日～6月20日 面積2,100㎡
青野滝北Ⅲ遺跡：平成26年4月10日～9月30日 面積2,300㎡
- 5 現地調査は鈴木博之、古館貞身、鈴木貞行が担当し、整理事業は金子昭彦、鈴木(博)、古館、鈴木(貞)が担当した。本書の執筆は担当者間で分担し、文責は各項の文末に執筆者名を記した。また、編集は鈴木(博)が行った。
- 6 野外調査における基準点測量は(株)鈴木測量設計に、航空写真撮影は東邦航空(株)にそれぞれ業務委託した。また、科学分析及び鑑定は以下の機関に依頼した。
放射性炭素年代測定(AMS測定)・・・(株)加速器分析研究所
石質鑑定・・・・・・・・・・・・・花崗岩研究所
- 7 本書では国土地理院発行「田老 1:50,000」地図を使用した。また、土層及び土器の色調は『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修)に準拠した。
- 8 現地調査及び整理事業にあたり、以下の機関からの指導と協力を得た。(敬称略)
宮古市教育委員会
- 9 調査に関わる諸記録及び出土遺物は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 今回の調査に関わる成果については、現地説明会資料やホームページ等にて一部公開しているが、本書が優先する。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	立地と環境	
1	遺跡の位置と地理的環境	2
2	周辺の遺跡	2
III	調査・整理の方法	
1	野外調査	7
(1)	調査経過	7
(2)	調査方法	7
2	室内整理	11
3	基本層序	12
IV	青野滝北 I 遺跡	
1	概要	13
2	検出遺構	13
(1)	竪穴住居跡	13
(2)	土坑	39
(3)	炭窩	46
3	出土遺物	48
(1)	縄文～弥生土器	48
(2)	石器	50
(3)	石製品	51
V	青野滝北 II 遺跡	
1	概要	86
2	検出遺構	86
(1)	竪穴住居跡	86
(2)	土坑	87
3	出土遺物	93
(1)	縄文～弥生土器	93
(2)	土製品	94
(3)	石器	94
(4)	石製品	95

VI	青野滝北Ⅲ遺跡	
1	概 要	108
2	検 出 遺 構	108
	(1) 竪穴住居跡	108
	(2) 炉 跡	111
	(3) 土 坑	111
3	出 土 遺 物	113
	(1) 縄 文 土 器	113
	(2) 石 器	113
VII	自然科学分析	119
1	青野滝北Ⅰ遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)	119
2	青野滝北Ⅱ遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)	124
VIII	総 括	127
	報告書抄録	221

図版目次

第 1 図	岩手県国・遺跡の位置図	3	(青野滝北 I)	55
第 2 図	遺跡の位置	3	第 35 図	遺構内出土土器 (4)
第 3 図	地形分類図	4	(青野滝北 I)	56
第 4 図	周辺の遺跡	5	第 36 図	遺構内出土土器 (5)
第 5 図	グリッド・トレンチ配置図 (青野滝北 I)	8	(青野滝北 I)	57
第 6 図	グリッド・トレンチ配置図 (青野滝北 II)	9	第 37 図	遺構内出土土器 (6)
第 7 図	グリッド・トレンチ配置図 (青野滝北 III)	10	(青野滝北 I)	58
第 8 図	基本層序柱状図	12	第 38 図	遺構内出土土器 (7)
第 9 図	遺構位置図 (青野滝北 I)	14	(青野滝北 I)	59
第 10 図	SI01 (青野滝北 I)	15	第 39 図	遺構内出土土器 (8)
第 11 図	SI01 炉 (青野滝北 I)	16	(青野滝北 I)	60
第 12 図	SI02 (青野滝北 I)	17	第 40 図	遺構内出土土器 (9)
第 13 図	SI02 炉 (青野滝北 I)	18	(青野滝北 I)	61
第 14 図	SI03 (青野滝北 I)	19	第 41 図	遺構内出土土器 (10)
第 15 図	SI03 柱穴、炉 (青野滝北 I)	20	(青野滝北 I)	62
第 16 図	SI04 (青野滝北 I)	22	第 42 図	遺構内出土土器 (11)
第 17 図	SI05、12 (青野滝北 I)	23	(青野滝北 I)	63
第 18 図	SI05 柱穴、炉、SI12 炉 (青野滝北 I)	24	第 43 図	遺構内出土土器 (12)
第 19 図	SI06 (青野滝北 I)	27	(青野滝北 I)	64
第 20 図	SI07 (青野滝北 I)	28	第 44 図	遺構内出土土器 (13)
第 21 図	SI08、13 (青野滝北 I)	31	(青野滝北 I)	65
第 22 図	SI13 炉 (青野滝北 I)	32	第 45 図	遺構内出土土器 (14)
第 23 図	SI09 (青野滝北 I)	33	(青野滝北 I)	66
第 24 図	SI10 (青野滝北 I)	34	第 46 図	遺構内出土土器 (15)
第 25 図	SI10 炉 (青野滝北 I)	35	(青野滝北 I)	67
第 26 図	SI11 (青野滝北 I)	37	第 47 図	遺構内出土土器 (16)
第 27 図	SI14 (青野滝北 I)	38	(青野滝北 I)	68
第 28 図	SI15 (青野滝北 I)	40	第 48 図	遺構内出土土器 (17)
第 29 図	SK01、02、03、05 (青野滝北 I)	42	(青野滝北 I)	69
第 30 図	SK07、09、11、12 (青野滝北 I)	45	第 49 図	遺構内出土土器 (18)
第 31 図	SK13、14、15、16、SW01、03 (青野滝北 I)	47	(青野滝北 I)	70
第 32 図	遺構内出土土器 (1)	53	第 50 図	遺構内出土土器 (19)
(青野滝北 I)			(青野滝北 I)	71
第 33 図	遺構内出土土器 (2)	54	第 51 図	遺構内出土土器 (20)・遺構外出土土器 (1)
(青野滝北 I)			(青野滝北 I)	72
第 34 図	遺構内出土土器 (3)		第 52 図	遺構外出土土器 (2)
			(青野滝北 I)	73
			第 53 図	石器 (1) (青野滝北 I)
				74

第54図	石器(2)(青野滝北Ⅰ)	75
第55図	石器(3)(青野滝北Ⅰ)	76
第56図	石器(4)(青野滝北Ⅰ)	77
第57図	石器(5)(青野滝北Ⅰ)	78
第58図	石器(6)(青野滝北Ⅰ)	79
第59図	石器(7)(青野滝北Ⅰ)	80
第60図	石器(8)(青野滝北Ⅰ)	81
第61図	石製品(青野滝北Ⅰ)	82
第62図	遺構位置図(青野滝北Ⅱ)	87
第63図	SI01(青野滝北Ⅱ)	88
第64図	SI01柱穴、石囲炉、土器埋設炉 (青野滝北Ⅱ)	89
第65図	SK01、02、03、04(青野滝北Ⅱ)	90
第66図	SK06、07、08(青野滝北Ⅱ)	92
第67図	遺構内出土土器(1)(青野滝北Ⅱ)	96
第68図	遺構内出土土器(2)(青野滝北Ⅱ)	97
第69図	遺構内出土土器(3)・遺構外出土土器(1) (青野滝北Ⅱ)	98

第70図	遺構外出土土器(2)(青野滝北Ⅱ)	99
第71図	遺構外出土土器(3)・土製品 (青野滝北Ⅱ)	100
第72図	石器(1)(青野滝北Ⅱ)	101
第73図	石器(2)(青野滝北Ⅱ)	102
第74図	石器(3)(青野滝北Ⅱ)	103
第75図	石器(4)(青野滝北Ⅱ)	104
第76図	石器(5)(青野滝北Ⅱ)	105
第77図	石製品(青野滝北Ⅱ)	106
第78図	遺構位置図(青野滝北Ⅲ)	109
第79図	SI01(青野滝北Ⅲ)	110
第80図	SI03、SX01、SK01(青野滝北Ⅲ)	112
第81図	遺構内出土土器(1)(青野滝北Ⅲ)	114
第82図	遺構内出土土器(2)・遺構外出土土器(1) (青野滝北Ⅲ)	115
第83図	遺構外出土土器(2)(青野滝北Ⅲ)	116
第84図	石器(青野滝北Ⅲ)	117

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	6
第2表	石器観察表(青野滝北Ⅰ)	83
第3表	石製品観察表(青野滝北Ⅰ)	85

第4表	石器観察表(青野滝北Ⅱ)	107
第5表	石製品観察表(青野滝北Ⅱ)	107
第6表	石器観察表(青野滝北Ⅲ)	118

写真図版目次

(青野滝北Ⅰ)		
写真図版1	航空写真	131
写真図版2	竪穴住居跡(1)	132
写真図版3	竪穴住居跡(2)	133
写真図版4	竪穴住居跡(3)	134
写真図版5	竪穴住居跡(4)	135
写真図版6	竪穴住居跡(5)	136
写真図版7	竪穴住居跡(6)	137
写真図版8	竪穴住居跡(7)	138
写真図版9	竪穴住居跡(8)	139

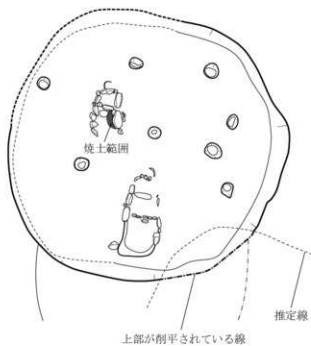
写真図版10	竪穴住居跡(9)	140
写真図版11	竪穴住居跡(10)	141
写真図版12	竪穴住居跡(11)	142
写真図版13	竪穴住居跡(12)	143
写真図版14	竪穴住居跡(13)	144
写真図版15	竪穴住居跡(14)	145
写真図版16	竪穴住居跡(15)	146
写真図版17	土坑(1)	147
写真図版18	土坑(2)	148
写真図版19	土坑(3)	149

写真図版 20	炭窯、基本土層、現地説明会	150
写真図版 21	遺構内出土土器 (1)	151
写真図版 22	遺構内出土土器 (2)	152
写真図版 23	遺構内出土土器 (3)	153
写真図版 24	遺構内出土土器 (4)	154
写真図版 25	遺構内出土土器 (5)	155
写真図版 26	遺構内出土土器 (6)	156
写真図版 27	遺構内出土土器 (7)	157
写真図版 28	遺構内出土土器 (8)	158
写真図版 29	遺構内出土土器 (9)	159
写真図版 30	遺構内出土土器 (10)	160
写真図版 31	遺構内出土土器 (11)	161
写真図版 32	遺構内出土土器 (12)	162
写真図版 33	遺構内出土土器 (13)	163
写真図版 34	遺構内出土土器 (14)	164
写真図版 35	遺構内出土土器 (15)	165
写真図版 36	遺構内出土土器 (16)	166
写真図版 37	遺構内出土土器 (17)	167
写真図版 38	遺構内出土土器 (18)、 遺構外出土土器 (1)	168
写真図版 39	遺構外出土土器 (2)	169
写真図版 40	石器 (1)	170
写真図版 41	石器 (2)	171
写真図版 42	石器 (3)	172
写真図版 43	石器 (4)	173
写真図版 44	石器 (5)	174
写真図版 45	石器 (6)	175
写真図版 46	石器 (7)	176
写真図版 47	石器 (8)	177
写真図版 48	石器 (9)	178
写真図版 49	石器 (10)	179
写真図版 50	石器 (11)	180
写真図版 51	石器 (12)	181
写真図版 52	石器 (13)	182
写真図版 53	石器 (14)	183
写真図版 54	石器 (15)	184
写真図版 55	石器 (16)	185
写真図版 56	石器 (17)	186
写真図版 57	石器 (18)	187
写真図版 58	石器 (19)	188
写真図版 59	石製品	189

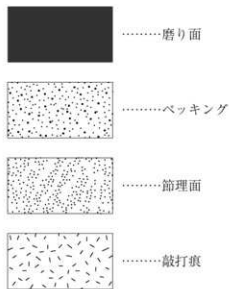
〈青野滝北II〉		
写真図版 60	航空写真	193
写真図版 61	調査前風景、基本土層	194
写真図版 62	竪穴住居跡 (1)	195
写真図版 63	竪穴住居跡 (2)	196
写真図版 64	土坑 (1)	197
写真図版 65	土坑 (2)	198
写真図版 66	遺構内出土土器 (1)	199
写真図版 67	遺構内出土土器 (2)	200
写真図版 68	遺構内出土土器 (3)	201
写真図版 69	遺構内出土土器 (4)、 遺構外出土土器 (1)	202
写真図版 70	遺構外出土土器 (2)	203
写真図版 71	遺構外出土土器 (3)、土製品	204
写真図版 72	石器 (1)	205
写真図版 73	石器 (2)	206
写真図版 74	石器 (3)	207
写真図版 75	石器 (4)	208
写真図版 76	石器 (5)、石製品	209
〈青野滝北III〉		
写真図版 77	航空写真	213
写真図版 78	遺跡近景、基本土層	214
写真図版 79	竪穴住居跡 (1)	215
写真図版 80	竪穴住居跡 (2)	216
写真図版 81	炉跡、土坑	217
写真図版 82	遺構内出土土器 (1)	218
写真図版 83	遺構内出土土器 (2)、 遺構外出土土器	209
写真図版 84	石器	220

凡 例

本書の遺構図、遺物図で使用したスクリーンパターン及び破線の用例は次のとおりである。



遺構図



遺物図

I 調査に至る経過

青野滝北Ⅰ遺跡、青野滝北Ⅱ遺跡、青野滝北Ⅲ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（宮古中央～田老）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年6月12日付け国東整陸一調第24号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年6月18日～7月2日にわたり試掘調査を行い、平成25年7月17日付け教生第612号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成26年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

II 立地と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

青野滝北Ⅰ遺跡、青野滝北Ⅱ遺跡、青野滝北Ⅲ遺跡は、岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、宮古市役所田老総合事務所の北約6kmに位置する。各遺跡の調査区中央における緯度・経度は、青野滝北Ⅰ遺跡が北緯39度46分46秒、東経141度58分20秒、青野滝北Ⅱ遺跡が北緯39度46分50秒、東経141度58分20秒、青野滝北Ⅲ遺跡が北緯39度46分52秒、東経141度58分27秒である。国土地理院発行の5万分の1地形図「田老」及び、2万5千分の1地形図「田老鉾山」の図幅に含まれる。

宮古市は岩手県の最東端に位置し、東には太平洋、西には北上山地を擁する。現在の宮古市は、平成17年6月6日に田老町、新里村との新設合併により新制宮古市となり、平成22年1月1日に西に隣接していた川井村を編入合併した。これにより、人口は56,854人、面積は1,259.89km²（平成26年12月1日現在）となり、隣接する自治体は北に下閉伊郡岩泉町、西に盛岡市、南西に遠野市、花巻市、南に上閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町となった。

本遺跡の所在する田老地区は宮古市北部に位置する。宮古以北では、海岸線に沿って海岸段丘が丘陵状に形成されており、東端では比高100mにも及ぶ海食崖が太平洋に臨む。この丘陵は海岸段丘が開析されて生じたものであるが、田老地域における段丘面は保存状態が悪く、小堀内の一部を除いては失われており、古生界、中生界の堆積岩や、花崗岩類からなる基盤岩の露出地帯となっている。本遺跡は、田老中心域北側の海岸段丘を開析する青野滝川北岸の丘陵上に立地している。

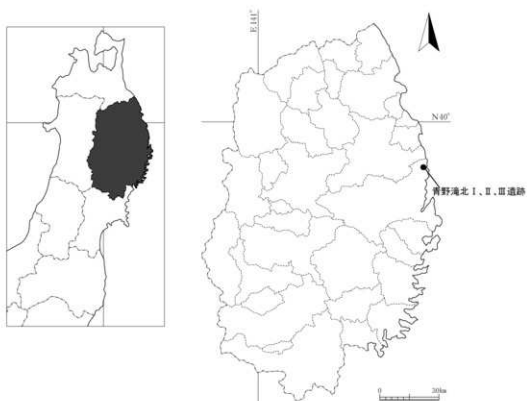
2 周辺の遺跡

昭和36年から昭和49年にかけて行われた分布調査の成果に基づいて、田老地区では平成18年度時点で63箇所の遺跡が所在していた。その後、平成18年から行われた宮古市教育委員会による分布調査や、三陸沿岸道路建設に伴う試掘調査によって遺跡の新規発見や統合・範囲変更が行われ、平成26年度岩手県遺跡情報検索システムによると田老地区の遺跡は74箇所となった。本節では、真崎以北に分布する遺跡を取り上げ、青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡周辺の歴史的環境を概観する。

田老地区北部において開発等に伴う大規模な発掘調査が行われた事例は少なく、内容が明らかになっている遺跡が少ない。その中で、比較的大規模な調査事例として、昭和56年度に行われた田老大規模年金保養基地（現在のグリーンピア三陸みやこ）建設に伴う発掘調査がある。この調査では縄文時代早期～前期の土器、石器が出土しているもの、これに伴う遺構は確認されていない。なお、この発掘調査の成果は「小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書」として刊行されているが、現在はそのような名前で岩手県遺跡台帳に記載されている遺跡はない。報告書に記載された遺跡の位置と現在の遺跡分布図を照合すると、向新田X遺跡（8）付近と思われる。近年では、三陸沿岸道路建設に伴う乙部遺跡（25）の発掘調査が平成25年度に行われている。この調査では縄文時代前期～中期の土器、石器が出土している。また、これまでに行われた分布調査でも田老地区北部においては縄文時代各時期と弥生時代の遺物が採取されているが、それ以降の遺物は確認されていない。このように、田老地区北部では縄文～弥生時代の遺跡が数多くあると考えられるが、これまでに集落跡が確認された事例は小

堀内 I 遺跡の調査に先立って行われた昭和 54 年の試掘調査のみで、当地域における縄文時代から弥生時代における様相を詳細に把握するに至っていない。

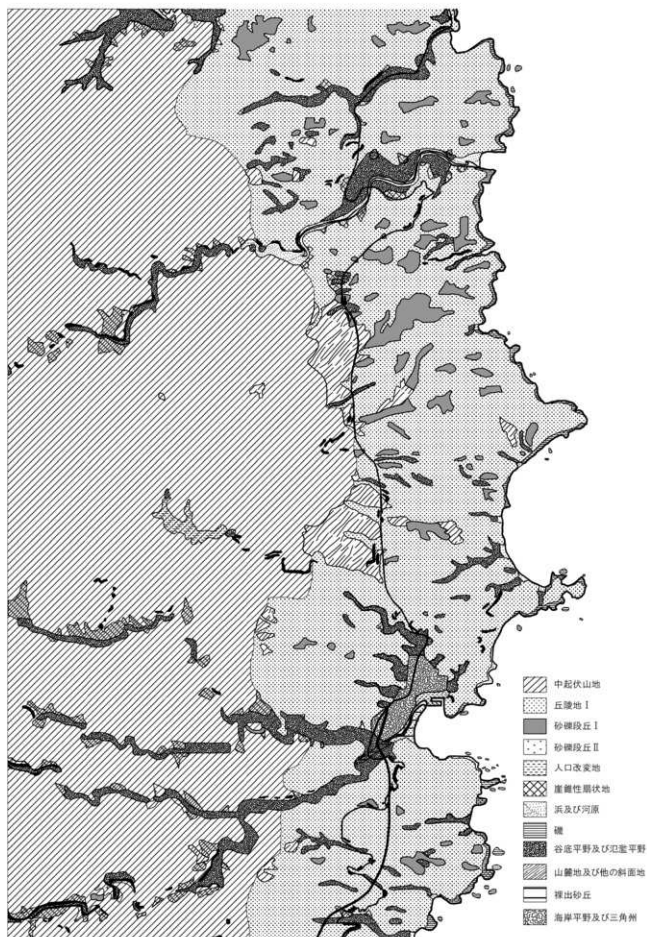
一方、真崎以南では土師器や鉄滓といった古代以降のものと思われる遺物が採取できる遺跡もあり、青野滝北 I、II、III 遺跡が位置する北部の丘陵上とは若干ではあるが、異なった様相を示す可能性がある。



第 1 図 岩手県図・遺跡の位置図



第 2 図 遺跡の位置



第3図 地形分類図



第4図 周辺の遺跡

2 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	種別
1	摂待	縄文	散布地
2	館の畑	縄文	城館跡(伝)-散布地
3	水沢Ⅰ	縄文・弥生	散布地
4	向新田XVI	縄文	散布地
5	向新田XV	縄文	散布地
6	向新田XⅣ		散布地
7	向新田XⅡ	縄文・弥生	集落跡
8	向新田X	縄文	散布地
9	向新田XⅠ	縄文	集落跡
10	向新田XⅢ	縄文	散布地
11	向新田XⅨ	縄文	散布地
12	向新田Ⅸ	縄文	散布地
13	向新田Ⅳ	縄文	散布地
14	向新田Ⅲ	縄文・弥生	散布地
15	向新田Ⅱ	縄文	散布地
16	向新田Ⅰ	縄文	散布地
17	小堀内南Ⅰ	縄文	散布地
18	小堀内	縄文	散布地
19	青野滝北Ⅲ	縄文	集落跡
20	青野滝北Ⅱ	縄文	集落跡
21	青野滝北Ⅰ	縄文	集落跡
22	物見峠Ⅰ	縄文	集落跡
23	物見峠Ⅱ	縄文	散布地
24	物見峠Ⅲ	縄文	散布地
25	乙部	縄文	散布地
26	青野滝Ⅲ	縄文	集落跡
27	青野滝Ⅱ	縄文	集落跡
28	青野滝Ⅰ	縄文	キャンプ地
29	東津部Ⅰ	縄文	散布地
30	新田Ⅰ	縄文	散布地
31	滝の沢Ⅰ	縄文	散布地
32	乙部野Ⅰ	縄文	散布地
33	裏崎	縄文	散布地

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査

(1) 調査経過

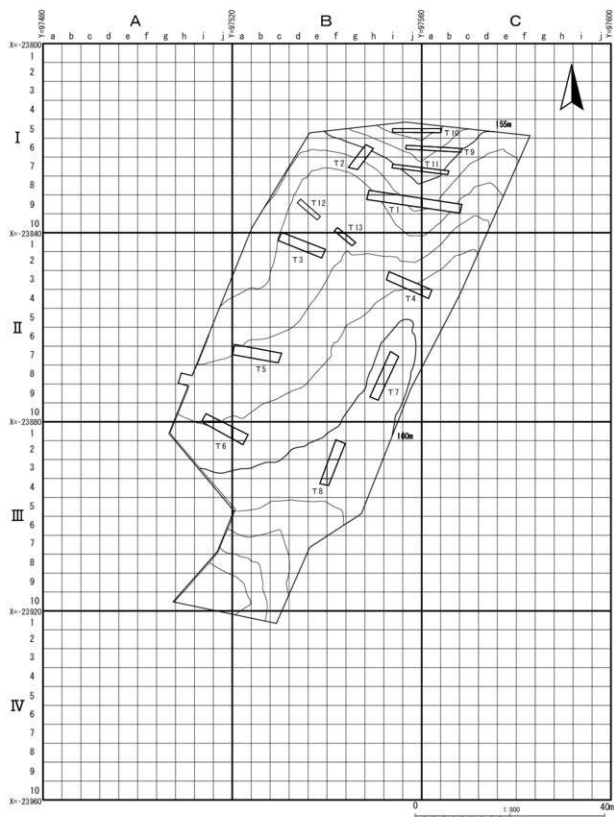
- 4月10日 調査開始。資材搬入、現場設営を行う。
- 4月11日 青野滝北Ⅱ遺跡の人力での試掘トレンチ掘削を開始する。
- 4月16日 青野滝北Ⅰ遺跡の人力での試掘トレンチ掘削を開始する。併せて青野滝北Ⅱ遺跡の重機での表土除去を開始する。
- 4月17日 青野滝北Ⅱ遺跡の遺構検出作業を開始する。遺構埋土と遺構検出面であるⅢ層との区別がつきにくく、注意深く観察しながらの遺構検出作業となる。
- 4月21日 青野滝北Ⅰ遺跡の重機による表土除去を開始する。
- 4月28日 (株) 鈴木測量設計により、青野滝北Ⅱ遺跡の基準杭打設。
- 5月1日 青野滝北Ⅱ遺跡の遺構精査を開始する。
- 5月12日 青野滝北Ⅲ遺跡の重機による表土除去を開始する。
- 5月14日 青野滝北Ⅱ遺跡で土坑と仮定して精査を進めていた遺構の底面から石囲炉を検出し、堅穴住居跡であったことが判明する。以後、断面観察用のベルトを設定しなおし、精査を進める。併せて青野滝北Ⅰ遺跡の遺構検出作業を開始する。
- 5月19日 (株) 鈴木測量設計により、青野滝北Ⅰ遺跡の基準杭打設。以後、青野滝北Ⅰ遺跡でも遺構精査を開始する。明瞭な検出プランを捉えられなかったが、遺物が集中している範囲に断面観察用のベルトを設定し掘り下げを行ったところ、複式炉や石囲炉を複数の場所で検出した。
- 6月3日 (株) 鈴木測量設計により、青野滝北Ⅲ遺跡の基準杭打設。
- 6月20日 青野滝北Ⅱ遺跡調査終了。
- 7月3日 青野滝北Ⅱ遺跡の終了確認を行う。
- 7月17日 青野滝北Ⅱ遺跡の空撮を行う。
- 8月4日 青野滝北Ⅲ遺跡の遺構検出作業を開始する。
- 8月23日 青野滝北Ⅰ遺跡の現地説明会を開催する。参加者 85 名。
- 9月1日 青野滝北Ⅲ遺跡の遺構精査を開始する。
- 9月8日 青野滝北Ⅰ遺跡の終了確認、青野滝北Ⅲ遺跡の部分終了確認を行う。
- 9月18日 青野滝北Ⅰ、Ⅲ遺跡の空撮を行う。
- 9月19日 青野滝北Ⅰ遺跡調査終了。
- 9月30日 青野滝北Ⅲ遺跡調査終了。
- 10月2日 青野滝北Ⅲ遺跡終了確認を行う。

(2) 調査方法

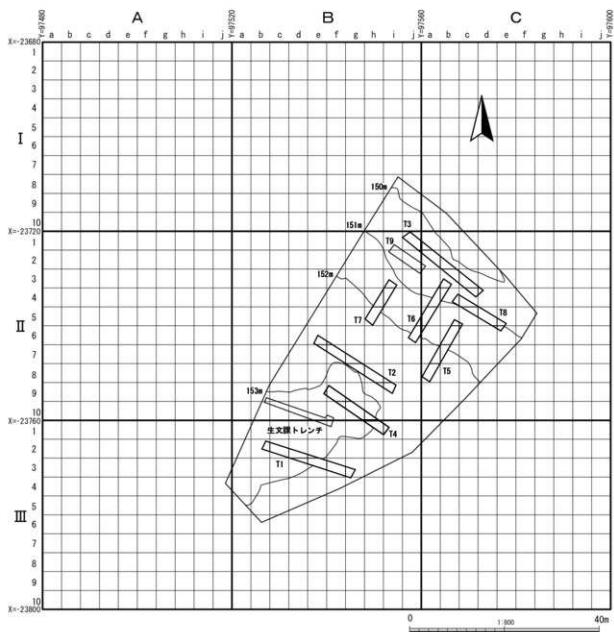
①グリッドの設定

遺物の取り上げや遺構の平面的位置の把握のため、青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡のそれぞれでグリッドを設定した。大グリッドは40m間隔で南北のラインをⅠ～Ⅲのローマ数字、東西のラインをA～Cの大文字アルファベットで表した。また、小グリッドは4m間隔で南北のラインを1～10のアラビ

I 野外調査

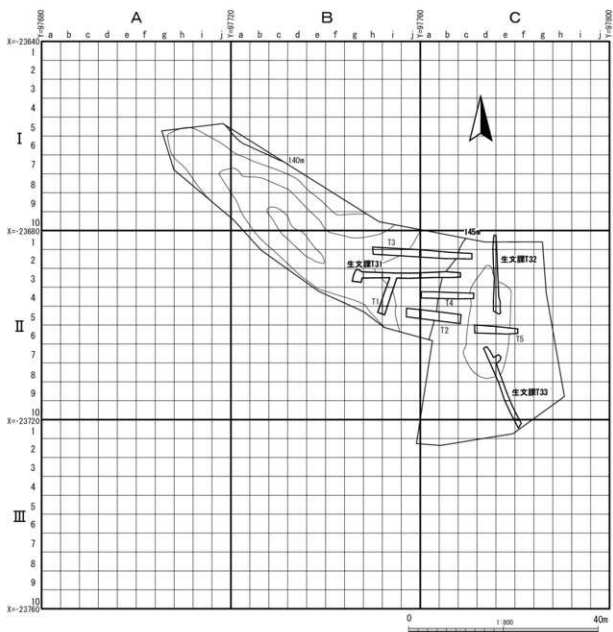


第5図 グリッド・トレンチ配置図(青野滝北I)



第6図 グリッド・トレンチ配置図（青野滝北Ⅱ）

I 野外調査



第7図 グリッド・トレンチ配置図（青野滝北Ⅲ）

A数字、東西のラインをa～jの小文字アルファベットで表した。グリッドは全て北西隅を原点とし、各グリッドの名称はこの原点の大グリッドと小グリッドの名称を組み合わせて使用した（例えばIA1aなど）。なお、基準点を任意のグリッドの原点に打設し（委託）、それを基準として発掘調査の測量を行った。今回の発掘調査における座標値、標高値は全て世界測地系を用いている。

②雑部撤去・表土掘削・遺構検出

調査前の現況は3遺跡とも山林で、調査開始前には調査範囲の伐採は終了していた。各遺跡の調査は、この伐採によって生じた雑物（伐採木の枝葉等）を人力で撤去することから開始した。雑物撤去終了後は、表土の厚さ、遺構検出面までの深さ、遺構の有無、遺物の出土状況などを確認するために試掘トレンチを設定し、人力で掘削を行った。この結果を受け、遺物が多く出土するⅢ層上面までを重機を使用して除去した。遺構の検出作業は、鋤簾などの道具を使用して人力で行った。なお、青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡とも、Ⅲ層の堆積土と遺構埋土の土が酷似しており、遺構の平面的な輪郭を把握するのが困難であった。そのため、土の質感や遺物の出土状況などから遺構の存在が窺われる場所ではトレンチを入れ、床面や壁面を検出することによって遺構の存在を把握するものもあった。

③遺構精査・記録

検出した遺構は、半裁や土層観察用のベルトを設定して掘削を行った。土層の記録を実測図と写真で取り、完掘後に遺構の全景写真撮影と平面実測を行った。平面実測は電子平板（「遺構くん」（株）CUBIC製）を用いて行った。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（キャノン製）と35mmフィルムカメラ（NIKON製）を中心に、6×9判カメラ（FUJ I製）も併用して行った。また、調査区の全景写真はセナナ機による空撮を委託した。

④遺構の名称

遺構の名称は種別ごとに下記の略号を使用し、遺跡ごとに番号を付与した。なお、室内整理の段階で一部の遺構は名称の変更を行っている。

SI：壁穴住居跡、SK：土坑、SW：炭窯、SX：焼土遺構・性格不明遺構、PP：遺構内ピット

2 室内整理

室内整理作業は、平成26年8月1日から平成27年3月31日まで当センター内にて行った。8月時点では青野滝北Ⅰ、Ⅲ遺跡の野外調査を行っていたため、調査が終了していた青野滝北Ⅱ遺跡の整理作業から着手した。

遺構

野外調査中に作成した手書きの断面図はデジタルトレースを行い、電子平板で作成した平面図と共にコンピュータ上で合成・修正・図版組を行った。作成したデジタル図版はEPS形式で保存している。

遺物

水洗後に注記・接合を行い、必要なものは石膏を使用して復元した。残存状況の良いものや土器形式などが判別できる特徴をもつものを中心に掲載遺物を選択し、実測、写真撮影を行った。実測は原寸大を基本とし、ロッドリングベンによるトレース後に図版組を行った。また、縄文土器や土製品の文様は湿拓により採拓した。全ての遺物は掲載遺物と不掲載遺物に分けて当センターの所定の場所で保管している。

3 基本層序

写真

野外調査において撮影したフィルムは現像してアルバムに保管した。デジタル写真はRAW画像を当センターの保管用HDDに保存している。遺物写真は、当センター内において写真技師がデジタル一眼レフカメラで撮影を行った。撮影した画像は保管用HDDに保存している。

3 基本層序

青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡の基本層序は3遺跡とも概ね共通しており、まとめて示すこととする。

表土（Ⅰ層）の下はⅢ層であることが多く、Ⅱ層はごく部分的に薄く堆積しているのが確認できる程度である。Ⅲ層はブロック状の十和田中振火山灰を含む黄褐色土で、ここを遺構検出面として調査を行った。Ⅲ層で遺構が確認できなかった箇所にはトレンチを入れ、Ⅳ層での検出作業を行った。

Ⅰ層 10YR2/3 黒褐色シルト（表土） 粘性弱 しまり疎 腐葉土 層厚20～30cm

Ⅱ層 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり中 層厚5～10cm

Ⅲ層 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 ブロック状の十和田中振火山灰を含む 層厚30～40cm

Ⅳ層 10YR6/8 明黄褐色土 粘性強 しまり密 層厚30～50cm

Ⅴ層 10YR6/8 明黄褐色土 粘性強 しまり密 橙色（5YR6/8）礫を多く含む 層厚不明



第8図 基本層序柱状図

IV 青野滝北 I 遺跡

1 概 要

青野滝北 I 遺跡では、竪穴住居跡 15 棟、土坑 12 基を検出した。調査区の南端は西から延びる尾根の先端となっており、竪穴住居跡の多くはこの尾根の北麓平坦部で検出した。遺構検出面としたⅢ層は部分的に十和田中渾火山灰をブロック状に含む黄褐色土である。これに対して、遺構埋土も黄褐色～褐色土のものが多く、遺構検出作業（ジョレンがけ）において平面形をとらえることは困難であった。そのため、多くの遺構はトレンチにて床面や炉、壁を確認して精査を開始した。遺構が集中している箇所における検出面の標高は、概ね 160 m である。

2 検 出 遺 構

(1) 竪 穴 住 居 跡

S101 竪穴住居跡（第 10・11 図、写真図版 2）

〈位置〉調査区南寄りのⅢ B 5 a グリッド付近に位置する。

〈検出状況〉生涯学習文化課による試掘トレンチで遺構の存在が確認されていた。この試掘トレンチを掘削した結果、壁の立ち上がりと床面が確認できたため、十字にベルトを設定し、精査を行った。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉西側の一部は調査区外へと広がるが、規模は南北方向が 6.3 m、東西方向が概ね 6.4 m の円形を呈する。

〈埋土〉堆積土は 10 層に分層した。褐色土が主体となり、中～下位では焼土ブロックや炭化物を多く含む箇所が見られる。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉北壁は残存状況が悪く、立ち上がりは不明瞭であるが、南壁と同様にはほぼ直立すると考えられる。床面は北半が若干下がっている。南半の一部では硬化面を確認した。貼床は施されていない。

〈柱穴〉4 個の柱穴を検出した。PP01～PP03 は本遺構に付随すると考えられるが、PP04 に関しては不明である。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね 160 m 前後である。PP01 の断面では柱痕跡が確認できた。堆積土は褐色～黄褐色が主体で、PP02 では暗褐色土の堆積が見られる。

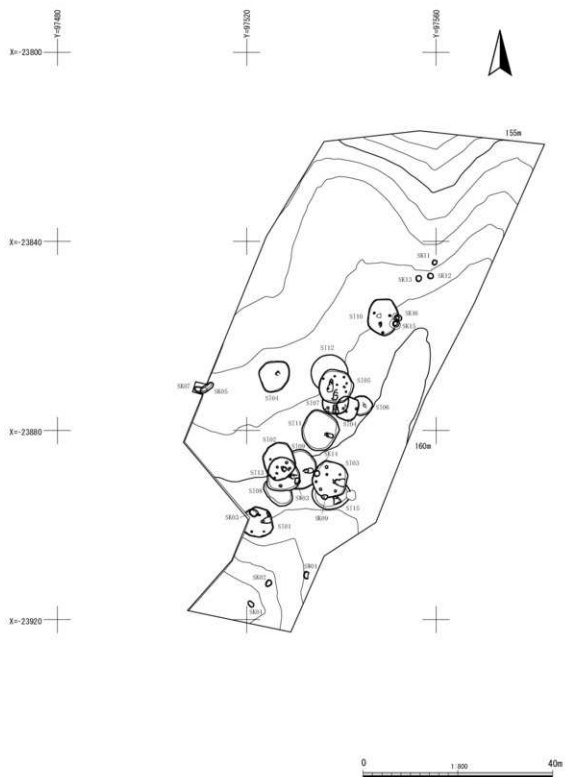
〈炉〉東壁際に石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は東西が約 2 m、南北が約 1.3 m である。石囲部は角礫で構成され、矩形を呈する。石囲部を中心とし、その西側の住居床面と前庭部の石囲部寄りでは被熱面を確認した。石囲内部における焼土の厚さは 5 cm 程度である。

〈重複〉SK03 と重複しており、本遺構が古い。

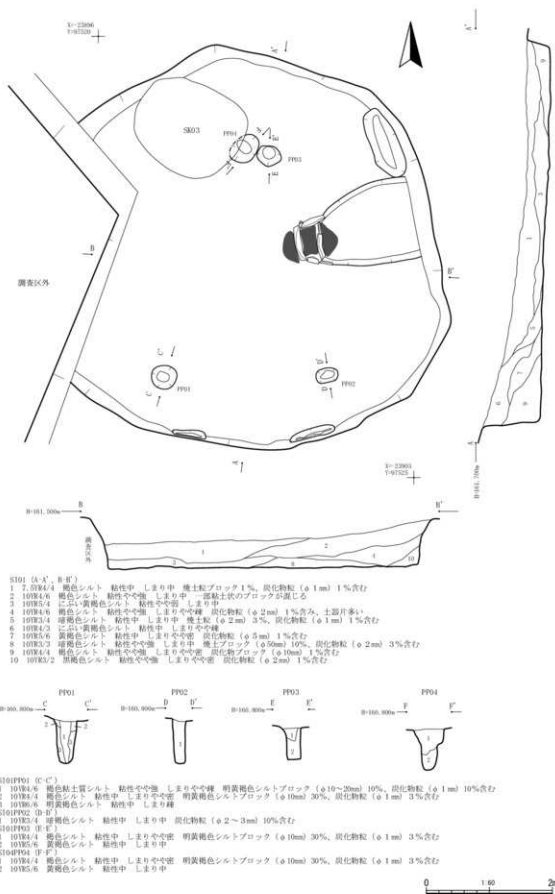
〈出土遺物〉縄文土器、石器、石製品が出土している。縄文土器は 27 点を掲載した（第 32・33 図、写真図版 21）。粗製土器が多いが、26 は大木 10 式に相当すると考えられる。石器は 10 点を掲載し、そのうち 6 点を図示、4 点を写真のみの掲載とした（第 53・54・56・58 図、写真図版 40・41・50・52・56）。石製品は有効垂飾品が 1 点出土している（第 61 図、写真図版 59）。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

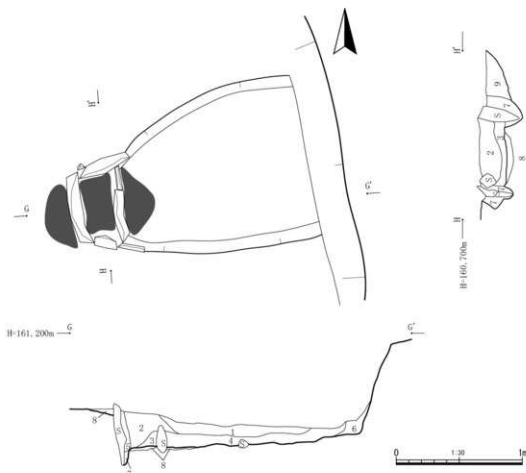
2 検出遺構



第9図 遺構位置図(青野滝北I)



第10図 SI01 (青野滝北 I)



SIO1炉 (G-G'、H-H')

- 1 101R/4 褐色シルト 粘性中 しまりやや密 焼土ブロック (φ20~30mm) 1%、炭化物ブロック (φ10~20mm) 3%含む
- 2 101R/3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり中 焼土粒 (φ1~2mm) 5%、炭化物ブロック (φ10~20mm) 5%含む
- 3 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 炭化物粒 (φ1~2mm) 1%含む
- 4 101R/3 暗褐色シルト 粘性やや強 しまり中 炭化物粒 (φ2~5mm) 10%含む
- 5 101R/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 焼土粒 (1mm未満) 1%含む
- 6 101R/5 黄褐色シルト 粘性強 しまりやや稀 炭化物ブロック (φ10mm) 1%含む
- 7 101R/5/4 に近い黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密 焼山粒 (φ1mm) 1%含む、卵石振方
- 8 2.5YR4/8 赤褐色シルト (焼土) 粘性中 しまり中 膨脹部
- 9 101R/6 褐色シルト 粘性中 しまりやや密

第11図 SIO1炉 (青野滝北I)

SIO2 竪穴住居跡 (第12・13図、写真図版3)

〈位置〉調査区南寄りのⅢB 2 b グリッド付近に位置する。

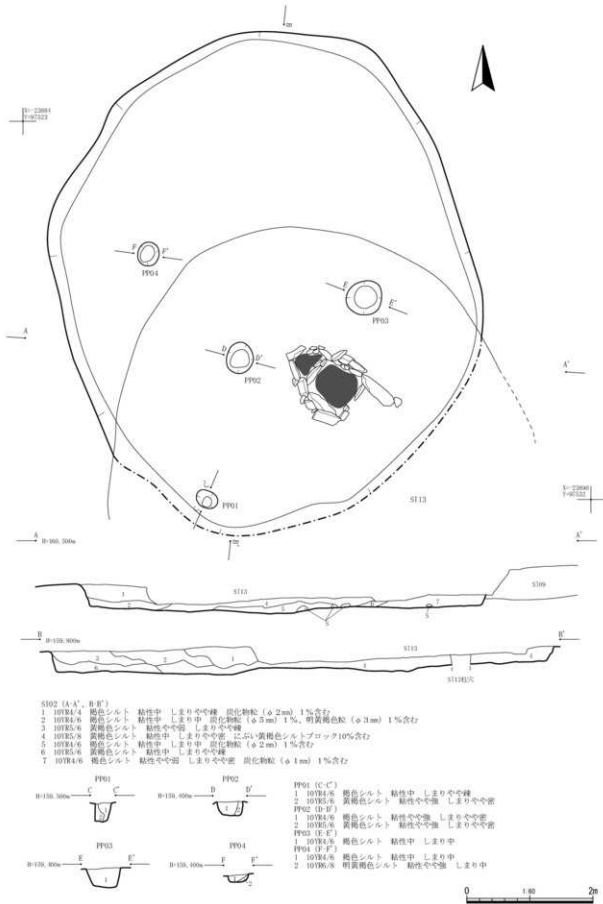
〈検出状況〉Ⅲ層上面が検出面と考えられるが、多くの遺構が重複している場所であり、検出時に平面形は確認できなかった。しかし、不整形な褐色土の広がりから、遺構の存在の可能性を推測し、ベルトを設定し、ベルトに沿ってトレンチ状に掘り下げたところ、本遺構の炉を検出した。なお、このトレンチ断面では本遺構の上にSII3の存在を確認している。

〈規模・形状〉規模は概ね南北方向が7.7m、東西方向が6.7mの円形を呈する。

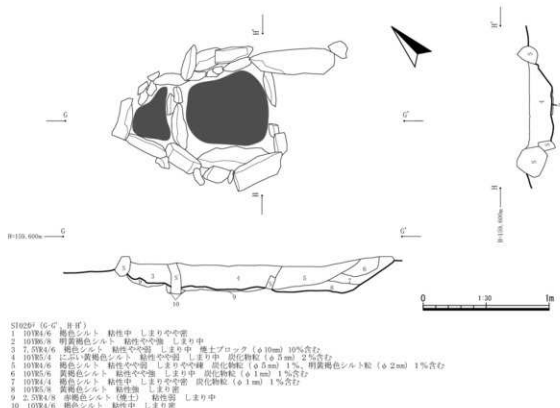
〈埋土〉7層に分層した。上位はSII3により削平されている。堆積土は褐色～黄褐色土が主体であり、自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉全体的に壁の残存状況は不良で立ち上がりは不明瞭であるが、断面を観察した結果、ほぼ直立すると考えられる。床は硬化面が確認できず、炉跡の検出面を手掛かりとして精査した。床面はほぼ平坦であり、貼床は施されていない。

〈柱穴〉4個の柱穴を検出した。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね159.1m前後であるが位置関係から推測してPP01、PP03、PP04は本遺構に付随すると考えられる。PP02に関しては、位置関係が



第 12 図 SI02 (青野滝北 I)



第13図 SI02 炉 (青野滝北I)

ら SI13 に付随する可能性があるが、底面標高は本遺構の柱穴に近い。堆積土は褐色～黄褐色が主体である。

〈炉〉南東部に二つの石囲部と、前庭部からなる複式炉を検出した。規模は長径が約 2.3 m、短径が約 1 m である。石囲部は角礎で構成され、一つは台形、もう一つは方形を呈する。いずれの石囲部底面は被熱しており、焼土の広がりを確認した。焼土の厚さは最大で 4 cm 程度である。なお、石囲部の先端に褐色土の広がりを確認しており、土器埋設部の可能性があったが、出土遺物はない。

〈重複〉SI09、SI13 と重複し、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 5 点を掲載した (第 33 図、写真図版 22)。晩期と思われる土器 (28) が出土しているが、29～31 は大木 9～10 式に相当すると思われる。石器は 8 点を掲載し、そのうち 4 点を図示、4 点を写真のみの掲載とした (第 54・56 図、写真図版 41・50・52・56)。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

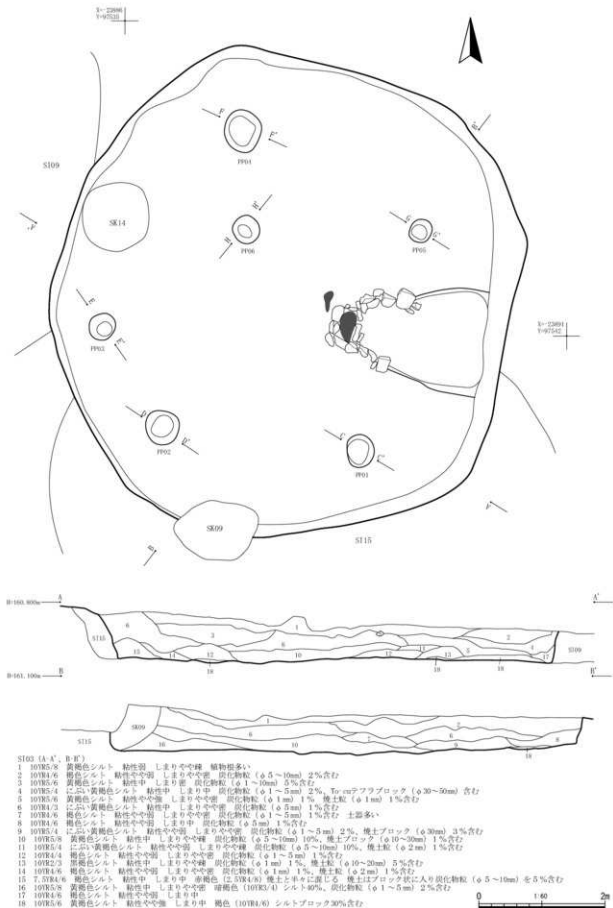
SI03 竪穴住居跡 (第 14・15 図、写真図版 4)

〈位置〉調査区南寄りのⅢ B 3 e グリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時には明瞭な平面形を把握できなかったが、遺物が多く出土する染み状の不整形な褐色土の広がりを確認し、ベルトを設定して精査を開始した。検出面はⅢ層上面である。

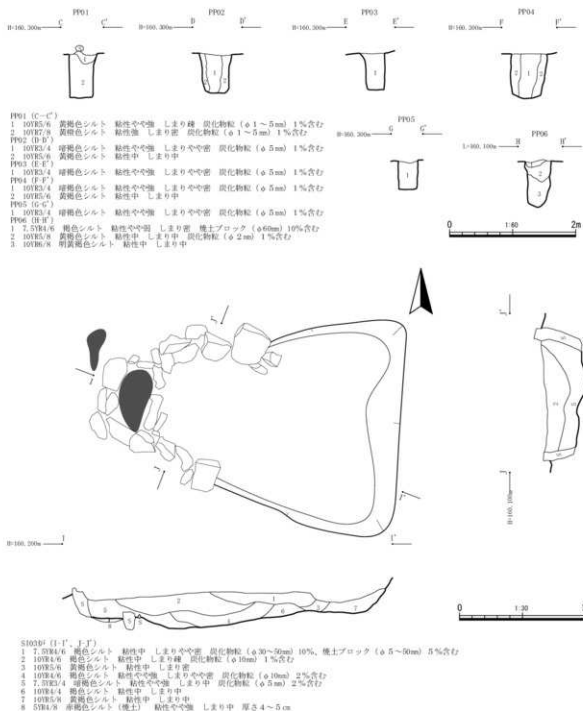
〈規模・形状〉規模は南北方向が 7.6 m、東西方向が 7.4 m の円形を呈する。

〈埋土〉18 層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体であり、ほぼ全体に炭化物粒を含んでいる。



第 14 図 S103 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第15図 SI03柱穴、炉（青野滝北I）

また、埋土中位～下位にかけては焼土粒・ブロックを含んでいる。三角堆積が見られることから、基本的には自然堆積と考えられるが、西北部埋土では中位～下位にかけて多量の礫や土器が出土している。これらは本遺構の埋没過程において、他の場所から廃棄された人為的なものと考えられる。〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は局所的に硬化面が確認できたものの、貼床は施されていない。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉6個の柱穴を検出した。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね159.2m～159.3m前後である。位置関係から推測して全て本遺構に付随するものと考えられる。PP02とPP04では断面で柱痕跡を確認した。PP03とPP05の堆積土は、この柱痕跡と類似している。

- 〈炉〉東壁際に石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は東西が約2.4m、南北が約1.6mである。石囲部は角礫で構成され、矩形を呈する。石組みは石囲部の東側まで続いており、部分的な焼土の広がりもあることから、二つの石囲部を持つ炉であった可能性がある。石囲内部における焼土の厚さは最大で5cm程度である。
- 〈重複〉SI09、SI15、SK09、SK14と重複している。本遺構はSI09、SI15より新しく、SK09よりも古い。SK14は本遺構の床面で検出しているが、本遺構の埋土を掘り込んでいた可能性もある。したがって、新旧関係は不明である。
- 〈出土遺物〉縄文土器、石器、石製品が出土している。土器は46点を掲載した（第33～37図、写真図版22～25）。一部に弥生時代前期の土器が紛れ込んでいるが、縄文時代中期後葉の大木10式が大勢を占めるとされる。石器は23点を掲載し、そのうち13点を図示、10点を写真のみの掲載とした（第53～55・57・59・60図、写真図版40・41・50～52・54・56・58）。石製品は有孔垂飾品（448）と石棒（449）が出土している（第61図、写真図版59）。
- 〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

（鈴木博之）

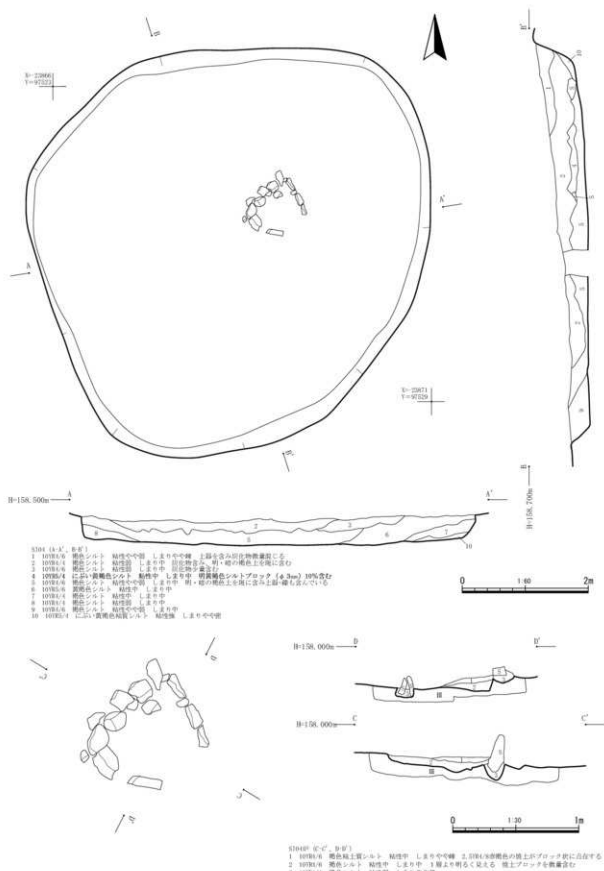
SI04 竪穴住居跡（第16図、写真図版5）

- 〈位置〉調査区中央部から西寄り、II B 2 g グリッドに位置する。本調査区では遺構の密集する箇所から北西方向に離れて存在する。地形は平坦面である。
- 〈検出状況〉初期のトレンチでは検出できず、重機で全面表土除去後、不定形な暗褐色土の広がりが確認できた。地形を考慮してこの広がりに南北ベルトを設定し掘り進めた結果、石囲炉を検出して住居跡であると認定した。
- 〈規模・形状〉平面形は最大径約7mの円形基調の不定形を呈する。
- 〈埋土〉褐色土と黄褐色土を主体とする。一部暗褐色土、褐色土と黄褐色土が混合する箇所がある。上位には炭化物を含む層が多い。中位に土器や礫を多く含む層があり、この部分の人為堆積が疑われる。
- 〈壁・床〉壁はやや外反しながら立ち上がっている。床面としては総じて軟らかい。後述するが柱穴を検出するために何段階かに分けて床面を下げてもどの面でも同じ状況であった。炉のレベルから、かろうじて床面と思われる面で実測した。
- 〈柱穴〉検出できなかった。平面実測後もだめ押しで床面を下げたが、検出できなかった。
- 〈炉〉端部を欠いており正確な形は不明であるが、一辺約70cm前後の、方形もしくは三角形の石囲炉である。焼土は炉内において部分的に見られる。炉石の中には被熱のため変色したものもある。
- 〈重複〉なし。
- 〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は12点を掲載した（第37・38図、写真図版25・26）。大木9～10式が大勢を占めるとされる。石器は6点を掲載し、そのうち3点を図示、3点を写真のみの掲載とした（第53・54図、写真図版40・42）。
- 〈時期〉縄文時代中期後葉と思われる。

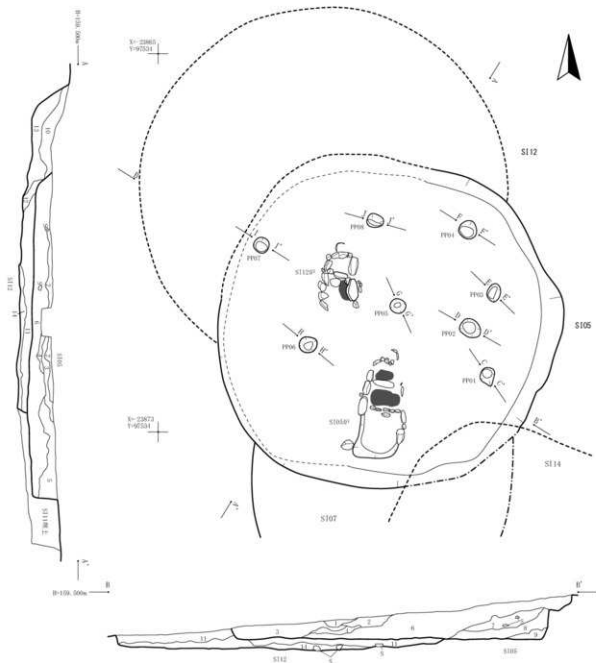
SI05 竪穴住居跡（第17・18図、写真図版6・7）

- 〈位置〉調査区中央部やや南寄りの遺構が集中する範囲の北端でII B 8 e グリッド周辺に位置する。西北に下る緩斜面上である。

2 検出遺構



第 16 図 S104 (青野滝北 I)



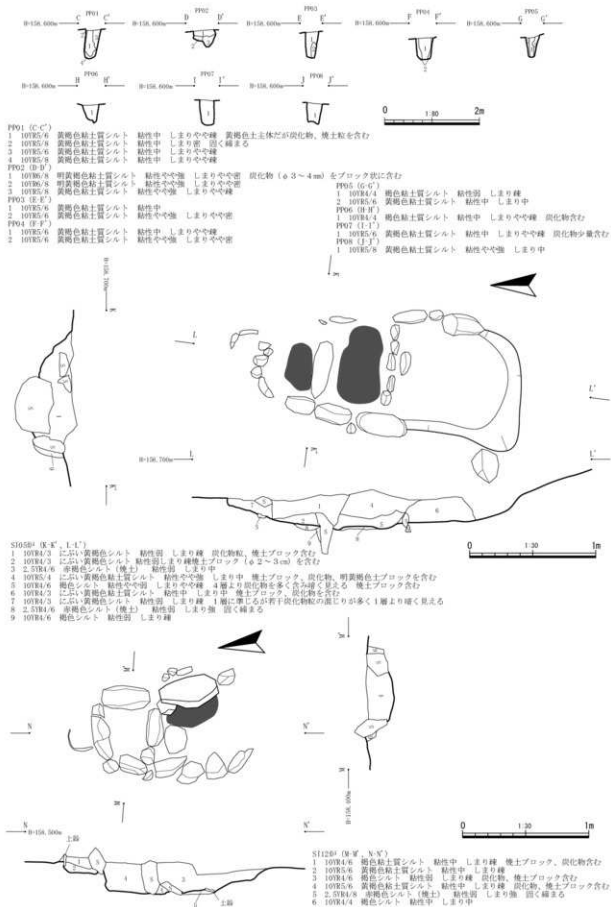
S105、S12 (A・B・R・B')

- | | | | | | |
|----|---------|----------|-------|--------|-------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性弱 | しまり締 | 草木根多い |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや締 | 草木根多い |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや締 | 炭化物少量含む |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや締 | |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 6 | 10YR2/4 | 黒褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性弱 | しまりやや締 | 炭、機土ブロック、炭化物を多く含む |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 全体的に均して見える。機土を含む |
| 9 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 炭化物を多く含む |
| 10 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまり中 | |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 炭化物を含む |
| 12 | 10YR4/6 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 13 | 10YR4/6 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまりやや弱 | |
| 14 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性やや弱 | しまりやや締 | 機土ブロックが多く混入 |

第1～9層・・・S105機土
 10～14層・・・S12機土

第17図 S105、12 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第18図 SI05柱穴、炉、SI12炉(青野滝北I)

- 〈検出状況〉SI12床面精査中にもう一つの石組部を検出し、さらに検出面を広げると複式炉の形状となったため、SI12とは別の住居跡と認定した。
- 〈規模・形状〉本遺構より古いと思われるSI12の精査が進んでいたため、本遺構の壁の大半は気づかれないままに壊された可能性が高い。残存箇所から類推して円形基調の径約7m規模の住居跡となるようである。
- 〈埋土〉前項のSI12埋土断面観察ベルトと共通するが、埋土下部の一部は前項のSI12の埋土と思われる、本遺構の埋土は上位の部分であると思われる。よって前述の通り、大量の焼土、炭化物が斜に流れ込んでいる箇所が観察された。
- 〈壁・床〉一部SI12と共通する部分もあるかもしれない。壁は検出した部分では垂直に立ち上がる。床面には固く締まる面も見られるが均一ではない。
- 〈柱穴〉8個の柱穴を検出したが、切り合いの中で、どの柱穴がどの住居に伴うものかは、図面上でしか推測できない状況である。図面上PP01～PP06までを本遺構に伴うものとした。
- 〈炉〉石囲い部を2室持ち前庭部につながる複式炉である。前庭部にも両側に石が設置されていたようであるが、片方側の石がなくなっている。焼土は二つの石囲部両方に形成されており、前庭部の石囲部境の箇所にも薄く形成されている。石囲部先端の外側に3個の石が並んで検出されたが、作り直した跡かもしれない。炉の規模は前庭部を含めた長軸は2m強、2室ある石囲部で先端部にある奥室は蒲鉾形を呈し、内径で約40cm×40cm、前庭部寄りの前室は方形で内径約70cm×40cmとなる。奥室、前室、前庭部の境には礫がしっかり残されている。焼土は2室とも形成されている。前庭部は非常に固く締まる。
- 〈重複〉SI12の上に作られており、南側のSI07を切っている。
- 〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土しているが、前述のとおり、重複しているSI12と同時に精査を行ったため、遺物も一つの遺構として取り上げているものがほとんどである。そのため、ここで示す遺物にはSI12から出土したものも含まれていることをあらかじめお断りしておく。SI05とSI12を合わせ、縄文土器は23点を掲載した(第39～41図、写真図版26～29)。大木9～10式前半のものが大勢を占められる。石器は21点を掲載し、そのうち7点を図示、14点を写真のみの掲載とした(第53～55図、写真図版40・42・50～54・57)。
- 〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉と思われる。

SI12 竪穴住居跡 (第17・18図、写真図版6・7)

- 〈位置〉調査区中央部やや南寄りの遺構が集中する範囲の北端でII B 8 e グリッドに位置する。西北に下る緩斜面上である。(斜度約4.7度)
- 〈検出状況〉遺構が集中する範囲の北端で最初に検出したのが本遺構である。本遺構だけではないが、表土除去後にははっきりしたプランをとらえることは難しかった。トレンチを縦横に入れ状況を探った。本遺構もトレンチをいれたことにより石囲炉を検出し、住居跡であることが確認された。本遺構の床精査中にもう1基の複式炉を検出し、この場所が2棟の切り合いであることを確認した。さらにその後立ち上がりの壁を精査中に一段高い箇所でもう1基の複式炉を検出し、都合3棟の重複であることが判明した。さらに南西方向に2棟の住居が存在することが後々わかった。
- 〈規模・形状〉3棟の切り合いであり全体像はつかめなかったが、炉の規模から類推して径7m強の規模の円形基調となる模様である。
- 〈埋土〉基本的には下位から褐色土、暗褐色土・黒褐色土となるが、東側の斜面上位には大量の焼土、

炭化物、径20cm～30cmの礫が多数流れ込むように斜に入り込んでいる。この焼土類が入り始める境目が上端に近いものと思われる。遺物も多く含まれている。本遺構の埋土はこれらの埋土の下位の一部である。上位は前述のSI05の埋土である可能性が高い。

〈壁・床〉壁は、確認できた箇所ではほぼ垂直に立ち上がり、最深で75cmを測る。床は、炉の周辺で部分的に固く締まる面がある。

〈柱穴〉重複するSI05とレベル差が少ないため、都合8個の柱穴を検出したが、どの柱穴がどの住居に伴うものかは、図面上でしか推測できない状況である。PP07とPP08の2個は該当すると思われる。

〈炉〉複式炉である。石囲部の先端外側に土器埋設している。また前庭部に該当する箇所の両側にも石が埋め込んである。土器埋設部分に最大厚10cmの焼土が斜に発達している。石囲部には焼土と炭化物が混在した埋土が堆積している。前庭部床面にも焼土が発達していることから、ここは前庭部ではなく、もう一つの石囲部かもしれない。規模は土器埋設部で径約20cm、石囲部が最大内径約30cm×40cmで方形、前庭部もしくはもう一つの石囲部で最大内幅約60cmとなる。

〈重複〉3棟が重複している箇所であるが、本遺構に関しては、SI05との切り合いである。本遺構の炉とSI05の炉とのレベル差及び埋土の状況から、本遺構が埋まった後にSI05の住居が作られたと判断した。

〈出土遺物〉重複しているSI05と同時に精査を行ったため、遺物も不分別で取り上げている。本遺構及び、SI05の出土遺物はSI05の項目でまとめて記した。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から、縄文時代中期後葉と思われる。

SI06 竪穴住居跡（第19図、写真図版8）

〈位置〉調査区中央部からやや南東寄り、II B 9 g グリッドに位置する。遺構が密集する範囲の北東端である。

〈検出状況〉表土除去後の検出作業では確認できず、SI14の精査中に石組みを検出し、ベルトを設定して精査した結果、石囲炉を持つもう一つの住居と認定した。

〈規模・形状〉平面形は残存部から類推して、径4m前後の円形を呈すると思われる。

〈埋土〉褐色土を主体とするが、中央部の中位には炭化物や拳大の礫を含む層がある。自然堆積に人為堆積が加わっている模様である。

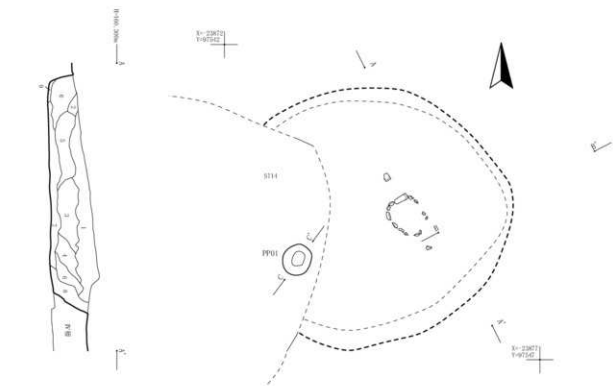
〈壁・床〉床は一部堅く締まる箇所があり、壁際に向かって緩やかに上昇している。検出できた壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

〈柱穴〉石囲炉から西側約1.5mの箇所に1個検出した。開口部径48cm、底部径25cm、深さ30cmで、埋土には炭化物が混じる。

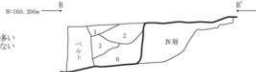
〈炉〉方形の石囲炉であり、炉石は大きいものでも20cm前後の長さのもの2個で他は拳大の礫を多用している。石皿片1、砥石片1あり。礫と礫の間には空間があるが、一部を除いては抜き取り跡とは考えにくい。炉石の代用として土器片が1点埋め込まれている箇所もある。上面に炭化物は散乱するが、焼土は炉の底面下20cmの部分までブロック状に散在するが、総じて発達はよくなく炉内の底面も堅く締まっていない。

〈重複〉SI14と床面レベルをほぼ同じくして切り合っているが、前述の通り、本遺構が古いと思われる。

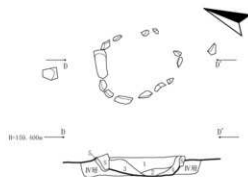
〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は4点を掲載した（第41図、写真図版29）。大木10式が大勢を占める。石器は石皿（435）を1点、写真のみ掲載した（写真図版56）。



- SIO6 (A-A', B-B')
- | | | | | | |
|---|---------|-----------|-------|--------|-------------------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 暗褐色土が混じる |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | この部分だけ混じりがない |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色シルト | 粘性やや密 | しまりやや密 | 炭化物、黄褐色土ブロックを含む |
| 4 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 4層に準じるが硬さを欠く |
| 5 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 拳太の硬さのみ層より暗褐色土の混じりが多い |
| 6 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 1層に準じるが1層より暗褐色土の混じりが少ない |
| 7 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 黄褐色土が拳太のブロックで混入 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 線土層が入り交じる |
| 9 | 10YR5/6 | 黄褐色粘土質シルト | 粘性やや密 | しまり密 | |

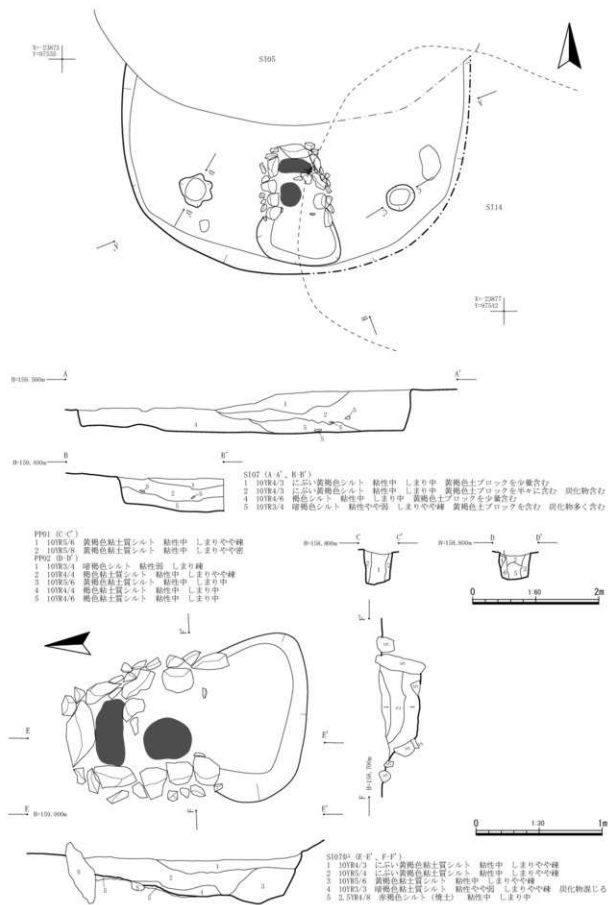


- PP01 (C-C')
- | | | | | | |
|---|---------|----------|-----|--------|----------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色粘質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 黄褐色粘質シルトブロック含む |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 3 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 炭化物少量含む |



- SIO6 (D-D')
- | | | | | | |
|---|----------|-----------|-----|--------|----------------|
| 1 | 10YR5/4 | 灰黄色粘土質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 褐色土が混じる |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 炭化物が混じる |
| 3 | 7.5YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 機土ブロック、炭化物が混じる |
| 4 | 10YR5/6 | 黄褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | |
| 5 | 10YR5/4 | 灰黄色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | |

第 19 図 SIO6 (青野滝北 I)



第20図 SI07 (青野滝北I)

〈時期〉出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。

SI07 竪穴住居跡（第20図、写真図版9）

〈位置〉調査区中央部やや南寄りのⅡB9eグリッドに位置する。西北方向に下る緩斜面上である。

遺構が密集する箇所である。

〈検出状況〉SI05 精査中に石組部を検出し、ベルトを設定して精査した結果、複式炉をもつ住居と認定した。

〈規模・形状〉四半分弱のみの検出である。検出した部分からの推定では、やや隅丸の円形を呈すると思われる。規模は5m強の径となる模様。

〈埋土〉埋土は黄褐色土が主体であるが、中央部に暗褐色、褐色土が炭化物や礫混じりで堆積する。

〈壁・床〉残存部ではやや垂直気味に立ち上がる。

〈柱穴〉複式炉の前庭部よりの両側に2個検出した。深さはそれぞれ100cm、75cmである。前庭部の右方の柱穴は検出した段階で円形のプランとはならず、掘り上げた結果いびつな角の取れた星形となった。

〈炉〉石囲部と前庭部をもつ複式炉である。規模は前庭部を含めた長軸は2m弱、石囲部の内径で最大幅75cmである。石囲部は2室あり先端部の奥室は方形に石が組まれている。前庭部寄りの前室はハの字状に石が組まれ前庭部の広がりに連続する。奥室、前室、前庭部の境には礫の残りが少ない。意図的に抜き取られたものかもしれない。焼土は2室とも形成されている。前庭部は非常に固く締まる。

〈重複〉SI14、SI05と重複している。SI14との関係は前述のとおり本遺構の埋土の上にSI14の床が作られているので本遺構の方が古い。SI05との関係は、本遺構の複式炉の先端部より先の床部分がSI05によって切られていて検出できなかった。よってSI05より本遺構の方が古いと判断した。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は9点を掲載した（第41・42図、写真図版29・30）。明確に型式を判別できるものは少ないが、大木9～10式が大勢を占めるとと思われる。石器は15点を掲載し、そのうち5点を図示、10点を写真のみの掲載とした（第55・58・59図、写真図版42・51～54・57）。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

（古館貞身）

SI08 竪穴住居跡（第21図、写真図版10）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB4bグリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時に平面形は確認できず、SI02の炉を検出したトレンチと直行するように設定したトレンチの断面にて確認した。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉北半部の大半はSI13に削平されているが、概ね長軸が6.7m、短軸が7.4mの楕円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉6層に分層した。堆積土は褐色土が主体である。三角堆積が見られ、自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床はSI13との接点付近で局所的に硬化面が確認できたものの、貼床は施されていない。床面は南から北に向かって緩やかに下っている。

〈柱穴〉なし。

〈炉〉なし。

〈重複〉SI13と重複しており、本遺構が古い。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は12点を掲載した(第42図、写真図版30)。

大木9式が大勢を占められる。石器は4点を掲載し、そのうち3点を図示、1点を写真のみの掲載とした(第54・59図、写真図版43・58)。

〈時期〉全容は不明な点が多いが、出土遺物から縄文時代中期後葉以前の遺構と考えられる。

SI13 竪穴住居跡(第21、22図、写真図版14)

〈位置〉調査区南寄りのⅢB3bグリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時は小規模な褐色の染み状の平面形を確認し、土坑と判断して精査を始めた。

精査の過程で当初想定した規模よりも平面形が広がることがわかったため、ベルトを再設定し、竪穴住居跡として精査を継続した。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉南北方向が7.1m、東西方向が6.8mの円形を呈する。

〈埋土〉9層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体で、全体に炭化物粒を含み、締まりの強い堆積土である。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は局所的に硬化しているが、貼床は施されていない。床面は南から北に向かって緩やかに下っている。

〈柱穴〉3個の柱穴を検出した。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね158.9m前後である。全て本遺構に付随するものと考えられる。明瞭な柱痕跡は確認できない。堆積土は、黄褐色から明黄褐色が主体である。

〈炉〉東壁際のSI09と接する付近に二つの石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は長軸が約2.4m、短軸が約1.2mである。石囲部は角礫で構成されている。炉石の一部は失われており、全体像が不明ではあるが、燃焼部が広がる前庭部側にもう一つの石囲部があった可能性がある。石囲内部における焼土の厚さは最大で10cm程度である。

〈重複〉SI02、SI08、SI09と重複しており、断面を観察した結果、本遺構が一番新しいと考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は15点を掲載した(第47・48図、写真図版35・36)。大木10式が大勢を占める。石器は18点を掲載し、そのうち6点を図示、12点を写真のみの掲載とした(第55・56・58図、写真図版45・46・51・53・55～57)。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と推定できる。

SI09 竪穴住居跡(第23図、写真図版11)

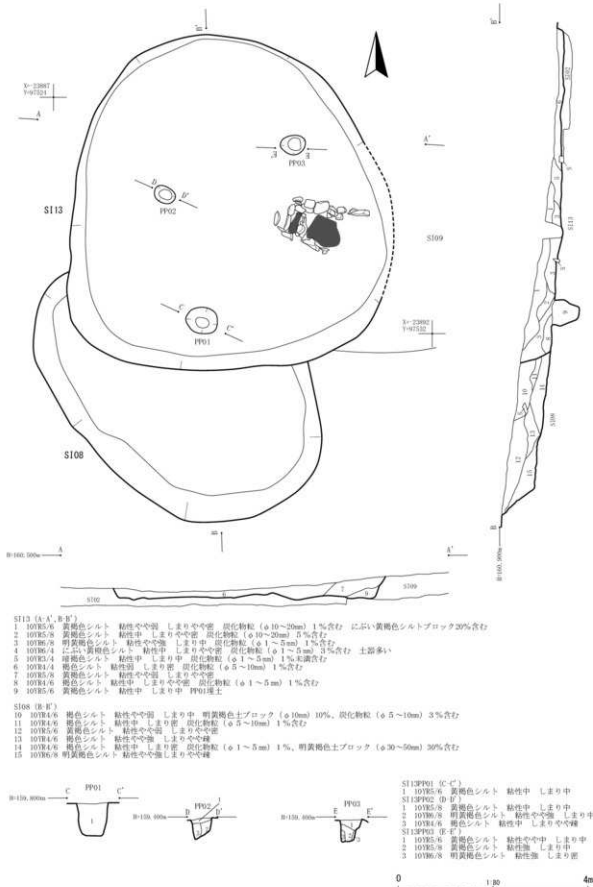
〈位置〉調査区南寄りのⅢB2cグリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時に平面形は確認できず、SI02の炉を検出したトレンチを延長して本遺構の炉を確認した。また、SI13の精査過程で東壁の立ち上がりが確認できなかったことで重複遺構があると判断した。検出面はⅢ層上面である。

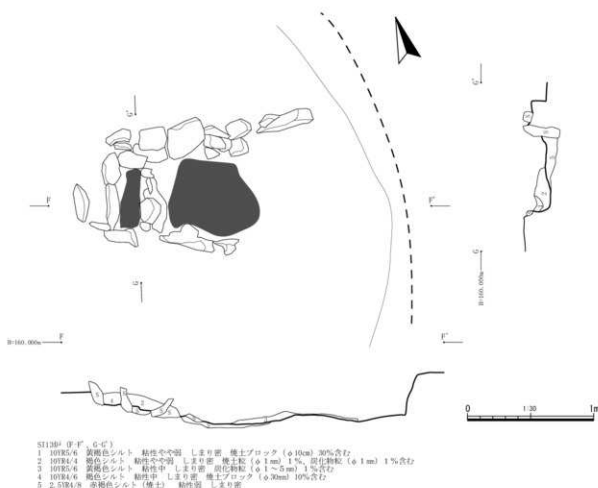
〈規模・形状〉西半はSI02とSI13、東半の一部はSI03に削平されているが、残存している南北軸の規模は8.3mで、平面形は円形を呈するものと推測される。

〈埋土〉残存している箇所にはベルトを設定して堆積土の観察を行い、6層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体である。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は炉付近が局所的に硬化しているが、貼床は施されていない。ほぼ平坦な床面である。



第21図 SI08、13 (青野滝北I)



第22図 SI13炉 (青野滝北I)

〈柱穴〉なし。

〈炉〉東壁際の SI03 と接する付近に石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は東西が約 2.2 m、南北が約 1 m である。石囲部は角礫と扁平な円礫で構成され、前庭部側に円礫が用いられている。炉石の一部は失われているが、本来の石囲部は、三角形もしくは台形を呈するものと円形を呈するものの二つがあったものと考えられる。石囲内部における焼土の厚さは最大で 12 cm 程度である。

〈重複〉SI03、SI02、SI13 と重複しており、断面を観察した結果、本遺構が一番古いと考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 12 点を掲載した (第 42・43 図、写真図版 30・31)。大木 9 式が大勢を占めるとと思われる。石器は 11 点を掲載し、そのうち 5 点を図示、6 点を写真のみの掲載とした (第 53・54・57 図、写真図版 40・43・52・53・55・57)。

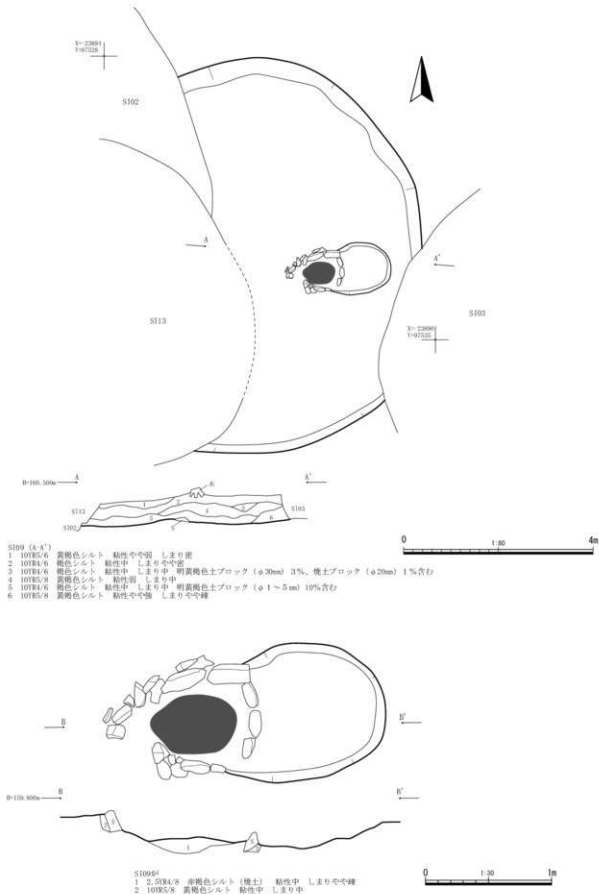
〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と推定できる。

(鈴木博之)

SI10 竪穴住居跡 (第 24・25 図、写真図版 12)

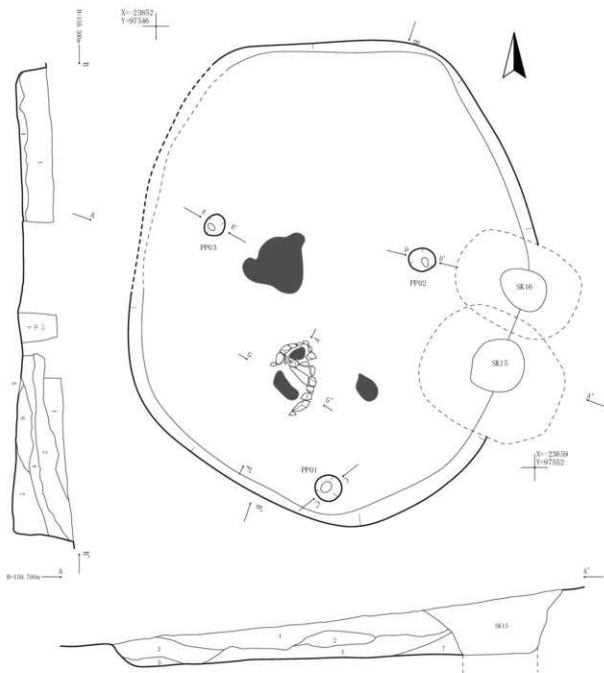
〈位置〉調査区中央からやや北寄り、竪穴住居跡が密集する範囲から若干離れた箇所にある。西北に向かって緩やかに傾斜する地形になっている。II B 5 h グリッド周辺に位置する。なおこの遺構より北側には住居跡は検出されていない。

〈検出状況〉表土除去後、III 層上面で検出作業をしたが、プランは見つけられなかった。そこで深さ 30 cm のトレンチを入れたが、検出できず念のためさらに 30 cm 深く入れたところ、石囲炉を検出し、住居跡であることを確認した。

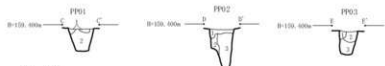


第23図 S109 (青野滝北 I)

2 検出遺構



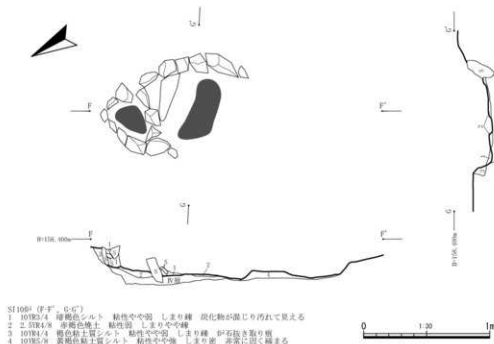
- SI10 (A-A', B-B')
- 10935.6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中 明黄褐色土ブロックが50%混在
 - 7.5195.8 明褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中 V層の硬を若干含む
 - 10934.6 褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 草木腐葉、
 - 10934.6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中 炭化物・黄褐色土粒が混じる
 - 10935.6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中
 - 10935.6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまりやや密
 - 10934.6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中



- PP01 (C-C')
- 10933.4 明褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや稀
 - 10934.4 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや稀 黄褐色土が小ブロック状に混じる
- PP02 (D-D')
- 10934.6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまりやや密 床面と同じ炭化物含む
 - 10934.6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中
 - 10934.4 褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり稀
- PP03 (E-E')
- 10935.4 濃い黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中
 - 10935.6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中
 - 10935.6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 2層よりやや明るく見える



第24図 SI10 (青野滝北I)



第25図 SI10 炉 (青野滝北 I)

〈規模・形状〉西北方向の斜面下部位での立ち上がりは確認できなかったが、残存する部分で径最大値 8 m の楕円形を呈する。

〈埋土〉下位には地山崩落と思われる層がある。褐色土より黄褐色土の方が多く、一部斜面上位から斜に明赤褐色の堆積が見られる。焼土とは確認できなかったがブロック状に入り込んでおり、自然堆積の跡に人為堆積があったことが推測される。

〈壁・床〉壁は垂直に立ち上がる。深い箇所では約 90 cm を測る。床はほぼ平坦である。炉から約 1 m 離れた所に径 30 cm 前後の焼土の広がりがある。2箇所見られた。

〈柱穴〉3箇所検出した。2箇所は深さが 40 cm 程度と同規模であるが、1箇所だけ深さが 60 cm に掘られている。この他に2箇所検出したがこれらは後述するフラスコ状土坑となった。

〈炉〉石囲部を二つ持ち前庭部につながる複式炉である。前庭部につながる石囲部は炉石が数個しか残っておらず大半は抜き取られたらしい。二つの石囲い部は双方とも焼土の形成は良好である。前庭部と石囲部の境は、マウンド状になり非常に固く締まる。前庭部中央に杭穴らしきものが検出された。炉の規模は炉石の残りが悪く正確な形はとらえにくいだが、残存部から測るに長軸が約 1.9 m、先端の奥室で約 30 × 30 cm の緩い正三角形、連なる全室は約 60 × 60 cm の台形状を呈すると思われる。前庭部中央付近に杭穴を1箇所検出した。

〈重複〉本遺構の床面で検出した SK15、SK16 の 2 基のフラスコ状土坑に切られる。これらの土坑は本遺構が廃棄された後に掘られたものと思われる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 12 点を掲載した (第 44・45 図、写真図版 31～33)。明確に型式を同定できるものは少ない。石器は 6 点を掲載し、そのうち 1 点を図示、5 点を写真のみの掲載とした (第 55 図、写真図版 43・44・51・55・57)。また、石刀状の石製品 (452) が 1 点出土している (第 61 図、写真図版 59)。

〈時期〉炉の形態から縄文時代中期後葉と思われる。

SI11 竪穴住居跡 (第26図、写真図版13)

〔位置〕調査区中央部よりやや南寄りの遺構が集中する範囲のほぼ中央で、ⅢB1eグリッドに位置する。

〔検出状況〕調査後半のため押しトレンチで検出した。もともとⅢ層上面で暗褐色土の疎らな広がりが見られたので中央にトレンチを入れて確認した所検出面から40cm下げたところで礫を検出し、さらに周囲を掘り下げ、石囲炉と判定し住居跡であることを想定し十字にベルトを設定し精査に入った。

〔規模・形状〕径約7.4m×8.5mの楕円形を呈すると思われる。

〔埋土〕主体は褐色土であるが、上に暗褐色土が薄く堆積している。南側から流れ込んでいるように見える黄褐色土と褐色土には特に遺物が多く含まれている。

〔壁・床〕壁は深い箇所ではやや外傾して立ち上がり検出面からの深さは約60cmを測る。床はほぼ平坦であるが、固く締まっているわけではない。

〔柱穴〕検出されなかった。

〔炉〕石囲部と両側に石を埋め込んだ前庭部をもつ複式炉である。石囲部は2室あった模様である。

図面では先端部の石囲部からハの字状に前庭部にかけて石列が組まれているが、前室と思われる箇所と前庭部の境で段差があるため本来はこの境に石組みがあったと思われる。焼土は奥室によく発達しており、前室と思われる箇所には、底面に汚れた焼土が薄く観察された。炉の規模は前庭部まで含めた約1.9m、前室は30cm×50cmの方形、前室は約50cm×50cmの方形と思われる。前庭部両側にも石列がある。

〔重複〕なし。

〔出土遺物〕縄文土器と石器が出土している。縄文土器は23点を掲載した(第45～47図、写真図版33～35)。大木10式が大勢を占めるとされる。石器は14点を掲載し、そのうち7点を図示、7点を写真のみの掲載とした(第53・55・58図、写真図版40・44～46)。

〔時期〕炉の形態から縄文時代中期後葉と思われる。

SI14 竪穴住居跡 (第27図、写真図版15)

〔位置〕調査区中央部からやや南東寄り、ⅡB9fグリッドに位置する。本調査区では遺構の密集する箇所である。北西にかけての緩斜面であるがほぼ平坦と言ってもよいほどである。

〔検出状況〕Ⅲ層で検出できず、トレンチをいれた結果、石囲部を検出したがあまりにも規模が小さいため石囲炉とは気づかなかった。

〔規模・形状〕平面形は径4m弱の円形を呈すると思われるが、重複が激しく全体像はつかめていない。

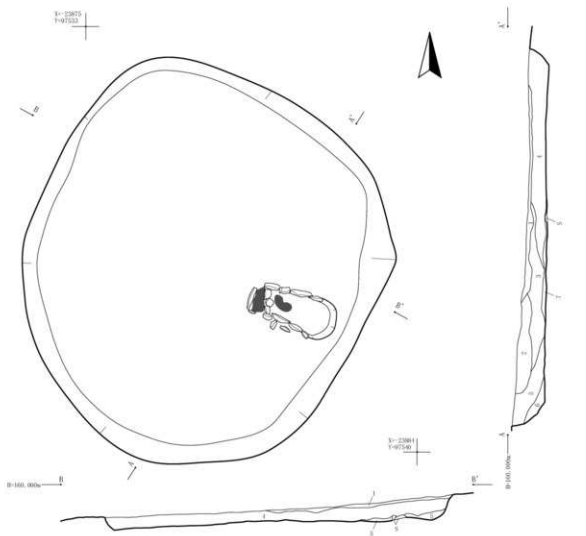
〔埋土〕暗褐色土と褐色土を主体とする。斑状に混合する箇所があり、一部は人為堆積の可能性もある。炭化物を含む層がある。

〔壁・床〕重複が激しく、壁は部分的のみ観察できた。残存部では、ほぼ直立する。大半はSI07の埋土を床面にしており、床面のしまりはあまりない。

〔柱穴〕検出できなかった。

〔炉〕方形の石囲炉である。一辺約30cmの小規模なものであり、焼土の発達は若干見られる程度である。炉の北西側縁辺部に炉石に被さる様に土器片が覆っておりこれを取り上げると、焼土ブロックと炭化物が混入した堆積が見られた。

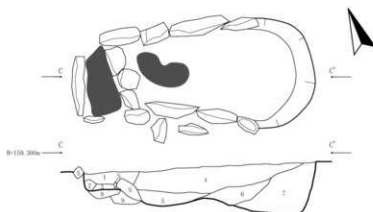
〔重複〕方形の石囲炉をもつSI06と床面レベルをほぼ同じにして切り合っているが、SI14で設定した



SI11 (A-A', B-B')

- 1 101R2/2 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり密
- 2 101R4/6 褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 炭化物粒 (φ2~5mm) 1%含む
- 3 101R5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密 炭化物粒 (φ2~5mm) 1%含む
- 4 101R4/6 褐色シルト 粘性中 しまり中
- 5 101R4/6 褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物粒 (φ2~5mm) 2%含む
- 6 101R6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密
- 7 101R5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 しまり中

0 1:80 4m

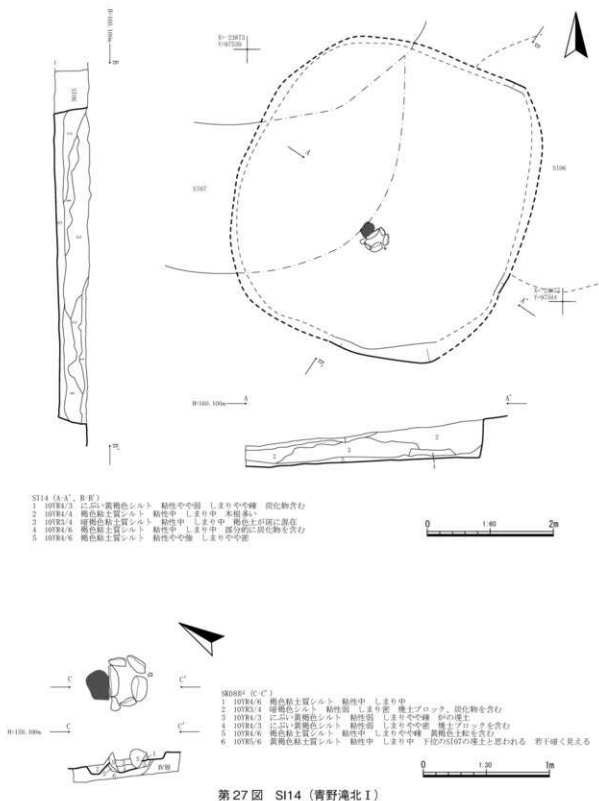


SI1191 (C-C')

- 1 7.53R4/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 上位に明褐色土ブロックが散じる
- 2 53R4/8 赤褐色シルト 粘性中 しまりやや弱
- 3 7.53R3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまりやや密 炭化物ブロック (φ20mm) 3%含む
- 4 101R4/6 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 炭化物粒 (φ1~3mm) 1%含む
- 5 7.53R4/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 4層の土ブロック状に3%散じる
- 6 101R4/8 明黄褐色シルト 粘性やや強 しまり密
- 7 101R5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密
- 8 53R5/8 明赤褐色シルト (焼土) 粘性中 しまり中
- 9 101R4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密

0 1:30 1m

第26図 SI11 (青野滝北 I)



ベルトの中で、SK06の埋土中にSK08の立ち上がりを確認した。よって本遺構がSI06より新しいと判断した。またSI07の埋土を床面にしており、SI07が埋まった後にこの住居が作られている様である。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は18点を掲載した(第48・49図、写真図版

36・37)。大木 10 式が大勢を占めると思われる。石器は 5 点を掲載し、そのうち 2 点を図示、3 点を写真のみの掲載とした（第 56・58 図、写真図版 53・55）。また、石棒（450）が 1 点出土している（第 61 図、写真図版 59）。

（時期）縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

（古館貞身）

SI15 竪穴住居跡（第 28 図、写真図版 16）

（位置）調査区南寄りのⅢB 4 e グリッド付近に位置する。

（検出状況）本遺構と重複する SI03、SK09 の精査時に断面にて存在を確認した。当初は小規模な土坑を想定したが、SI03 の南壁で炉を検出したことから、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。検出面はⅢ層上面である。

（規模・形状）は SI03 に削平されており、全体の規模は明らかではないが、径が 8 m ほどの円形を呈するものと考えられる。

（埋土）5 層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体で、埋土下位に暗褐色土の堆積が見られる。全体に炭化物粒を含んでいる。自然堆積の様相を呈する。

（壁・床）壁は下位では直立し、上位は外傾する。埋土の 5 層に含まれる黄褐色土ブロックは壁の縁が崩落して混入した可能性がある。床の硬化面は確認できず、締まりは弱い。床面はほぼ平坦である。

（柱穴）なし。

（炉）南壁際で石囲部と前庭部からなる複式炉を検出したが、石囲部の北半は SI03 によって壊されている。残存している規模は長軸が約 1.9 m、短軸が約 1.6 m である。石囲部は角礫と円礫で構成されている。石囲部の内部には焼土が広がり、厚さは最大で 2 cm 程度である。炉南端の壁際には溝が掘られている。

（重複）SI03、SK09 と重複しており、本遺構が一番古いと考えられる。

（出土遺物）縄文土器は 10 点を掲載した（第 50 図、写真図版 37）。大木 10 式が大勢を占めると思われる。石器は 11 点を掲載し、そのうち 6 点を図示、5 点を写真のみの掲載とした（第 53・55～57・60 図、写真図版 40・46・47・51・53～55・57）。また、石刀の破片（451）が 1 点出土している（第 61 図、写真図版 59）。

（時期）出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と推定できる。

（鈴木博之）

（2）土 坑

SK01 土坑（第 29 図、写真図版 17）

（位置）調査区南端のⅢB 10 a グリッドに位置する。西側から延びる尾根上にあたる。

（検出状況）検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に黒褐色土の広がりとして確認した。

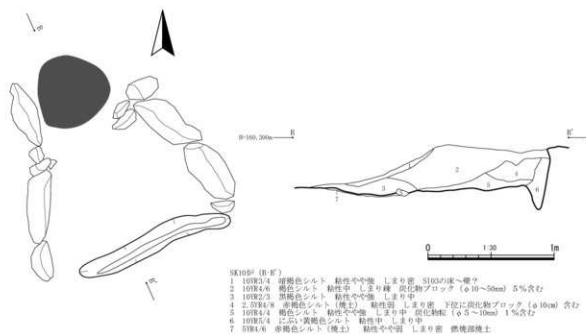
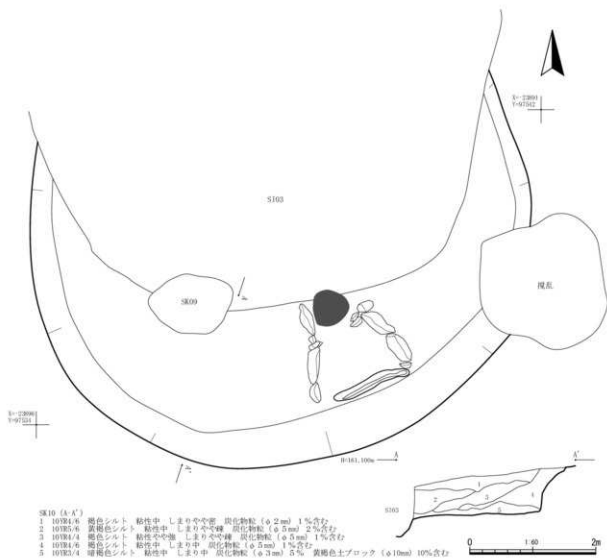
（重複関係）なし。

（規模・形状）平面形は、開口部径が 1.4 m × 0.9 m の楕円形を呈する。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは 15 cm である。底面は北西から南東に向かって下っている。

（埋土）Ⅲ層に由来すると考えられる黄褐色シルトブロックが混入する黒褐色土の単層である。

（出土遺物）なし。

（時期）不明である。



第28図 S115 (青野滝北I)

SK02 土坑 (第29図、写真図版17)

〈位置〉調査区南端のⅢB9bグリッドに位置する。西側から延びる尾根の北側斜面にあたる。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に焼土粒や炭化物粒を含む暗褐色～黒褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉なし。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が1.4m×1.2mの楕円形を呈する。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは20cmである。底面は南から北に向かって下っている。

〈埋土〉4層に分層した。堆積土は、暗褐色から黄褐色土が主体であり、上位には焼土粒と炭化物を多く含む。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉不明である。

SK03 土坑 (第29図、写真図版17)

〈位置〉調査区南端のⅢB5aグリッドに位置する。西側から延びる尾根の北側麓にあたる。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時には、草木根と黄褐色土ブロックを疎らに含むしまりの弱い暗褐色土として確認し、これを試掘トレンチ跡と認識して掘削を行ったが、焼土ブロックや炭化物粒が多く出土しはじめたことから、遺構として精査を進めた。

〈重複関係〉SI01と重複し、SI01より新しい。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が1.7m×1.4mの楕円形を呈する。断面形はやや外反するU字形を呈し、検出面から底面までの深さは62cmである。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉6層に分層した。上位が暗褐色から褐色土、下位は黄褐色土が主体となる。堆積土中に中和田中掘火山灰と思われるブロックが若干混入している。また、部分的に焼土ブロックを含んでいる。

〈出土遺物〉縄文土器片が出土している。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

SK05 土坑 (第29図、写真図版17)

〈位置〉調査区西端のⅡA8hグリッドに位置する。調査区の西に見られる浅い谷状の地形の縁と考えられる場所である。

〈検出状況〉SK07の精査過程で、SI07の壁に本遺構の断面を確認した。検出面はⅡ層上面である。

〈重複関係〉SK07と重複している。断面や平面等による明確な重複関係は不明であるが、精査時の埋土の観察では、SK05の埋土と似た土がSK07側まで入り込んできており、SK05が新しいと判断した。

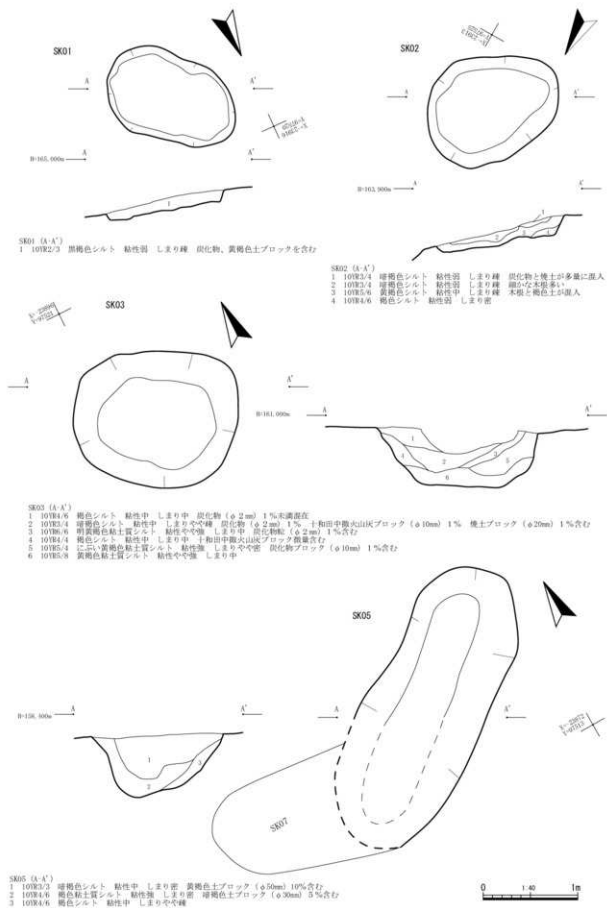
〈規模・形状〉南西側のSI07との重複部分は掘削してしまい全体の平面形と規模は不明であるが、開口部径は概ね3.2m×1.2mの溝形を呈するものと考えられる。断面形はやや外反するU字形を呈し、検出面から底面までの深さは64cmである。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉3層に分層した。上位が暗褐色土、下位は褐色土が主体となる。全体的に暗褐色から黄褐色土ブロックを含んでいる。自然堆積と考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器片が出土している。

〈時期〉遺物は流れ込んだもので、本遺構の時期は不明である。

2 検出遺構



第29図 SK01、02、03、05 (青野滝北I)

SK07 土坑（第30図、写真図版18）

〔位置〕調査区西端のⅡA 8 h グリッドに位置する。調査区の西に見られる浅い谷状の地形の縁と考えられる場所である。

〔検出状況〕検出面はⅡ層上面である。調査区際に黒褐色土の染みとして確認した。

〔重複関係〕SK05と重複している。断面や平面等による明確な重複関係は不明であるが、精査時の埋土の観察では、SK05の埋土と似た土がSK07側まで入り込んできており、SK05に切られていると判断した。

〔規模・形状〕東半はSI05に切られているため、全体の平面形と規模は不明であるが、残存箇所での開口部径は概ね1.6 m × 1.2 mで、溝形もしくは楕円形を呈するものと考えられる。断面形はU字形を呈し、検出面から底面までの深さは72cmである。底面はほぼ平坦で、西端部ではV層から湧水が見られた。

〔埋土〕4層に分層した。上位が黒褐色～褐色土、下位は黄褐色土が主体となる。

〔出土遺物〕縄文土器片（234、第50図、写真図版38）と小型の磨製石斧（315、写真図版46）が出土している。

〔時期〕出土遺物から、縄文時代の遺構の可能性はある。

SK09 土坑（第30図、写真図版18）

〔位置〕調査区南寄りのⅢB 4 e グリッドに位置する。

〔検出状況〕SI03の精査過程で、SI03の床面に褐色土の広がりを確認した。SI03の柱穴の可能性もあったが、断面観察から、単独の土坑として精査を進めた。検出面はⅢ層上面である。

〔重複関係〕SI03、SI15と重複しており、本遺構が新しい。

〔規模・形状〕北半の埋土上位はSI03の精査時に掘削したが、開口部径が概ね1.2 m × 0.9 mのやや歪な円形を呈するものと考えられる。断面形は概ねV字形を呈し、検出面から底面までの深さは104cmである。底面はほぼ平坦である。

〔埋土〕6層に分層した。にぶい黄褐色～黄褐色土が主体で、全体的に締まりの弱い埋土である。

〔出土遺物〕縄文土器と石器が出土している。縄文土器は埋土中位からまともに出ており、5点を掲載した（第50・51図、写真図版38）。石器は磨製石斧（316）が出土している（写真図版46）。

〔時期〕縄文時代の遺構と考えられる。

（鈴木博之）

SK11 土坑（第30図、写真図版18）

〔位置〕調査区北側で、ⅡB 2 j グリッドに位置する。竪穴住居跡密集区から北東方向に離れており、ここから北にかけて下り斜面が始まる箇所である。

〔検出状況〕重機での表土除去後の検出作業の中で、Ⅲ層の中に黒褐色土の広がりを確認し、半裁した結果土坑となった。

〔重複関係〕重複はない。この周辺は遺構が粗な場所であるが、同じグリッドの中に本遺構の他にSK12、SK13の3基がまともに出て検出された。

〔規模・形状〕平面形は、開口部径が約110cm × 100cmで歪な楕円形を呈する。断面形はピーカー形で、最深部は検出面から100cmを測る。壁はやや外傾するが場所によってはほぼ垂直となる箇所もある。

底面は凹凸が無く水平である。特に固く締まるわけではない。

〈埋土〉2層を境に上は黒・暗褐色で下位は褐色・黄褐色とはっきりした色調が違うが、いずれも軟らかく掘れる土であった。中位、下位の層に炭化物が混じる箇所がある。

〈出土遺物〉埋土上位から若干の土器片が出土している。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

SK12 土坑（第31図、写真図版19）

〈位置〉調査区北側で、ⅡB2jグリッドに位置する。堅穴住居跡密集区から北東方向に離れており、ここから北にかけて下り斜面が始まる箇所である。

〈検出状況〉重機での表土除去後の検出作業の中で、黄褐色土（Ⅲ層）の中に褐色土の広がりを確認し、半載した結果土坑となった。

〈重複関係〉なし。SK11、SK13と近接している。

〈規模・形状〉平面形は、開口部直径が約120cmの円形を呈する。断面形はピーカー形で、最深部は検出面から約80cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸が無く水平である。特に固く締まるわけではない。

〈埋土〉埋土中～下位に炭化物を含む層がある。全体的に斜面上位から流れ込んだ自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉磨製石斧（321）が出土している（第56図、写真図版47）。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

SK13 土坑（第31図、写真図版19）

〈位置〉調査区北側で、ⅡB2jグリッドに位置する。住居跡密集区から北東方向に離れており、ここから北にかけて下り斜面が始まる箇所である。

〈検出状況〉重機での表土除去後の検出作業の中で、黄褐色土（Ⅲ層）の中に褐色土の広がりを確認し、半載した結果土坑となった。

〈重複関係〉なし。SK11、SK12と近接している。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が約120cm×110cmの円形を呈する。断面形はピーカー形で、最深部は検出面から70cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は水平ではなく、斜面に平行して作られている。

〈埋土〉褐色土を主体とするが、SK11、SK12と違って埋土に炭化物は混入していない。全体的にどの層位の土も締まりが弱かった。

〈出土遺物〉磨石（353）が1点出土している（写真図版51）。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

（古館貞身）

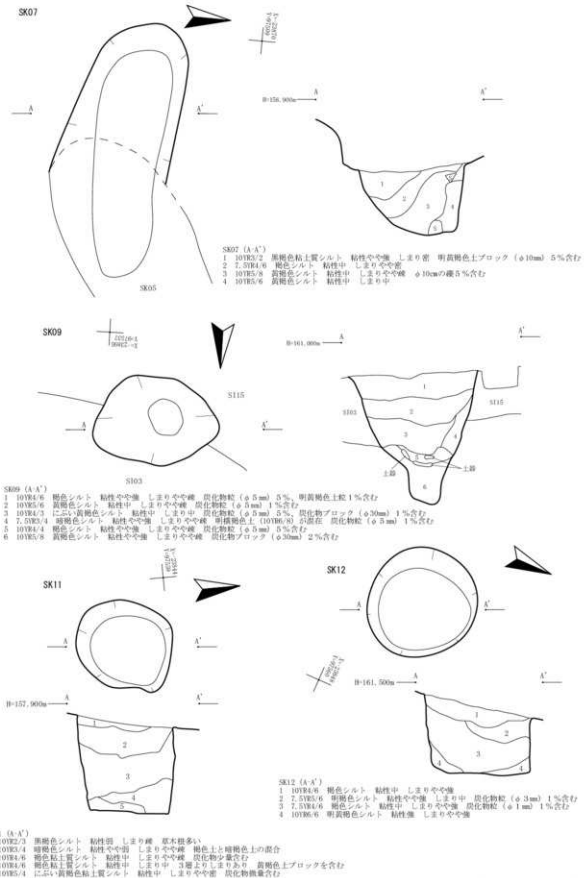
SK14 土坑（第31図、写真図版19）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB3dグリッドに位置する。

〈検出状況〉SI03の床面で褐色土の広がりとして検出した。

〈重複関係〉SI03と重複している。新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が100cm×100cmの円形を呈する。断面形はフラスコ形を呈し、



第30図 SK07、09、11、12 (青野滝北 I)

検出面から底面までの深さは98cmである。底面は開口部から外側に最大で約30cmオーバーハングしており、ほぼ平坦である。

〈埋土〉6層に分層した。褐色～黄褐色土が主体となる。全体的に炭化物粒を含んでいる。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉埋土中から縄文土器片(240)が出土している(第51図、写真図版38)。

〈時期〉縄文時代の遺構である。

(鈴木博之)

SK15 土坑(第31図、写真図版19)

〈位置〉調査区中央からやや北寄りでⅡB5hグリッド周辺に位置する。SI10の東壁際である。

〈検出状況〉前述のとおりSI10の床面で検出した。当初は柱穴と判断して精査に入ったが、途中でフラスコ状土坑と判断して精査を継続した。

〈重複関係〉SI10を切っている。また同規模のSK16と、内部から底面にかけて切り合う。

〈平面形・規模〉平面形は、開口部径が約80cm×80cmの円形を呈する。断面形はフラスコ形で、オーバーハング部分が大きく広がる。最深部は検出面から90cmである。壁はⅢ層を掘り込んでおり固く締まる。底面は円形で径は130cmあり、底面施設は検出されなかった。

〈埋土〉黄褐色土と褐色土がサンドウィッチ状に重なるが最下層の黄褐色土はボソボソとした感じである。埋土中位に50cm×40cm、厚さ10cmの方形の自然礫があり、上位には小礫が多く見られた。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉周辺の出土遺物、遺構の様子から、縄文時代中期後葉に属すると思われる。

SK16 土坑(第31図、写真図版19)

〈位置〉調査区中央からやや北寄りでⅡB5hグリッド周辺に位置する。SI10の東壁際である。

〈検出状況〉SK15と同様にSI10の床面で検出した。当初は柱穴と判断して精査に入ったが、途中でフラスコ状土坑と判断して精査を継続した。

〈重複関係〉SI10を切っている。また同規模のSK15と、内部から底面にかけて切り合う。

〈平面形・規模〉平面形は、開口部径が約85cm×60cmのいびつな卵形を呈する。断面形はフラスコ形で、オーバーハング部分が東側だけ大きく広がる。最深部は検出面から約100cmである。壁はⅢ層を掘り込んでおり固く締まる。底面は170cm×130cmの楕円形で、底面施設は検出されなかった。

〈埋土〉褐色土が主体で、上位は締まりが見られたが下位は軟らかい。

〈出土遺物〉埋土中から縄文土器片(241)が出土している(第51図、写真図版38)。

〈時期〉周辺の出土遺物、遺構の様子から、縄文時代中期後葉に属すると思われる。

(古舘貞身)

(3) 炭 窯

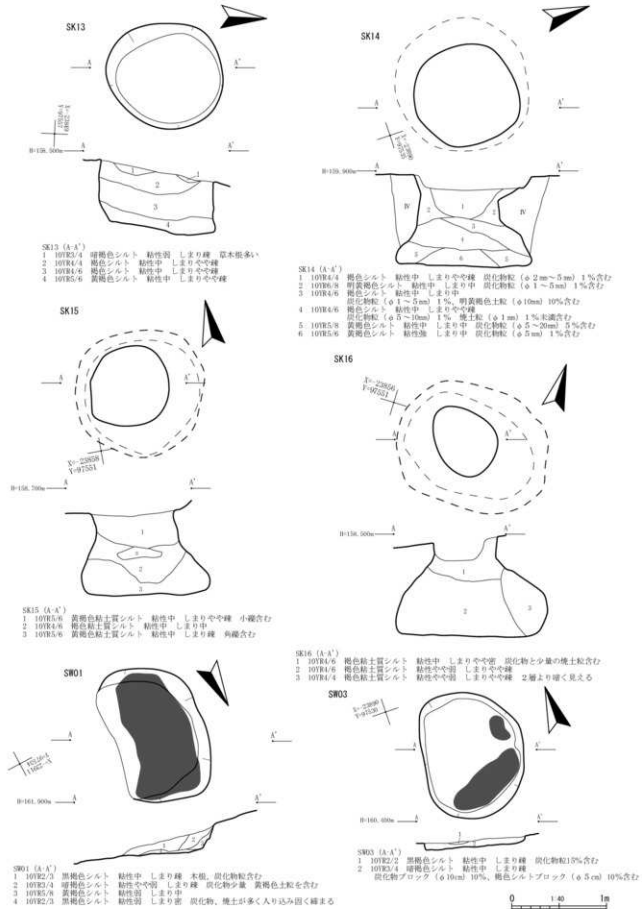
SW01 炭窯(第31図、写真図版19)

〈位置〉調査区南端付近のⅢB8dグリッドの緩い東向き斜面に位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。炭化物を含む黒褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉なし。

〈規模・形状〉平面形は、1.4m×1mの楕円形を呈する。斜面地に構築されており、東側の掘り込み



第31図 SK13、14、15、16、SW01、03 (青野滝北I)

3 出土遺物

は確認できない。検出面から底面までの深さは最大で25cmである。底面はほぼ平坦である。被熱しており、炭化物が多く散在する。

〈埋土〉4層に分層した。黒褐色～暗褐色土が主体である。全体に炭化物を含む。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉埋土下位より採取した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を行い、近世から近代にかけての年代値を得た。

SW03 炭窯（第31図、写真図版20）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB3cグリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。炭化物を含む暗褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉SI13と重複しており、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉平面形は、1.3m×1.1mの楕円形を呈する。検出面から底面までの深さは最大で8cmである。底面は東側が若干高い。底面と壁が弱く被熱しており、炭化物が散在する。

〈埋土〉2層に分層した。暗褐色土が主体である。全体に炭化物ブロックを含む。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉SW01と同様に、近世～近代にかけての遺構と考えられる。

（鈴木博之）

3 出土遺物

（1）縄文～弥生土器（第32図～第52図、写真図版21～39、観察表は図版）

概要 大コンテナ（32×42×30cm）約27箱（接合前）出土した。縄文時代中期後葉～末（大木10式古期主）がほとんどを占め、それ以外に、後期前葉、晩期中～後葉、弥生時代前期の破片が僅かに出土している。

整理状況・掲載基準 作業員4～5名で約1ヶ月接合作業を行った。復興調査の整理作業で混雑しており、作業台が2×8mと狭く、あまり良い環境とは言えない。縄文だけの破片がほとんどで文様を持つ破片が少なく、接合作業は難航した。出土量の割に図化遺物が少ないのは、この点が多い。ただし、途中ベテランの作業員数名の援助も受けており、著しく実態より掛け離れているとは考えにくい。このような状態であったので、積極的に掲載遺物を選別し、文様を持つもの、口縁部破片は通常より多く選別したつもりである。それでも、掲載遺物は256点にとどまった。

記載要領・表の見方 個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。“赤付”は赤色付着物のこと。

出土状況 個々の遺物の出土状況は、遺構の節参照。本項担当者は室内整理以後に関わったため詳細は知り得ない。

出土土器の特徴 縄文時代中期後半の土器は、使用痕が顕著で、内面には焼けはじけ、外面にはスス、二次焼成痕が顕著に認められた。底面はナデ調整されているものが多く、木葉痕は認められるが、網代痕は非常に少ない。口縁部を無文帯とする土器がほとんどで、粗製土器には折り返し口縁も認められるが、そうでないものとの間に時期差が認められるのかどうか定かでない。粗製土器は、胴部に斜縄文を持つが、LRのタテ回転が多い。文様を持つ土器は概ね丁寧な作られている。接合作業の印

象では、文様を持つ土器の割合が内陸の通常遺跡より非常に少ないと感じた。

特徴的な土器・異形土器・小型土器 異形土器は21、167。小型土器は、55、56、127、168、195、214、222が相当する。154の底部は非常に部厚く重い。167は完形で出土している。255には赤色付着物が認められ、256も同様か（茶色がかっている）。底部木葉痕は、54、97、163、196、197、208、底部網代痕は、1に見られた。

時期・型式 詳細な時期・土器型式にふれていくが、冒頭で述べたように、出土土器は縄文時代中期後半がほとんどを占めるので、まず、それ以外の時期をみていく。中期以前の土器はない。

後期は、前葉のみで、157は南境式（倒卵形意匠文）？、255、256は、十腰内I式古段階である。晩期も、後期よりは多いが僅かである。28は大洞C1式か。60、109は、大洞C2式？ 61は大洞C2式以降で、より北部に親縁な土器である。223、224は、大洞A式以降。

弥生時代も非常に僅かで、58、62、67が相当し、いずれも前期の土器と思われる。

縄文時代中期後半。大木8a、8b式、10式後半と明確に特定できたものではなく、大木8b式最新期（大木9式最古？）～大木10式前半期がほとんどを占める。明確に型式同定できたものとしては、113、129、132、138、139、143、145、146、170、177、180、203、249が、大木9式、133は最花式か。26、45、49、72、74、78、90、92、102、106、114、115、117、127、143、146、171、174、179、182、186～189、191、193、204、210～212、216、219、221、225＝226、238、244、246が、大木10式前半に相当すると思われる。大木10式前半が主体であることは間違いない。

185は、文様を持ち時期が特定できそうなのだが、判断が付かなかった。

執筆所見 非常に使い込まれた土器と文様を持つ土器の少なさが印象に強く残った。文様を持つ土器がそうでないものに比べ価値が高いとしたら（“半工人”による？）、本遺跡の場合は、土器に余裕がなく、土器を大事に使い込んでいた様子が窺われる。同様のことは、田野畑村浜岩泉I遺跡を調査したときにも感じた（(財)岩手県文化振興事業団 1998）。青野滝北I遺跡より若干古く大木9式期を中心にした集落であったが、住居数の割に出土遺物が少なく、土器は再調整されたものが多くて、礫石器ばかりで剥片石器・素材剥片が少なかったのである。当時の沿岸北部の貧しさを表していると考えるのは、穿ち過ぎであろうか。

(a) 竪穴住居出土の土器（第32図1～第50図224、第48図230～233）

いずれも、大木9～10式前半、特に10式前半がほとんどを占める。SI08には大木9式土器がまゝっており、この時期の住居と判断して良いのかも知れない。

(b) 土坑出土の土器（第50図225～第51図243）

竪穴住居跡出土土器と同様で、大木10式前半がほとんどを占める。

(c) 遺構外出土の土器（第51図255～第52図256）

遺構内と顕著な違いは認められないが、十腰内I式古段階土器が出土している（第52図255、256）。

(金子昭彦)

参考文献

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998「浜岩泉I遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第276集

(2) 石器(第53図～第59図、写真図版40～58、第2表)

中コンテナ10箱の出土である。調査段階では、礫石器に比して剥片石器の出土数が少なく感じた。また円形の敲き石(ハンマー)が多く表土除去の段階から散見されていた。

石鏃 3点出土で全点掲載した(№257～259)。石質はすべて頁岩で、完形である。№257は凸基無茎、№259は円基である。№258は基部が円基に作られているが脚部が左右対称ではない。もしかすると石鏃かもしれない。

石錐 3点の出土である。全点掲載した(№260～262)。石質は頁岩で、いずれも摘まみ部をもつ。№260は錐部の一部に自然面を残している。№261、262の錐部は全面に加工が施されている。262の先端部に使用によるものか、微細な欠けが見られる。

石匙 12点出土で全点掲載した(№263～274)。石質は頁岩である。摘まみ部に抉りのないものがある(№266、263、267、270、272、273。)これらは柄に装着して使用したものであろうか。さらに摘まみ部の頭頂部が石鏃の凹基状に抉りがはいつているものがある(№263、264、267、273)この仕掛けは、柄に装着した場合の横ぶれを防ぐものであろうか。№263は先端部を尖らせる加工をしており、銚の要素の強いものかもしれない。№274は縦型であるが抉り部にのみ加工が施され、他は加工痕がない。形状の良い剥片を利用している模様で、刃部の側面に僅かに使用痕が見られる。№268は下半部が欠くが縦型と思われる。石質は頁岩であるが、灰白色であり目立つ。№269、271は先端部を平らに加工しており他のものと比べ異色である。

石斧類 打製石斧、磨製石斧の両者を一括して石斧類とした。64点掲載した(№275～338)が№277、285、292、294、297～300、304～308、311、314～317、321、323～338の35点は写真掲載である。

大別すると全面を磨いで磨製石斧と呼べるもの、粗い調整だけで石斧の形を作っているもので打製石斧といわれるもの、粗い調整に加えて、細かい敲き痕によりさらに調整を施したもの、刃部のみ磨きの跡が残るもの4つのグループに大別される。

№280は磨製石斧の刃部だけ残すが、ミニチュアサイズである。№281は小型の磨製石斧で刃部の使用痕がはっきり残されている。№287は磨製石斧の刃部であるが片面中央に擦り切り痕を残す。№297、317は下半部及び刃部を欠く磨製石斧であるが、欠損部を面取し、底面を平らにしている。№278、288、289、291、295、316、318、328、331、332は刃部周辺にのみ磨きがはいつている。№300は308と接合して打製石斧ということがはっきりした。№301は刃部欠損後に敲き石に転用している。№315はミニチュアサイズであるが石斧の形をしているだけで、石斧としての機能はなく、使用目的は別にあると思われる。№307は最大である。土掘り具としてその機能を十分に発揮したものと考えられる。№338は形状から石斧の未製品と考えたが、長円形の側面に両面から加工を行い、さらに稜線部がつぶされているため敲石の一種かもしれない。

磨石 15点掲載した(№339～353)が№340以外は写真掲載とした。№339、340は長径12～13cmの楕円基調で、それ以外は径5～7cmの円形基調のものである。№340は側面に磨り痕があり特殊磨石としていいかもしれない。先端部に敲き痕がある。円形基調のものは、いずれも握りの良い面に磨いたような磨り面をもつ、№343、351は両側面に磨いたような磨り面のほかに、両側面に粗い磨り面をもつ。№345、347、348は器面に欠けがはいつており、強い力で敲いていることが窺い知れる。

特殊磨石 37点掲載した(№354～391)が、図化したのは9点で他は写真掲載である。いずれも側面に磨り痕をもつ。サイズは長軸で17.8cmを最大に、最小は11cmまでの間におさまる。重量は最

大で1400gから最小で292gの間にある。掲載遺物37点中磨り面の他に敲き痕をもつものが16点あり、敲き石として複合的に使われたらしい。石質は花崗岩3点、デイサイト13点、砂岩8点、頁岩13点となっている。№363、364はSI07の炉石に使われており、364は被熱のためか変色している。№365は特殊磨り石としては珍しく棒状であり、磨り面も他のものの1.5倍は広く形成されている。側面に煤痕が見られる。№367は磨り面の発達より両端部に激しい敲打痕があり、敲き石としてもいかもしれない。№370は腹面に敲打痕が見られる。№375は端部に両面から剥離がはいり磨り面の一部を壊している。№377は磨り石を敲き石に転用していると表現できるぐらい敲打痕が多い。№380、382、390は磨り石としては小型である。№387は磨り面を2片にもつ、唯一のものである。

敲石 33点掲載した(№392～424)が、図化したのは3点のみで他は写真掲載である。形状はいずれも円形から楕円形を基調とし、片手で十分持てるサイズで、最大のもは№421で10.8×8.8×7.5cmで重量は1.37kgである。重量で100g台のものが4点、200g台12点、300g台12点、500g台2点、600g台1点、700g台1点となり、200～300g台に集中している。なお1kgを超える器種は石皿・砥石除きで、磨石に1点、敲石に1点であるが、特殊磨石には5点ある。円形基調のものは周囲をまんべんなく細かい打痕が回っているが、楕円形基調のものは端部を使用しており敲打痕が大きく剥離しているものが多い。

凹み石 3点掲載した(№425～427)。№425は欠損であるが残存部の両面に凹み部をもつ。№426は扁平であり、側縁部に両面から剥離が入り、刃部が形成されているように見える。これも両面に凹み部を持つ。№427は長楕円形で角のない円礫である。表面はきれいに磨かれた様になっているが、全面自然面であり、側縁、端部とも使用痕は認められない。唯一腹面の中央にのみ凹み部をもつものである。

石皿 17点掲載した(№428～444)が図化したのは3点のみで他は写真掲載である。全点欠損で完形品はない。石質は砂岩10点、凝灰岩7点である。№431、437、438は欠損であるが、コーナー部分で438には脚が付く。いずれも内面は粗く細かい凹凸が顕著である。№431、435は炉石に転用されていたもので砥石に分類されるかもしれない。№436は脚部のみである。№444は方形で両端部を欠くが、ほぼ全体像が推測できるものである。裏面の脚は2つ残りが、その他に三角形の浮き彫りが向かい合わせて作られている。

砥石 2点掲載した(№445、446)。445は長方形の自然礫を利用してのが、側面を整形している様である。表裏両面を縦長に使用しており、一部には磨きのような磨り面も見られる。№446も長方形である。側面を敲打して整形している跡が見られる。使用面は1面のみで、色調変化を起こしているようで黒色の光沢が散見される。台石としての利用かもしれない。

(3) 石製品(第60図、写真図版59、第3表)

垂飾品 2点出土し2点掲載した。この他に原石剥片が3点出土している。石質は滑石である。早池峰山周辺であるがもしかすると岩泉町の有芸近辺の可能性もある。もしそうであれば、産地は遠くない場所となる。№447は完形で小判型をさらに長軸方向に伸ばした形になっている。中央部からやや上気味の箇所孔があり、両側からの穿孔の跡が観察される。全面が磨かれている。№448も同じ形をしていたと思われるが、長軸方向両端の丸みを帯びている箇所を平らに加工した痕が見られる。孔は両面から穿孔されている。縦断面を観察すると緩い波形となる。

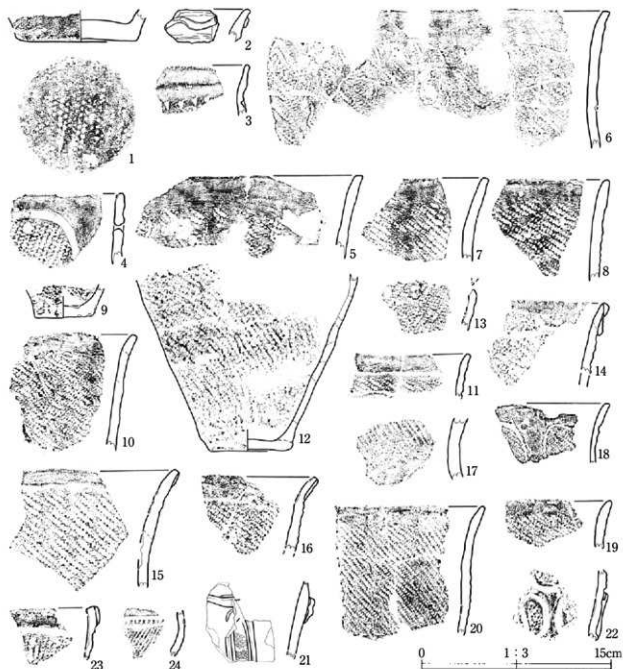
石棒 2点出土し2点掲載した。石質はいずれも、石皿に多く見られる砂岩である。№449はSI03の埋土下位からの出土である。出土した時点では、実測図のとおり形であったが、風化が激しく、取り上げの時点で分割したものを接合した。先端部直下に抉りをもつ。先端部上面には皿状に凹みが穿たれている。両端部から中央部にかけて緩やかな膨らみもち、中央やや下半に凹み石に似た凹みがある。残存部では全面に敲打により整形がなされ、凹み部の下部に磨り痕が観察される。№450も石質は砂岩である。これは石棒の一部と思われ、2つに割れて出土したがすでにこの時点で風化が激

3 出土遺物

しく、切断面も摩耗していた。断面は方形基調であるが、面取されている。残存部表面は敲きと磨りで整形されている。

石刀 2点出土し2点掲載した。石質はいずれも砂岩で、欠損である。No 457は扁平で、端部が敲き痕により一部壊されている。残存部は全面に磨かれて整形されており、側縁部に磨きによる稜線が見られる。No 452は尖端部である。形状は扁平なものと思われるが、残存部では、全面磨きにより整形されており、側縁部は片方が平らに、もう片方が両面から磨き稜線をもつ作りになっている。

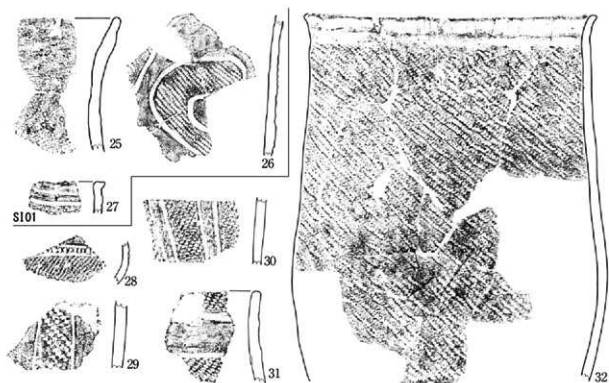
(古館貞身)



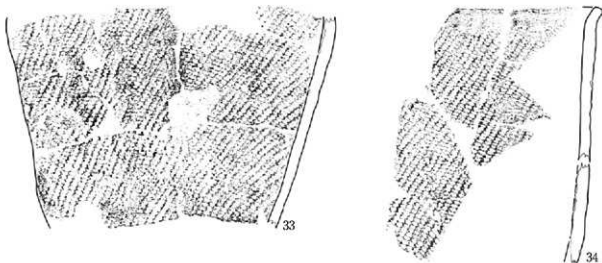
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部、底部、底面、胴文様など)	内面 (調査なし)	備考
1	SD1・埴土	深鉢・底面一帯	Lpタテノ底面刺状	ナテ	
2	SD1 南西ブロック・埴土	口縁部	蛇行縁巻付一帯圧	ナテ	
3	SD1 南東ブロック・埴土	口縁部	Lpタテノ下からの竹葉状刺	ナテ	
4	SD1 東ベルト	深鉢・口縁部	口縁ナテノLpタテノ太く深い沈線一ナテ	ナテ	縁線ナテ
5	SD1	深鉢・口縁部	口縁ナテノ口縁突起ノLpタテ	ナテ	外蓋黒煎
6	SD1	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	
7	SD1 北西ブロック・埴土下位	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	
8	SD1 北東ブロック・埴土	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	外蓋スス付蓋
9	SD1 北東ブロック・埴土	底面一帯	たがれ	ナテ	内蓋コゲ付蓋
10	SD1 北東ブロック・埴土	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	
11	SD1 東ベルト・埴土	口縁部	Lpタテノ太く深い沈線	ナテ	
12	SD1 北東ブロック・埴土層上層1	深鉢・底のふみ一帯	Lpタテノ(底面たがれ)	ナテ	外蓋ノ2次焼成原料、中コゲ
13	SD1 北側段崖・豆罎	深鉢・底面	Lpタテ	ナテ	縁線ナテ
14	SD1 北側段崖・豆罎	深鉢・口縁部	筋ノ直シ口縁ノLpタテ	ナテ	外蓋黒煎
15	SD1 北側段崖・豆罎	深鉢・口縁部	口縁巻巻付ノLpタテ	ナテ	外蓋スス付蓋、内蓋たがれ
16	SD1 北側南北段崖下・豆罎	深鉢・口縁部	筋ノ直シ口縁ノLpタテ	ナテ	内蓋たがれ
17	SD1 北側南北段崖下・豆罎	深鉢・口縁部	縁線直シ口縁ノLpタテ	ナテ	内蓋黒煎
18	SD1 北側南北段崖下・豆罎	鉢・口縁部	突起ノLpタテ一帯ノ沈線一帯流(一部縁文残る)	ナテ	突起内蓋黒煎
19	SD1 北西ブロック・埴土	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	外蓋スス付蓋
20	SD1	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	
21	SD1 北東ブロック・埴土	深鉢・口縁部	Lpタテ	ナテ	
22	SD1 北東ブロック・埴土	胴部	Lpタテノ一帯で縁取りノ縁状把手	たがれ	外蓋スス付蓋
23	SD1 東ベルト・埴土	深鉢・口縁部	口縁巻巻付ノLpタテ	ナテ	縁線
24	SD1 東ベルト・埴土	胴部	Lpタテノ縁のさいノ沈線開始直列	ナテ	口縁ナテ

第32図 遺構内出土土器(1)(青野滝北I)

3 出土遺物



S102

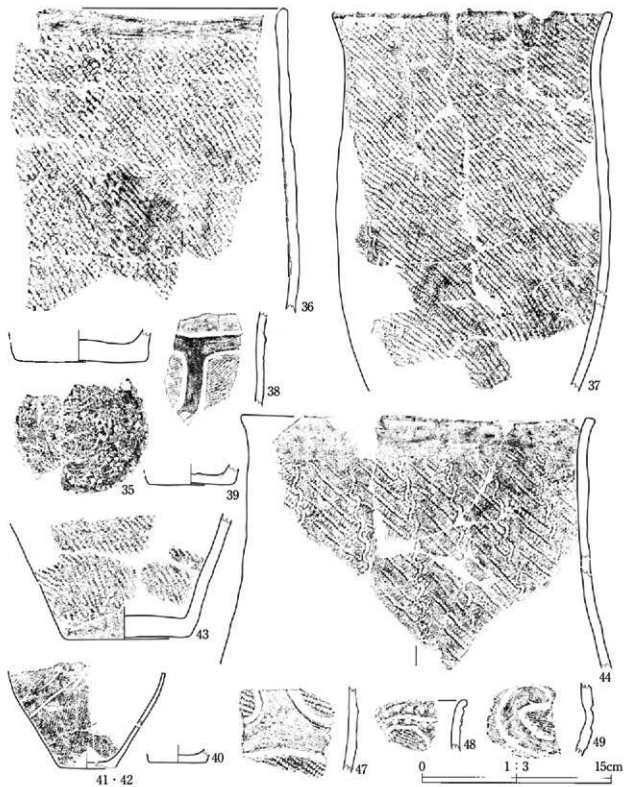


S103

0 1:3 15cm

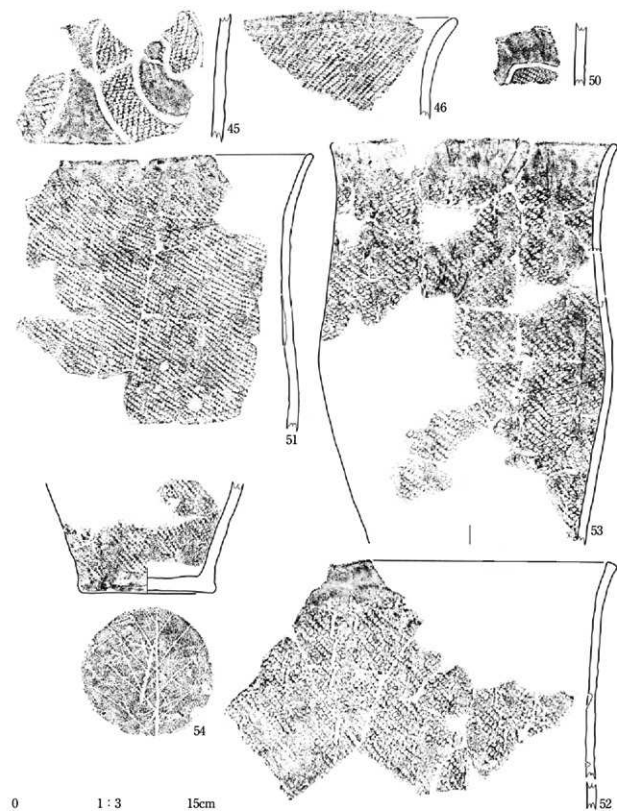
No.	出土地点・層位	器種・部位	作 法		備 考
			(口縁部、胴部、底部/底面、縄文模様など)	内面 (模様など)	
25	S101 東ベルト・埋土	深鉢?	LRナリ?・割ナリ	ナリ	砂粒多いか多い
26	S101 東ベルト・埋土	深鉢・胴部	LRナリ一太く強い沈線一痕跡	ナリ	沈線
27	S101 北側南長壁下・瓦層	口縁部	口縁強いナリ/RLRコマ一太く強い沈線・沈線	ナリ下層	作痕スス付着
28	S102	胴部	強い沈線開始目付/RLRコ	セガキ	沈線
29	S102	深鉢・胴部	LRナリ一太く強い沈線	ナリ	
30	S102	深鉢・胴部	RLRナリ一太く強い沈線一ナリ(痕跡)	ナリ	内面コグ、埃けはじけ
31	S102	深鉢・口縁部	LRコ一太く強い沈線・ナリ	ナリ	作痕スス付着、内面剥落
32	S102	深鉢・口縁(水溝)	割ナリ強い口縁ナリ/LRナリ	ナリ	作痕跡? 作痕スス、内面コグ付着?
33	S103	深鉢・胴(第一層)	RLナリ	ナリ	外一沈線成、内面行はじけ多い
34	S103	深鉢	RLナリ一口縁ナリ	ナリ	外一沈線成、内面埃けはじけ

第33図 遺構内出土土器(2)(青野滝北1)



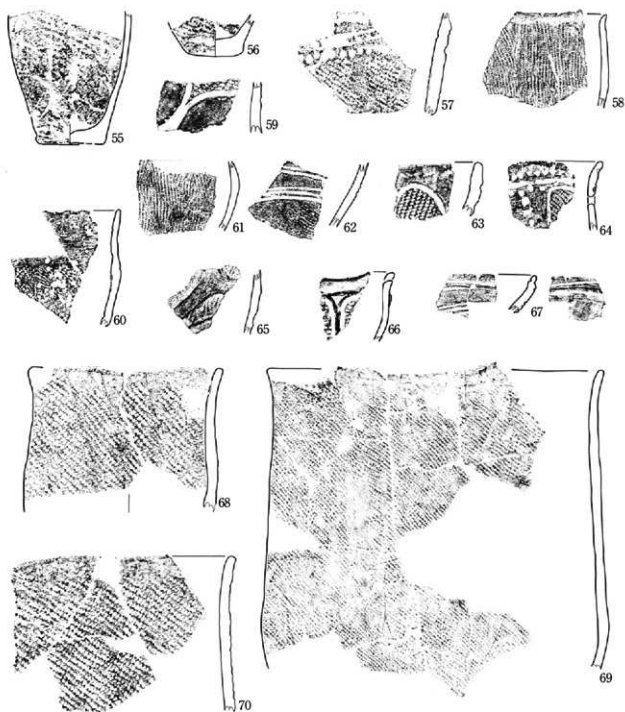
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部・胴部・底部/底面、緒文関係など)	内面	
35	S303	深鉢・底(1/3層)	底面～底面ナデ	ナデ	粘土接合面から割離
36	S303	深鉢	URナデ・口縁部ナデ	ナデ	外二次焼成、又ス、内掛けはじけ
37	S303	深鉢(1/2層未滿)	UR口縁部ナデ	ナデ	外裏面、外スス、内下コブ付重
38	S303	鉢・胴部	URコナナー・太く深い沈線・ミガキ	ミガキ	
39	S303	底1/2層	底面～底面ナデ(上の割口、粘土接合面割離)	ナデ	内面遠部コブ付重
40	S303	底・胴部	底面～底面ナデ(上の割口、粘土接合面割離)	ナデ	底面滑らか
41	S303	鉢・胴部	縁で深い沈線・URナデ/底面～底面ナデ	ナデ	●●=接合
42	S303	鉢・底1/2層未滿			●●=接合
43	S303北西	深鉢・底のみ一層	URナデ/底面～底面ナデ	ナデ	内面遠部コブ、底面たがれ
44	S303	深鉢(1/2層未滿)	口縁ミガキナデ(口縁部割離(斜線文縁のみ))	ミガキ	外裏裏面、又ス付重
47	S303	深鉢・胴部	内ナデ付重縁部	ナデ	外底スス付重
48	S303	鉢・口縁部	大深沢口縁・下から割交・R30コ一層で深い沈線	ナデ	外底スス、内面コブ付重
49	S303	鉢・胴部	URコナナー太い沈線	ナデ	内面凹み

第34図 遺構内出土土器(3)(青野湖北I)



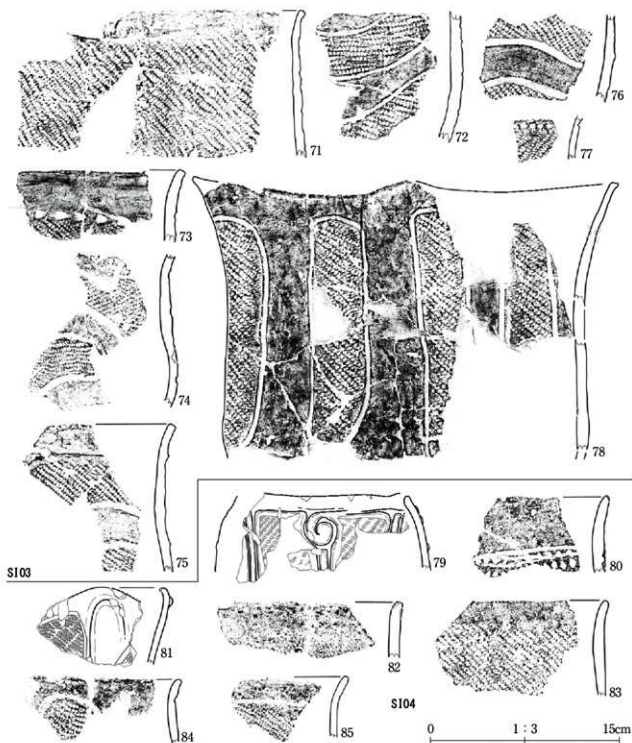
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部・腹部・底面／底面、継文露体など)	(胴部など)	
45	S203	深鉢・腹部	太く浅い深鉢・R・L・I口	ナナ	外面欠ス、二次焼成
46	S203	深鉢・口縁部	口縁ナナ／R・L・Iナナ	ナナ	外面欠ス付着
50	S203	鉢・腹部	R・L・I太く浅い深鉢	ナナ	外面欠ス付着
51	S203	深鉢(1/4周未満)	太直状口縁／口縁無文／L・Rナナ	ナナ	外面欠ス、内面磨けたナナ
52	S203	深鉢(1/4周未満)	口縁ナナ／L・R・I粘着ナナ	L・Rナナ	外面欠ス？ 外欠ス付着
53	S203	深鉢(2/3周未満)	口縁ナナ／L・Rナナ	ナナナナ	外面欠ス付着、二次焼成
54	S203	深鉢・腹部一帯	L・Rナナ／底面・木蓋面	ナナ	外面二次焼成、内面コテ付着

第35図 遺構内出土土器(4)(青野滝北1)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部、肩部、底部、底面、縄文模様など)	内面 (面割など)	備考
55	3030	鉢・底の内縁一層	縄文(1/4寸)下ノ周部一層割ナシ	ナシ	外底スス、二次焼成、内面コゲ付着
56	3030	小皿(底・面)	1/4寸下ノ周部一層割ナシ	ナシ	底突出
57	3030	深鉢・口縁部	下から斜度、浅い浅線1/4寸	ナシ	外底二次焼成、スス・内面焼けはじけ
58	3030	浅鉢・口縁部	口縁部無文ノ1/4寸ナシ	ナシ	ナシ
59	3030	深鉢・口縁部	ナシ	ナシ	ナシ
60	3030	鉢・口縁部	小浅状口縁ノ1/4寸	ナシ	内外焼けはじけ?
61	3030	鉢・底面	浅ナシ(底面)	ナシ	外底スス付着
62	3030	浅鉢・口縁部	浅状スス・ナシ・縄文模様不明	ナシ	雑状
63	3030	深鉢・口縁部	1/4寸下ノ浅い浅線	ナシ	浅状
64	3030	鉢・口縁部	下から斜度1/4寸程度多量ナシ	ナシ	雑状
65	3030	深鉢・口縁部	1/4寸下ノナシ・浅い浅線	ナシ	ナシ
66	3030	深鉢・口縁部	縄文模様不明一層割含めナシ	ナシ	外底スス付着
67	3030	浅鉢・口縁部	内面浅線ノ細い浅線	浅状	浅状
68	3030	鉢(底・面)	1/4寸ナシ	ナシ	外二次焼成、スス、内面焼けはじけ、たぐれ
69	3030	深鉢(1/4角未満)	大浅状口縁ノ口縁ナシノ1/4寸	ナシ	外底スス付着
70	3030	深鉢・口縁部	口縁部無文ノ1/4寸	ナシ	外底スス付着、二次焼成

第36図 遺構内出土土器(5)(青野湖北I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部、胴部、底面、蓋面、縁文模様など)	内面 (胴壁など)	備考
71	S303	深鉢(1/4層未満)	胴に斜口縁ナリ、L形ナリ	ナリ	外面黒褐色? 内面スス付着
72	S303	深鉢・胴部	L形ナリ→大穴縁の残部→ナリ(軸土まき肌儀)	横線ひびだい	
73	S303	深鉢・口縁部	口縁無文・胴部ヨコから彫突、L形ナリ	ヒガキ?	光沢
74	S303	深鉢・胴部	L形ロイロ→大い沈線・丁寧な彫突	ナリ	
75	S303	深鉢・口縁部	口縁ナリ→L形ナリ→ナリによる彫突(彫突・光沢)	ナリ	
76	S303	深鉢・胴部	R形コナリ→ナリによる彫突(彫突・光沢)	ナリ	丁家
77	S303	深鉢・口縁部	竹製加工具による彫突・L形ロイ	ナリ	
78	S303	深鉢(1/4層)	4度沈口縁?→L形ナリ→大い沈線	ナリ	
79	S104-6	深鉢(1/4層)	R形コナリ→彫突→L形ナリ	ナリ	内面スス、内面コグ、下縁全面彫突
80	S104-ベルト	深鉢・口縁部	沈線、下から彫突	ナリ	竹製スス付着、内面コグ付着
81	S104-ベルト	鉢・口縁部	低い彫突までつけ、R形(口縁多量)ナリ→縦く深い沈線	ナリ	内面コグ付着
82	S104-ベルト(埋土)	深鉢・口縁部	L形ナリ	ナリ	彫突→2度焼成で製造
83	S104-ベルト(南西プロック(埋土))	深鉢・口縁部	L形ナリ	ナリ	内面スス付着、内面横けぼしけ
84	S104-ベルト(南西プロック(埋土))	鉢・口縁部	L形ナリ→大い沈線	ヒガキ?	内面コグ付着
85	S104-ベルト(南西プロック(埋土))	鉢・口縁部	彫突直口縁、L形ナリ	ナリ	

第37図 遺構内出土土器(6)(青野滝北1)



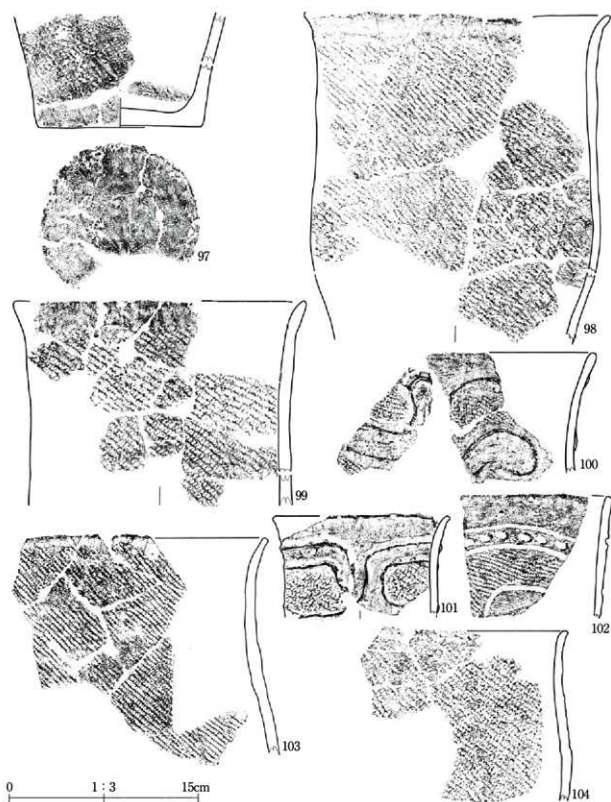
No.	出土地点・層位	器種・部位	材質		備考
			口縁部・胴部・底面／底面、縄文磨林など	内面 (内面など)	
86	[304]ベルト黒雲ブロック(埋土)	深鉢(1/4層以下)	口縁無文／R9字	ナデ	
87	[304]ベルト黒雲ブロック(埋土)	深鉢	R9字	ナデ	片断入り付着・内面焼けはじけ
88	[304]ベルト黒雲ブロック(埋土)	深鉢・口縁部	L19字	ナデ	
89	[304]	深鉢(1/3層)	口縁無文／R10+筋彫7字 (竹上スス)	ナデ	片下二次焼成。片下コゲ、上たねあり
90	[304]	深鉢(1/4層未満)	4度並口縁2／R9字7一次(道の深鉢・散置形状)	R9字ナデ	片断入り付着

第38図 遺構内出土土器(7)(青野滝北Ⅰ)



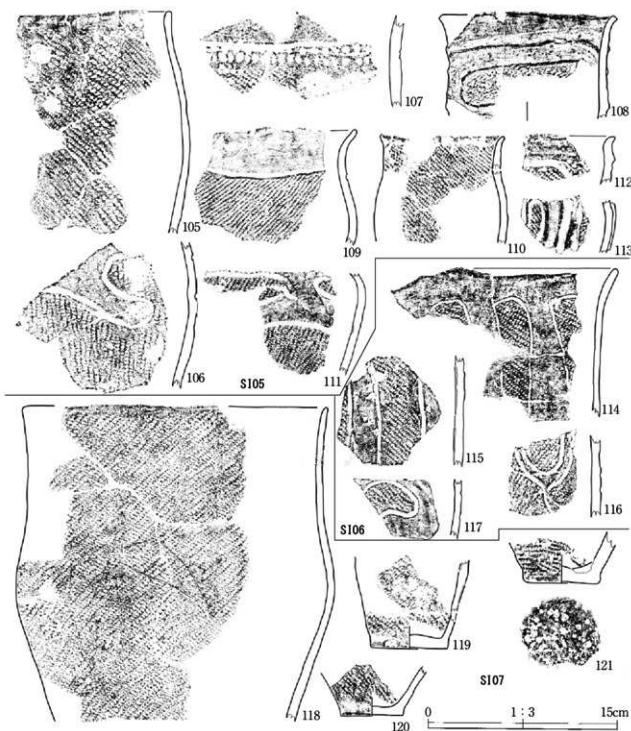
No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面		備 考
			(口縁部、胴部、底部、綫文主体など)	内 面 (綫文など)	
91	DB3	深鉢(1/3周未満)	口縁無文・LH+結節ナシ	ナシ	内二次焼成、又、内面ツラ、厚肉
92	DB5	深鉢(1/2周未満)	口縁3/4から斜突、細い沈線—LHナシ—太い沈線—無	ナシ	内面太文、二次焼成、内面厚肉
93	DB5	深鉢(口縁~胴部)	LHナシ—口縁部ナシ	ナシ	下の腹に、粘土塊を厚肉
94	DB3	鉢(1/3周)	LHナシ	ナシ	内面僅けはしけいひい、重量感付々々
95	DB5	小型(底一層)	Hナシ—底部~底面ナシ	ナシ	
96	DB3	深鉢(底面一層)	LHナシ—胴代後?一底部~底面ナシ	ナシ	内面二次焼成、内面たがれひい

第39図 遺構内出土土器(8)(青野滝北1)



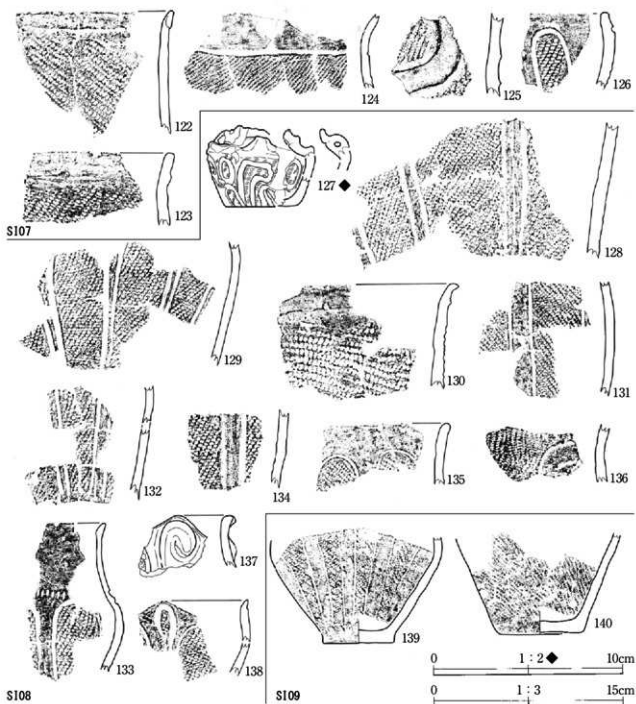
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部、底部、底面/底裏, 縁文露体など)	(露体など)	
97	S85	深鉢(底)4層	口縁部・底裏面一底面一底裏面ナリ	ナリ	外二次焼成, 内面黒山付コグ付着
98	S85(12-2)	深鉢(1/4)底裏面	口縁無文/口ナリ	ナリ	外スス, 内下コグ, 内面二次焼成
99	S85(1)	深鉢(1/3)底裏面	口縁ナリ/口ナリ	ナリ	外スス, 二次焼成, 厚割
100	S85	深鉢(1/3)底裏面	4層底口縁ナリ・底裏一底面ナリナメワナナリ	ナリ	外スス付着
101	S85	深鉢(1/4)底	底裏一底面ナリナリ	ナリ	外スス付着
102	S85	深鉢(口縁部)	口縁部	ナリ	二次焼成
103	S85	深鉢(口縁部)	口縁部	ナリ	外スス二次焼成, 内面黒山付着
104	S85	深鉢(口縁部)	口縁部	ナリ	外スス, 二次焼成

第40図 遺構内出土土器(9)(青野滝北I)



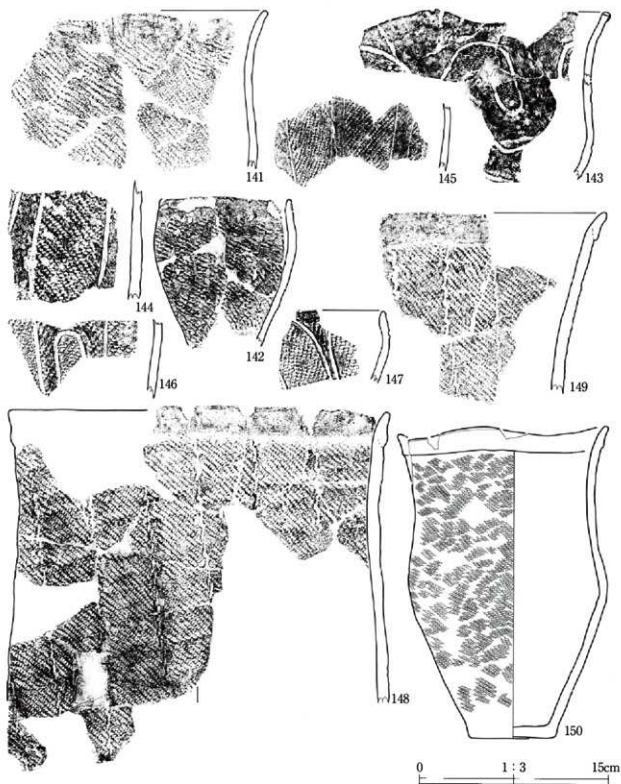
No.	出土地点・層位	器種・部位	材質		備考
			(口縁部・胴部・底部/底面、純文原形など)	内面 (須臾など)	
105	S505	鉢・口縁～胴部	白磁粉文・LRタテ	ナデ	内面下部コグ付着
106	S505	深鉢・胴部	LRロイロー・太く浅い流線	ナデ	外・スス、下ニ流線、内下コグ付着
107	S505	深鉢・胴部	刺突刺・LRタテ	ナデ	内外付けはじけテ
108	S505	鉢(1/4層以下)	浅華→LRロイロー→舞女ナデ	ナデ	外裏スス付着
109	S505とS507	鉢・口縁～胴部	小波状口縁?/LRココロ口蓋部ナデ	ナデ	外裏スス付着、内面コグ付着?
110	S505	鉢(1/2層半高)	LRタテ	ナデ?	外裏スス付着、内面コグ、付けはじけテ
111	S505	鉢(1/3層未満)	ルタテ→太く浅い流線・輪帯起華→上の彫口縁(表面刺突)	ナデ	外・スス、二次流線、内下コグ、付けはじけテ
112	S505	深鉢・口縁部	LRタテ→浅華に沿うナデ	ナデ	
113	S505	深鉢・胴部	浅い流線・LRロイロー?	ナデ	外裏スス付着
114	S506	深鉢(1/4層未満)	6波状口縁?/LRタテ→太く浅い流線	ナデ	外裏二次流線? 内面下部コグ付着
115	S506	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い流線	ナデ	外裏スス付着
116	S506	深鉢・胴部	LRココロ→太く浅い流線	ナデ?	外裏スス付着
117	S506	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い流線	ナデ	外裏スス付着
118	S507	深鉢(1/2層未満)	ルタテ → **下の彫口、輪土接合面刺突	ナデ	突出部内面コグ付着、その下はナデ
119	S507	鉢(底1/4層未満)	LRタテ/底面ナデ	ナデ	
120	S507	鉢(底1層)	LRタテ/底面ナデ	ナデ	外裏スス付着、内面コグ付着
121	S507	鉢(底2層以下)	LRタテ/底面ナデ	ナデ?	

第41図 遺構内出土土器(10)(青野滝北I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			口縁部、肩部、底部／底面、縄文身体など	内面	
122	S07	深鉢・口縁部	新り直し口縁／LRタテ	ナデ下層	外周裏面?
123	S07	深鉢・口縁部	口唇ナデ／新り直し口縁・LRタテ→口縁ナデ	ナデ	外周裏ス付着
124	S07	鉢?・口縁部	RLの段多量?ナデ一部は浅緑ナデ	ナデ	外周全面ス、内面コブ付着
125	S07	深鉢・底部	RLタテ→ナデ、無着部帯	ナデ	
126	S07	深鉢・口縁部	RLタテ→太い沈線	ナデ薄ら	
127	S08	小型1/2層以下	縄文把手2層位、太く浅い沈線／底面ナデ	ナデ	
128	S08	深鉢・底部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	外周裏ス付着
129	S08	深鉢・底部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	
130	S08	深鉢・口縁部	口縁ナデ／LRタテ	ナデ	
131	S08	深鉢・底部	LRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	
132	S08	深鉢・底部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	下の割口縁土層全面剥離
133	S08	鉢・口縁一部	RLタテ→太く浅い沈線	ナデ	
134	S08	深鉢・底部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ?	内面横付けはけ?むだ
135	S08	深鉢・口縁部	LRタテ→浅い沈線	ナデ	
136	S08	深鉢・底部	LRタテ→ローナデ	ナデ丸	
137	S08	深鉢・口縁部	口縁交差部／浅い沈線	ナデ?	
138	S08	深鉢・口縁部	口縁交差部／RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ下層	周溝縁
139	S09	鉢? (2/3層以下)	RLタテ→浅い沈線ナデ／底面ナデ	ナデ	外周裏ス、内面コブ付着
140	S09	深鉢? (裏一層)	LRタテ／底面／底面ナデ	焼跡	外周裏ス、内面コブ付着がた

第 42 図 遺構内出土土器 (11) (青野滝北 I)



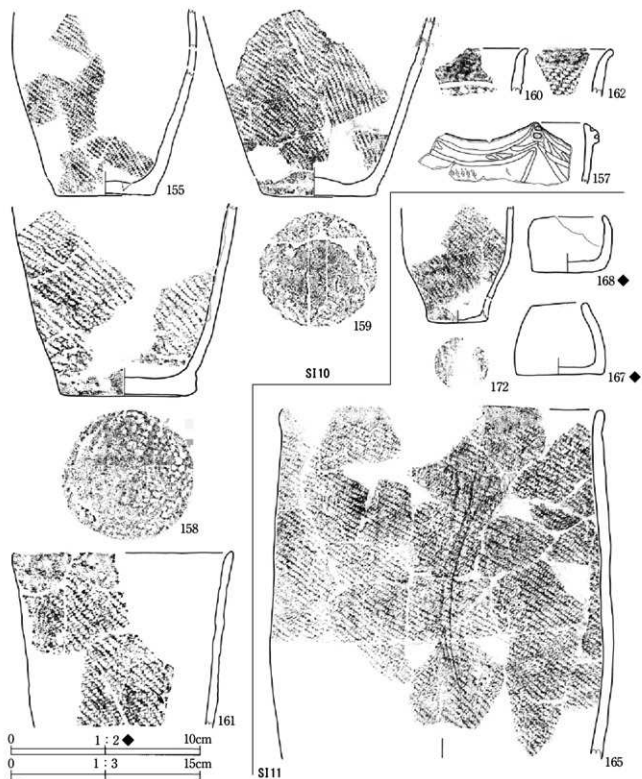
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部/胴部/底面/裏面/縁文帯体など)	(調整など)	
141	S309	深鉢(1/4周未満)	口縁突起/口縁ナデ/ハクナデ	ナデ	外面スス、二次焼成、内面コゲ?
142	S309	鉢(1/4周未満)	口縁ナデ/ハクナデ	ナデ	外面スス、内面コゲ付着?、下ただけ
143	S309	深鉢(1/4周未満)	4周取口縁/口縁ナデ/口縁ナデ/口縁ナデ/口縁ナデ	ナデ	文様も表面?、内面コゲ付着?
144	S309	深鉢・胴部	ハクナデ/ハクナデ	ナデ	外面スス付着
145	S309	深鉢・胴部	ハクナデ/ハクナデ	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
146	S309	深鉢・胴部	ハクナデ/ハクナデ	ナデ	ハクナデ/ハクナデ
147	S309	深鉢・口縁部	口縁突起/口縁ナデ/口縁ナデ	ナデ	縁文帯付着
148	S309	深鉢(1/4周未満)	口縁突起/口縁ナデ/口縁ナデ	ナデ	外面スス、二次焼成、スス、内ただけ
149	S309	深鉢・口縁部	口縁突起/口縁ナデ/口縁ナデ	ナデ	*182と同一体
150	S309	鉢(裏のみ一部)	4周取口縁/口縁ナデ/口縁ナデ/口縁ナデ	ナデ	外面スス、二次焼成、内面コゲ付着

第43図 遺構内出土土器(12)(青野滝北1)



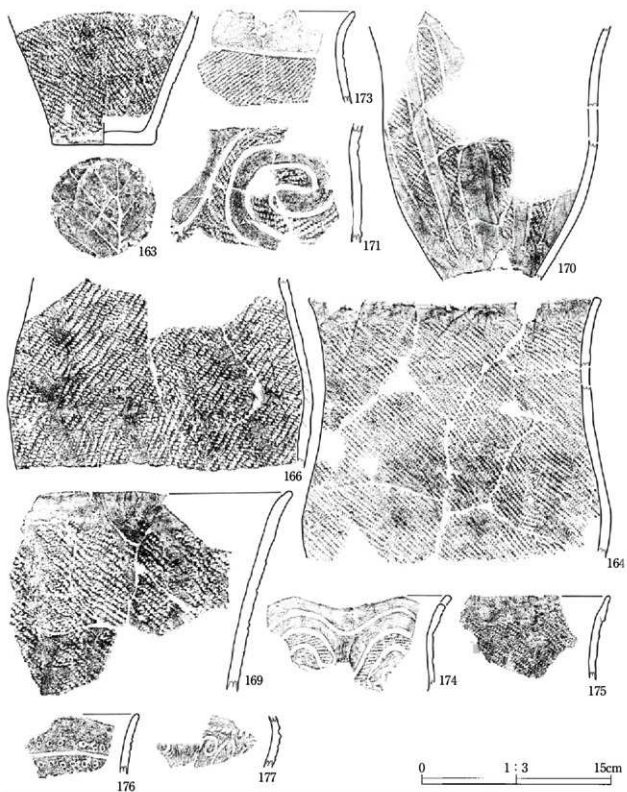
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		内面	備考
			(口縁部、肩部、底部)	(底面、胴文様体など)		
151	[5]10 Ⅱ 中央付込・器層	深鉢(底のみ一層)	L19字ノ底面～底蓋字	ナ	ナ	外裏面? 外中央部又、内面コガ
152	[5]10 Ⅱ 中央付込・器層	深鉢(口3・4層)	L19字	ナ	ナ	外裏面、外蓋ス、内蓋裏
153	[5]10 Ⅱ 中央付込・器層	深鉢(口2層以下)	L19字ノ底面～底蓋字 (・器一帯縁部内1.3層未満)	ナ	ナ	外スニ次後成、内コガだけ
154	[5]10 Ⅱ 中央付込・器層	深鉢(底2.3層未満)	L19字ノ底面～底蓋字 (・底縁部内)	ナ	ナ	外上ス、下ニ次後成、内コガ
156	[5]10 Ⅱ 中央付込・器層	深鉢(1.4層未満)	L19字	ナ	ナ	外裏面? 外ス、内蓋裏

第44図 遺構内出土土器 (13) (青野湖北 I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部・唇部・底部・蓋蓋、継文溝体など)	内面	
155	1510 貝島中央付道・埋土	鉢(4/5周以下)	1R9字ノ底彫一重葉子	ナデ	外ノスス、下ニ次焼成、内コグ多
157	1510 貝島中央付道・埋土	深鉢・口縁部	大波紋口縁ノ後半部、深い波紋・上彫目、深い彫文ノ部々	摩耗ひたい	内ノ厚縁
158	1510 貝島中央付道・埋土	深鉢(底のみ一重)	細1R9字ノ底彫代葉一重彫一重葉子	摩耗ひたい	外ノスス、下ニ次焼成、内コグたぐれ
159	1510 貝島中央付道・埋土	深鉢(底のみ一重)	細1R9字ノ底彫代葉一重彫一重葉子	ナデ	外ニ次焼成で古い、内コグ
160	1510 貝島中央付道・埋土	深鉢・口縁部	太く深い波紋・割欠	ナデ	
161	1510 多磨寺・埋土	深鉢	1R9字	ナデ	
162	1510 多磨寺・埋土	深鉢・口縁部	1R9字	5/8字	外ノスス又付置
165	1511	深鉢(2/3周未満)	1R9字	ナデ	内面裏面、外スス二次焼成、内たぐれ
167	1511	小笠鉢(底一重)	ナデ(手ノ欠)	ナデ	内面スス又付置物
172	1511	鉢(2/3周未満)	1R9字ノ底葉子	ナデ	外ノスス、内面上コグ付置

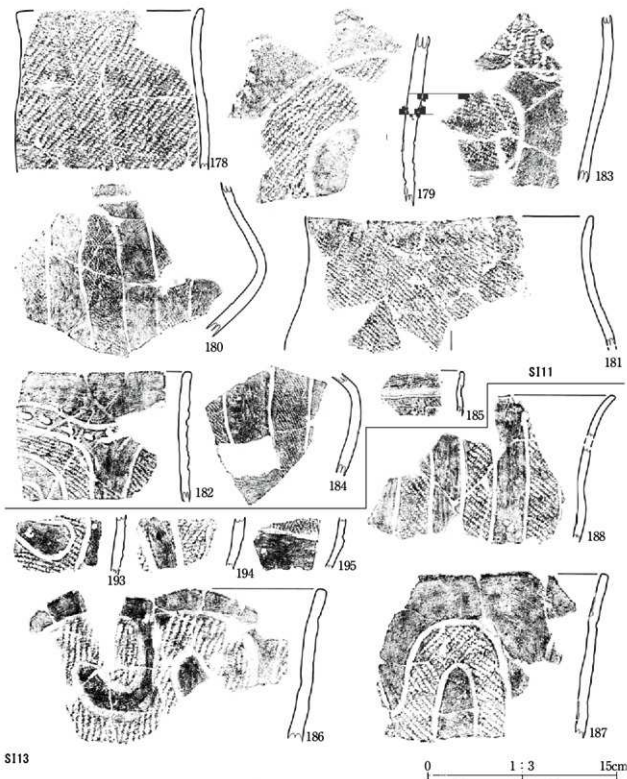
第 45 図 遺構内出土土器 (14) (青野滝北 I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面		備 考
			(口縁部・胴部・底部／底面、縄文器体など)	内 面 (内面など)	
163	[S1]	深鉢(底一層)	LR+粘粉タテ一層部ナデ/底面	ナデ	上部口縁合面割離、内面コグ、縞鉢
164	[S1]	深鉢(胴部一層)	口縁物文ハコタテ	ナデ	外底面? 外二次焼成、スス、西コグ?
166	[S1]	深鉢(胴部)1/2層	凡タテ (*上の割口、粘土接合面割離)	縞鉢かだけ	外底面スス付着
169	[S1]	深鉢・口縁部	口縁物文ハコタテ	ナデ	外底二次焼成スス層鉢、西コグ付着
170	[S1]	深鉢(スリ目以下)	LRタテ+太く強い沈線 (*下の割口粘土接合面割離)	ナデ	外二次焼成、内コグ、下側は白け
171	[S1]	深鉢・胴部	LRロビロロー太い沈線	ナデ	外底面スス、内面下コグ付着
173	[S1]	深鉢・口縁部	凡タテ一層部沈線・生付牛乳光	凡タテ	
174	[S1]	鉢(口縁部未満)	外底面口縁・内面コグナデ+太く強い沈線・生付牛乳光	ナデ?	外底面スス付着
175	[S1]	深鉢・口縁部	張り出し口縁ハコタテ	ナデ	外底面スス付着
176	[S1]	深鉢・口縁部	流状口縁/竹葉状工具磨痕方向斜交刺・太く強い沈線	ナデ?	沈線
177	[S1]	鉢・胴部	下から斜交刺・強く縞文沈線	ナデ	外底面スス付着

第46図 遺構内出土土器 (15) (青野滝北 I)

3 出土遺物



S113

0 1:3 15cm

No.	出土地点・層位	器種・部位	材質 (口縁部・腹部・底面/底裏、縄文質地など)	内面	備考
178	S011	深鉢(1/3周未満)	Rt,タテ (*下の細口筋と接合面剥離)	ただれ	外面スス二次焼成、内面コグ付着
179	S011	深鉢・腹部	Rt,タテ→太く濃い沈線ナデ	ナデ	内面下部焼けはじけ?ひびい
180	S011	鉢?・腹部	LHタテ→太く濃い沈線・3本キ (*208と同一個体)	3本キ	外面黒変?、内面下部焼れている
181	S011	深鉢(1/4周未満)	LHタテ	ナデ	内外砂粒露出
182	S011	深鉢・口縁部	LHタテ→太く濃い沈線・3コマから剥安粒(*下の細口剥離)	ナデ	外面スス、内面コグ付着
183	S011	深鉢・腹部	LHタテ→太く濃い沈線	ナデ	内外灰色
184	S011	鉢?・腹部			*208と同一個体
185	S011	鉢?・口縁部	単軸筋1(Rt-イロイロ・細く濃い沈線)	ナデ	
186	S013	深鉢(1/3周未満)	4本筋/口唇ナデ/新流口縁/Rt,タテ→濃い沈線ナデ	ナデ	外面スス付着、内外黒粒
187	S013	深鉢・口縁部	LHイロイロ→太く濃い沈線	ナデ	下の細口筋と接合面剥離、内面黒粒
188	S013	深鉢(1/4周未満)	LHタテ→太く濃い沈線ナデ	ナデ	外面スス付着、内面コグ付着
193	S013	深鉢・腹部	Rt,3コマ→太く濃い沈線	ナデ	外面黒変?
194	S013	深鉢・腹部	Rt,タテ→太く濃い沈線	ナデ	内面コグ付着?
195	S013	鉢?・腹部	LHイロイロ→3本キ?	ナデ	

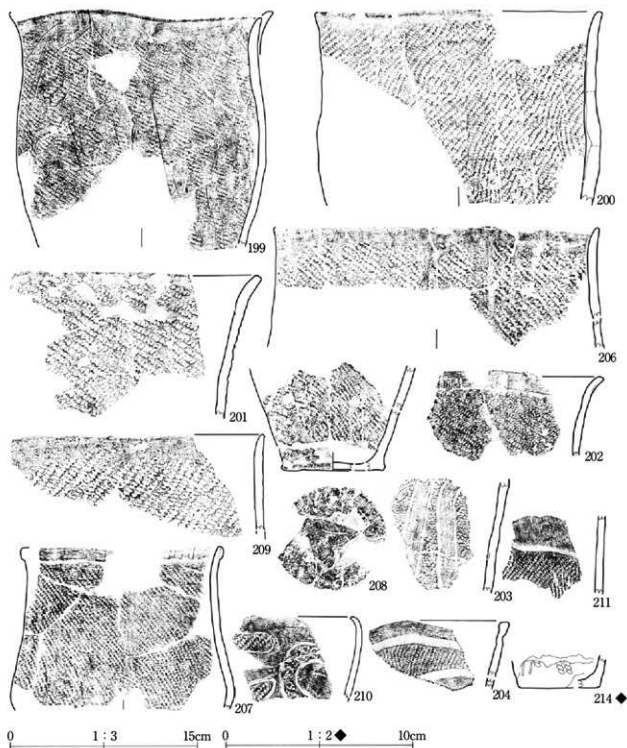
第47図 遺構内出土土器(16)(青野滝北I)



S114

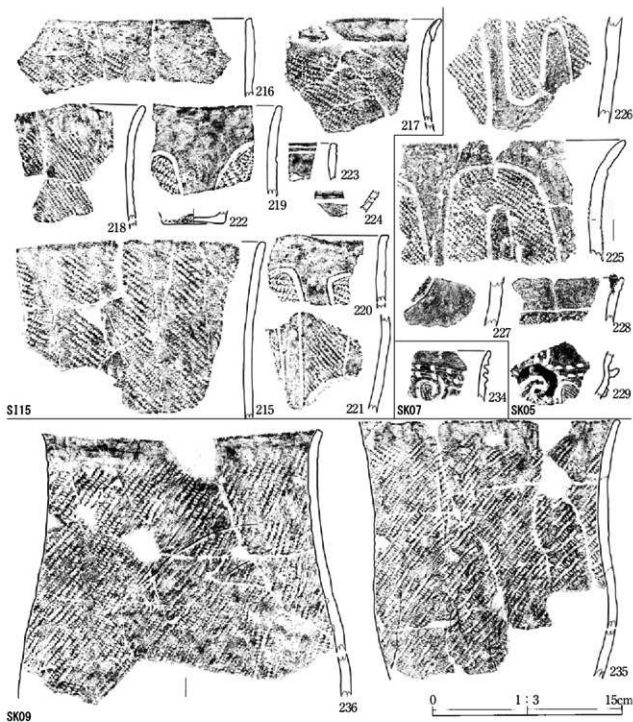
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部・胴部・底部/蓋裏、縁文主体など)	内面 (器壁など)	備考
189	S113	深鉢(1/5用未通)	波状口縁/丸タテ→太く濃い沈み沈線	ナデ	内スス、内コグ付着、内内厚化
190	S113	深鉢(1/5用未通)	折り返し口縁ナデ/丸タテ	ナデ	内面黒面? 外蓋スス付着
191	S113	深鉢・口縁部	波状口縁/丸タテ→太く濃い沈み沈線	五分キタ	
192	S113	深鉢・胴部	丸タテ→太く濃い沈み沈線	新蓋	
196	S113	深鉢・口縁部	折り返し口縁(下から割突刺)/丸タテ	ナデ	
197	S114	深鉢(底のみ一度)	4重波口縁/口縁無文/丸タテ/波部ナデ/蓋裏未通	ナデ	外蓋スス、二次産成ひたい、内コグ?
198	S114(S1, 蓋裏ブロック、ベルト)	深鉢(1/3用未通)	丸タテ	ナデ	外蓋スス、内面コグ、ただれ
205	S114	深鉢・胴部	1.8倍コ→細く濃い沈線	ただれ	
212	S114	深鉢・胴部	1.8倍コ/白タテ→太く濃い沈線・磨消面滑らか	ただれ	
213	S114	深鉢・胴部	1.8倍コ→太く濃い沈線	ナデ薄らか	外蓋スス付着
230	S113(S106)	深鉢・口縁部	1.8倍コ	ナデ	
231	S113(S106)	深鉢・胴部	丸タテ→細く濃い沈線・縁文痕跡	五分キ	
232	S113(S106)	深鉢・胴部	丸タテ→沈線	ナデ	外蓋スス、内面コグ付着
233	S113(S106)	深鉢・胴部	1.8倍コ/白	ナデ	

第 48 図 遺構内出土土器 (17) (青野湖北 I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	作 業 (口縁部・底部・底面・底面・底面など)	内 面 (図説など)	備 考
199	IS14	深鉢(1/3周未測)	波状口縁単位不明、口縁無文、L19ナテ	ナテ	作面裏面
200	IS14	深鉢(1/4周)	凡タテ (*下の基位粘土塊合面剥離)	ナテ	作面底? 二次焼成、内下部分だけ
201	IS14	深鉢・口縁部	L19ナテ	ナテ	
202	IS14	鉢(1/4周未測)	波状口縁、口縁無文、L19ナテ	ナテ	作面又、内面コウ付着
203	IS14	深鉢・底部	凡タテ?→浅い波線	ナテ	作面又付着、内面コウ多い
204	IS14	深鉢・口縁部	波状口縁、L19ロイロ→浅い波線・磨面滑らか	凡ナテ	作面二次焼成、内面コウ付着
206	IS14	深鉢(1/3周未測)	口縁無文、L19ナテ	ナテ	
207	IS14	深鉢(1/4周未測)	波状口縁、口縁無文、L19ナテ	ナテ	作面又、二次焼成、内下コウ付着
208	IS14	深鉢(1/3周未測)	L19ナテ→底面ナテ/底面・本業焼	ナテ	作面又、二次焼成、内面コウ付着
209	IS14	深鉢・口縁部	口縁無文、凡タテ	ナテ滑らか	作面又付着
210	IS14	深鉢?・底部	L19ロイロ→浅い波線	ナテ	作面二次焼成、内面コウ多
211	IS14	深鉢・底部	L19ナテ→浅い波線	ナテ	作面又付着、内面滑らか付着?
214	IS14	小型(1/3周未測)	縦文?/底部→底面ナテ	ナテ	内面全面コウ付着

第49図 遺構内出土土器 (18) (青野滝北I)

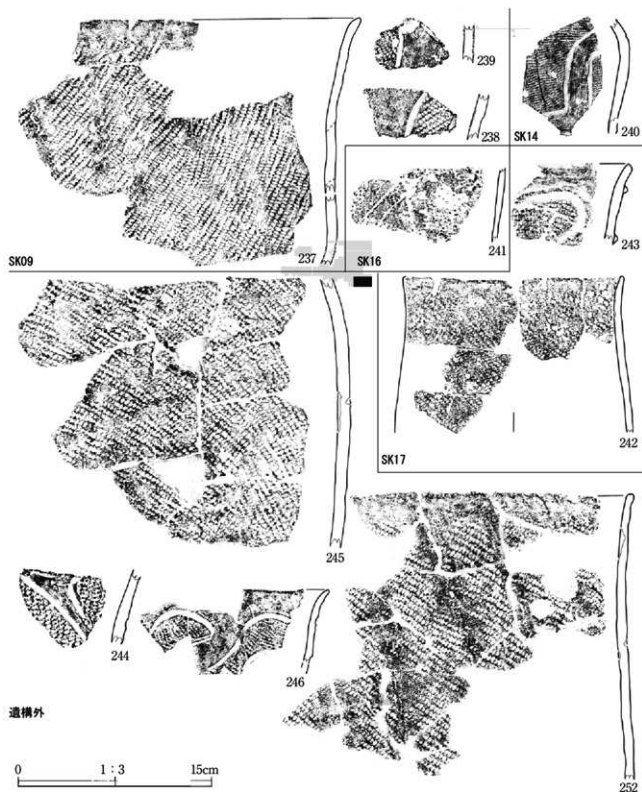


S115

SK09

No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部、胴部、底面、縁文形状など)	(内面など)	
215	S115	深鉢(1/3肩未満)	LR手・粘粉少	ナデ	外面又入、墨粒、内面磨けはじけ
216	S115	深鉢・口縁部	LR手	ナデ	外面又入、内外磨粒して砂粒露出
217	S115	深鉢・口縁部	折り出し・口縁無文/LR手	ナデ	外面二次焼成で深い
218	S115	深鉢・口縁部	波状口縁・口縁無文/LR手	ナデ	
219	S115	深鉢・口縁部	LR手→太く深い沈線	ナデ	
220	S115	深鉢・胴部	LR手→縦の深い沈線	ナデ	外面又入、内面下コゲ付着
221	S115	深鉢・口縁部	波状口縁/LR手→丸い沈線	ナデ	外面又入付着
222	S115	小型(皿一帯)	ナデ		
223	S115	ナ・口縁部	口縁内面沈線・土方手	土方手	
224	S115	ナ・胴部		新灰	
225	SK05	深鉢・口縁部	LR手→太く深い沈線 (*222と同一体)	ナデ	外面又入、内外二次焼成で割面?
226	SK05	深鉢・胴部		ナデ	*221と同一体
227	SK05	深鉢・胴部	風文磨面不明→沈線	ナデ薄みか	
228	SK05	深鉢・口縁部	LR手コゲ沈線	ナデ	
229	SK05	鉢・胴部	高い折付・LR手→太く深い沈線・割面割・突起	ナデ	外面又入、内面下コゲ付着
234	SK07	深鉢・口縁部	波状口縁・波状底面/LR手	土方手	外面又入付着
235	SK09	深鉢(1/4肩未満)	口縁無文/LR手	ナデ	内外磨面、外又入、二次焼成
236	SK09	深鉢(1/3肩未満)	LR手	ナデ	内外磨面、外面二次焼成

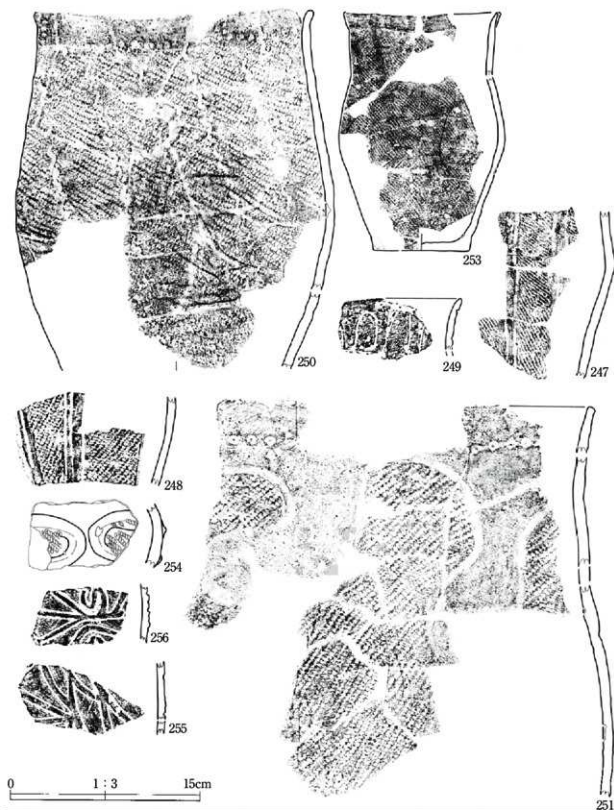
第50図 遺構内出土土器 (19) (青野滝北 I)



遺構外

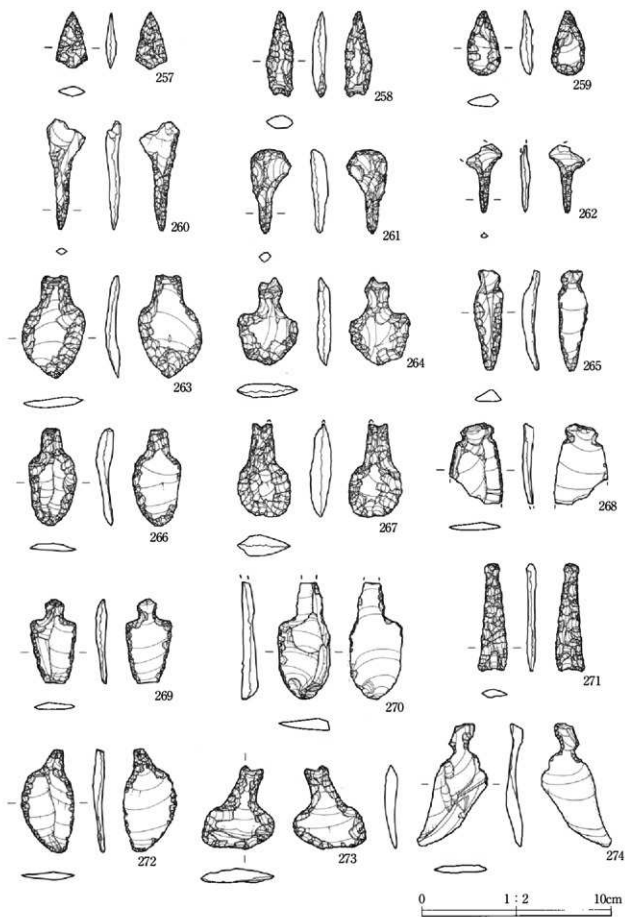
No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (口縁部・肩部・腹部・底面・縁文・器体など)	内 面 (調整など)	備 考
237	SK09	深鉢(1/4角末通)	口縁無文/Rナツ	ナツ溝らか	外底欠、二次焼成
238	SK09	深鉢・腹部	Rナツナツ→太く浅い沈線	ナツ	外底欠、二次焼成、内面磨けはじけ付
239	SK09	深鉢・腹部	L/Rナツナツ→太く浅い沈線	ナツ	内面欠け
240	SK14	壺?・腹部	L/Rナツナツ→太く浅い沈線・磨滅部一段高い	ナツ輪筋痕	
241	SK16	深鉢・腹部	縁文器体不割→沈線	磨鉢	内面磨鉢痕(色は濃い)
242	SK17	深鉢(1/3角末通)	L/Rナツ	ナツ	外底二次焼成、内面磨けはじけ付?
243	SK17	深鉢・口縁部	縁文高いL/Rナツメツ	ナツ	外底欠け付着、外底磨鉢痕はじ
244	SK16	深鉢・腹部	R/Rナツナツ→太く浅い沈線	ナツ溝らか	
245	足部中央付近4#	深鉢(1/3角末通)	L/Rナツ	ナツ溝らか	外底欠け付着
246	足部2#	鉢(1/3角末通)	沈線+磨滅付→L/Rナツ→太い沈線	ナツ	
252	足部2#	深鉢(1/4角末通)	口縁無文/L/R+縁部ナツ	ナツ	内面磨鉢

第51図 遺構内出土土器(20)・遺構外出土土器(1)(青野滝北1)

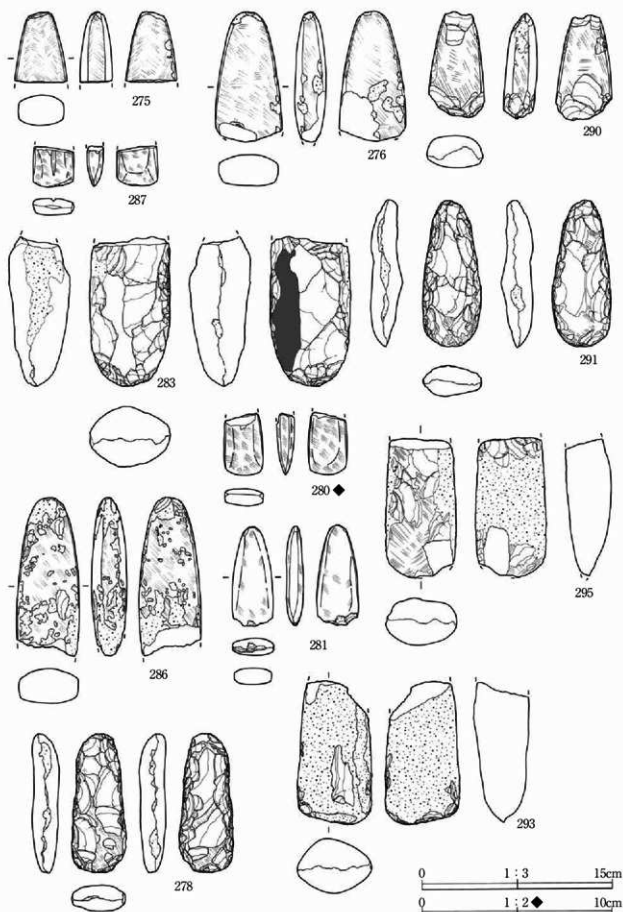


No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面		備 考
			(口縁部、器部、底部・底面、縄文身体など)	内 面	
247	ⅡB9c付着	深鉢・胴部	L997?→太く浅い浅鉢ナデ	ナデ	内面焼けはじけ?
248	ⅡB9c	深鉢・胴部	R9.7ナ?→半籠竹管状工具による沈線一ナデ	ナデ薄らか	下の頸口軸土柱古銅製
249	ⅡB9c	鉢・口縁部	R9.7ナ?→浅い浅な沈線	ナデ	内面焼けはじけ?
250	ⅡB9a2	深鉢(1.2)胴(赤土)	口縁・半籠竹管状工具による沈線刻4単位/180°→短形ナデ	ナデ	外二次焼成ひびき、内面焼けはじけ?
251	ⅡB9a2	深鉢(1.4)胴(赤土)	口縁・半籠竹管状工具による沈線刻4単位/180°→ナデ	ナデ	外赤土付着、内赤土付着
252	遺構外	鉢(深2.2)胴	折り返し口縁無文/L997?→器部一高筒ナデ	ナデ	外赤土二次焼成、内赤土付着
253	遺構外	深鉢?・胴部	糸の痕跡→R9.7ナ?薄らか	薄らか	
254	遺構外	深鉢?・胴部	縁部細線刻沈線・薄らか	ナデ	外赤土付着
255	遺構外	深鉢・胴部	縁部細線刻	ナデ薄らか	外赤土付着

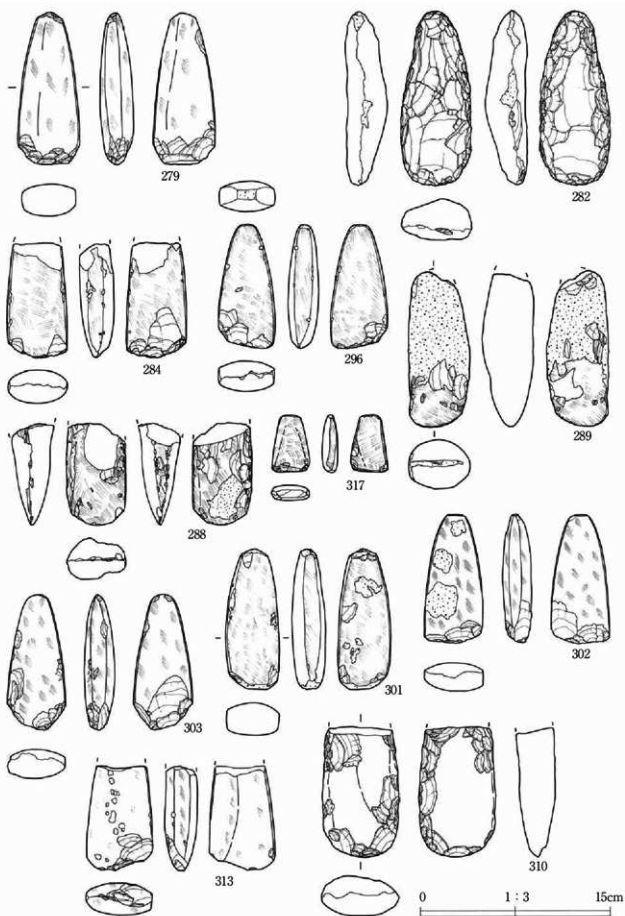
第52図 遺構外出土土器(2)(青野滝北I)



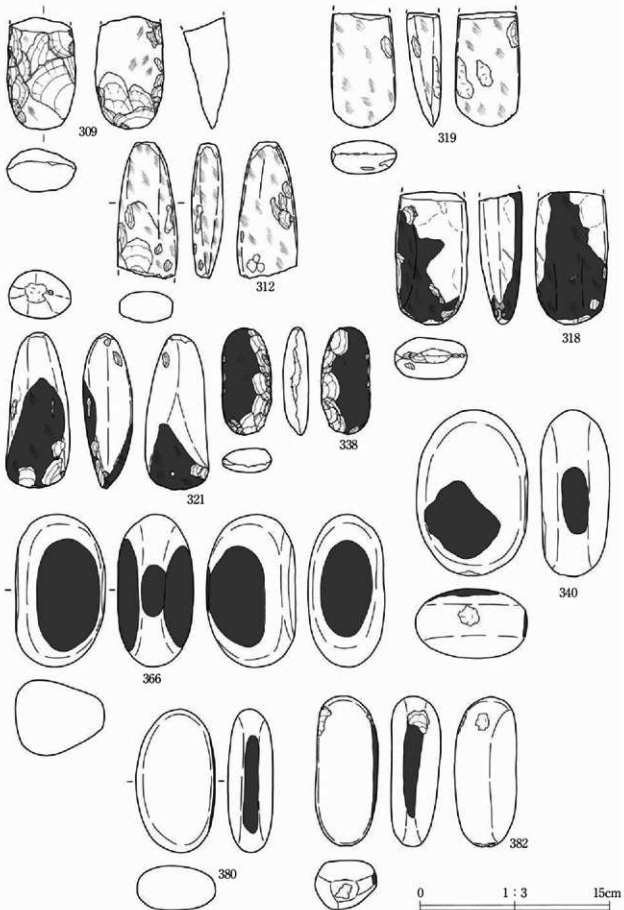
第 53 図 石器 (1) (青野滝北 I)



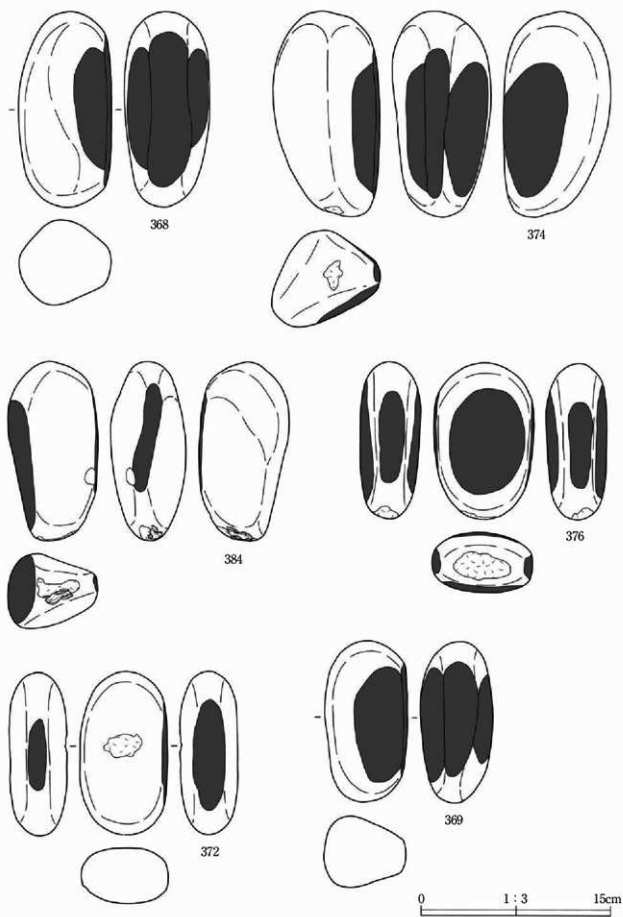
第54図 石器(2)(青野滝北I)



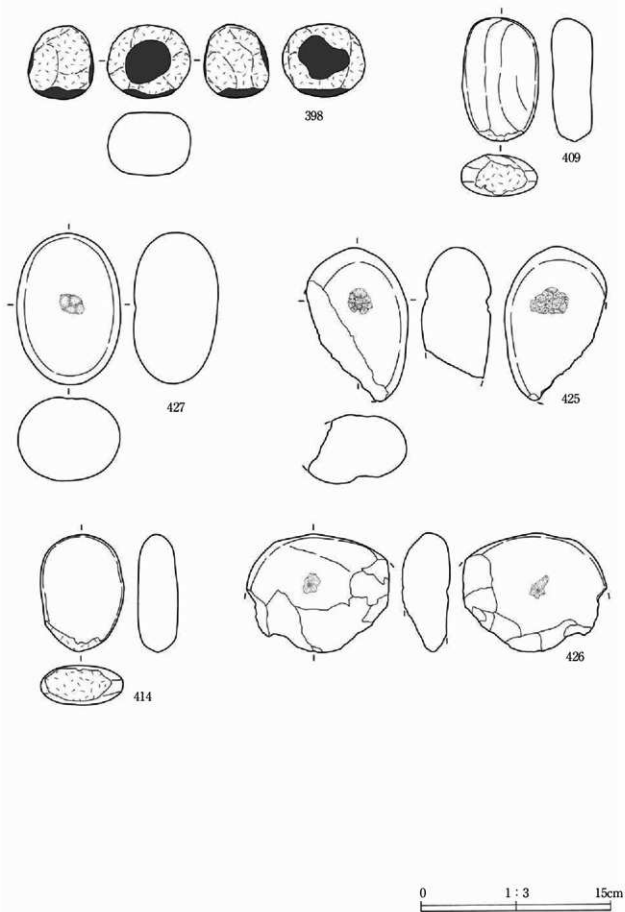
第55図 石器(3)(青野滝北1)



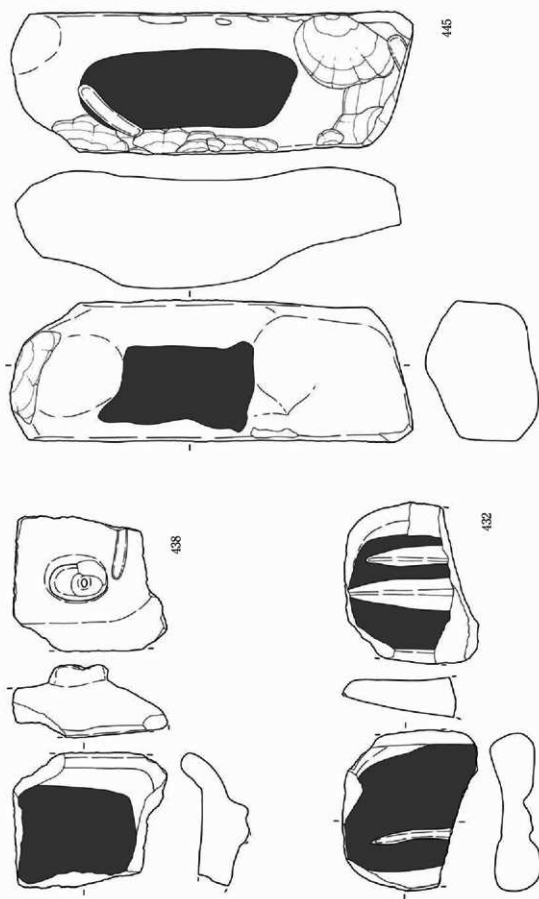
第 56 図 石器 (4) (青野滝北 I)



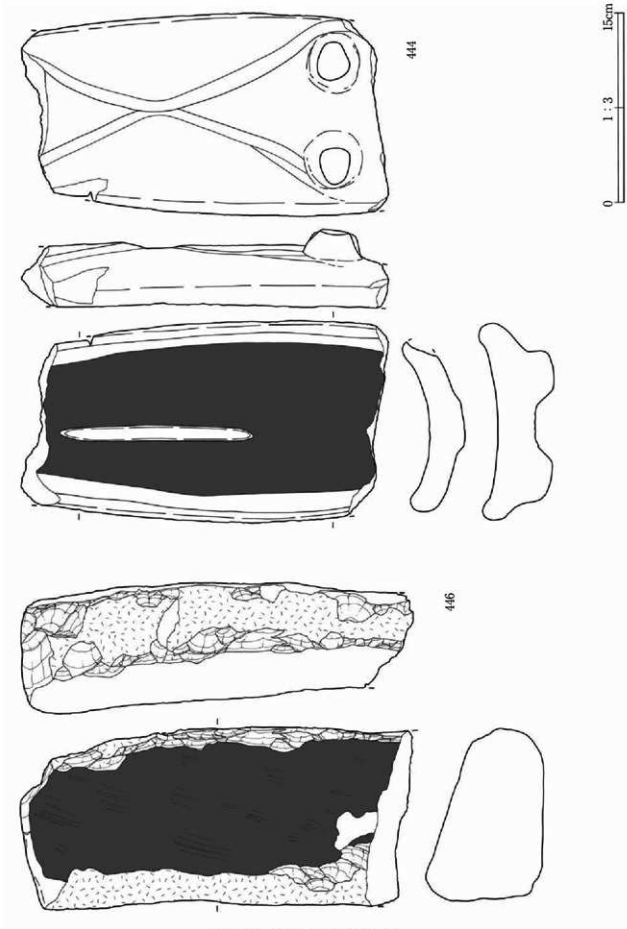
第 57 図 石器 (5) (青野滝北 I)



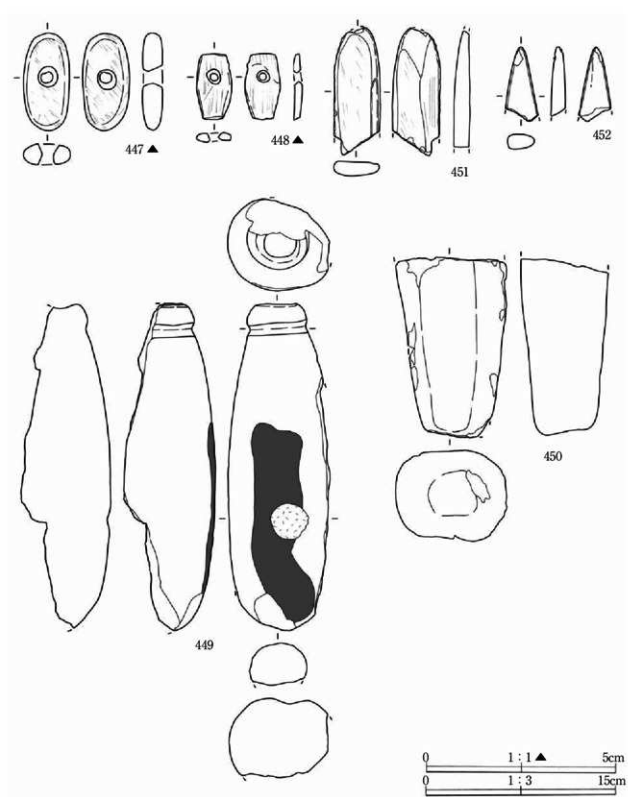
第 58 図 石器 (6) (青野滝北 I)



第59図 石器(7)(青野滝北1)



第 60 図 石器 (8) (青野滝北 I)



第 61 図 石製品 (青野滝北 1)

第2表 石器観察表(青野滝北I)

機軸ID	図版	写真	出土地点・層位	部類	法量値()は残存値			石材	産地	備考	
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]				
257	53	40	S301東側・埋土	石鏡	2.90	1.60	0.50	1.70	頁岩	北上山地	完整
258	53	40	S309・埋土	石鏡	4.50	1.40	0.70	4.40	頁岩	北上山地	完整
259	53	40	S311南東ブロック・埋土	石鏡	3.40	1.75	0.65	3.30	頁岩	北上山地	完整
260	53	40	S301北側・埋土	石鏡	5.80	2.05	0.80	4.20	頁岩	北上山地	完整
261	53	40	S303北西ブロック・埋土	石鏡	(4.40)	2.10	0.95	5.80	頁岩	北上山地	先端部磨蝕欠け
262	53	40	S309・埋土	石鏡	(3.60)	(1.85)	0.50	1.30	頁岩	北上山地	終上端部欠けあり
263	53	40	S311南東ブロック・埋土下位	石鏡	5.40	3.30	0.75	6.80	頁岩	北上山地	終上端部欠けなし
264	53	40	S303・埋土	石鏡	4.65	3.20	0.70	6.80	頁岩	北上山地	完整
265	53	40	S303北西ブロック・埋土	石鏡	5.30	1.50	0.90	4.60	頁岩	北上山地	完整
266	53	40	S303北西ブロック・埋土	石鏡	5.15	2.50	0.90	7.60	頁岩	北上山地	完整 基部狭りなし
267	53	40	S303北東ブロック・埋土	石鏡	(4.90)	2.80	1.10	11.90	頁岩	北上山地	基部上端部破かへ欠け 基部狭りなし
268	53	40	S304・埋土	石鏡	(4.30)	(2.80)	(0.50)	5.30	頁岩	北上山地	先端部欠落 灰白色の石材
269	53	40	S304南西ブロック・埋土	石鏡	4.45	2.40	0.60	4.80	頁岩	北上山地	完整
270	53	40	S305・埋土	石鏡	(6.15)	2.75	0.65	10.60	頁岩	北上山地	基部欠損
271	53	40	S309・埋土	石鏡	5.70	1.55	0.50	3.70	頁岩	北上山地	完整
272	53	40	S311南西ブロック・埋土	石鏡	5.45	2.80	0.60	9.70	頁岩	北上山地	狭りなし
273	53	40	S311南東ブロック・埋土	石鏡	4.40	3.85	0.70	7.70	頁岩	北上山地	狭りなし
274	53	40	S315・埋土	石鏡	6.55	3.70	0.65	6.60	頁岩	北上山地	完整 刃部加工なし
275	54	41	S301南東ブロック・埋土	石斧頭	(5.60)	(4.10)	(2.60)	9.40	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
276	54	41	S302・埋土	石斧頭	(10.30)	(5.20)	(2.50)	20.20	ヒン岩	北上山地	刃部欠損
277	41	40	S302南西ブロック・埋土下位	石斧頭	13.10	9.00	2.80	269.00	凝灰岩	北上山地	未成品?
278	54	41	S302南西ブロック・埋土	石斧頭	11.00	4.30	2.10	135.70	凝灰岩	北上山地	完整
279	55	41	S303・埋土	石斧頭	(12.00)	4.80	2.50	246.00	凝灰岩	北上山地	刃部欠損再加工?
280	54	41	S303南東ブロック・埋土	石斧頭	(3.20)	2.00	0.90	10.30	頁岩	北上山地	基部欠損 小型
281	54	41	S303北西ブロック・埋土	石斧頭	7.90	3.20	1.30	55.00	細粒閃緑岩	北上山地	完整 小型
282	55	41	S303北東ブロック・埋土	石斧頭	13.80	5.50	3.20	302.60	凝灰岩	北上山地	完整
283	54	41	S304・埋土	石斧頭	(11.85)	(6.35)	(4.60)	492.65	凝灰岩	北上山地	基部欠損
284	55	41	S305・埋土	石斧頭	(8.15)	4.70	2.65	185.31	凝灰岩	北上山地	基部欠損
285	41	40	S305・埋土	石斧頭	(6.30)	(4.00)	(2.40)	77.87	砂岩	原地山層	刃部欠損
286	54	41	S305南西ブロック・埋土	石斧頭	(12.55)	(4.90)	2.70	257.00	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
287	54	41	S305南東ブロック・埋土	石斧頭	(3.10)	3.20	1.30	22.20	頁岩	北上山地	刃部のみ 溝あり 小型
288	55	41	S307・埋土上段	石斧頭	(6.10)	(4.70)	(3.30)	144.85	凝灰岩	北上山地	基部欠損
289	55	41	S307・埋土上段	石斧頭	(12.30)	4.85	3.90	384.97	凝灰岩	北上山地	基部欠損
290	54	41	S308西平・埋土	石斧頭	(6.30)	(4.40)	(2.50)	125.66	凝灰岩	北上山地	刃部 基部欠損
291	54	41	S308西平・埋土	石斧頭	11.60	4.60	2.40	165.18	凝灰岩	北上山地	完整
292	41	40	S308西平・埋土	石斧頭	(6.40)	(5.80)	(3.80)	259.48	砂岩	原地山層	基部欠損
293	54	41	S309・埋土	石斧頭	(11.40)	(5.90)	(4.30)	406.82	凝灰岩	北上山地	基部欠損 溝あり
294	41	40	S309・埋土	石斧頭	(12.20)	(6.50)	(3.70)	453.99	砂岩	原地山層	基部欠損
295	54	41	S309南平・埋土	石斧頭	(11.00)	5.60	3.70	345.82	凝灰岩	北上山地	基部欠損
296	55	41	S310・埋土	石斧頭	(9.80)	4.50	2.40	160.40	ヒン岩	北上山地	刃部 基部欠損
297	44	40	S310・埋土	石斧頭	(6.10)	(3.70)	(2.70)	93.41	凝灰岩	北上山地	下部部欠損 欠損部に二次加工
298	44	40	S310・埋土	石斧頭	(11.80)	(6.10)	(4.30)	440.39	砂岩	原地山層	基部欠損
299	44	40	S311東北ブロック・埋土	石斧頭	(6.40)	(4.40)	(2.50)	155.24	凝灰岩	北上山地	基部欠損
300	44	40	S311南西ブロック・埋土	石斧頭	(17.70)	7.60	5.70	785.88	凝灰岩	北上山地	未成品 308と接合
301	55	44	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(11.15)	4.25	2.60	217.63	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
302	55	44	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(10.20)	4.60	2.20	164.00	ヒン岩	北上山地	刃部欠損再加工?
303	55	45	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(10.70)	4.60	2.30	166.60	凝灰岩	北上山地	刃部欠損再加工?
304	45	45	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(8.90)	4.60	2.30	136.48	凝灰岩	北上山地	基部欠損 刃部一部欠損
305	45	45	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(14.10)	(6.40)	(3.30)	426.32	凝灰岩	北上山地	刃部か?
306	45	45	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(11.80)	6.40	3.30	293.35	凝灰岩	北上山地	基部一部欠損
307	45	45	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	16.40	7.80	4.50	642.43	砂岩	原地山層	完整
308	45	45	S311南東ブロック・埋土	石斧頭	(8.70)	(4.90)	(1.80)	76.33	凝灰岩	北上山地	300と接合
309	56	45	S313・埋土	石斧頭	(9.90)	5.40	3.50	218.40	凝灰岩	北上山地	基部欠損
310	55	46	S313南西・埋土	石斧頭	(10.30)	5.90	3.10	321.90	凝灰岩	北上山地	基部欠損
311	46	46	S313南西ブロック・埋土	石斧頭	(7.40)	5.70	3.60	235.99	凝灰岩	北上山地	基部欠損
312	56	46	S313南東ブロック・埋土	石斧頭	(10.80)	4.70	2.40	207.40	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
313	55	46	S313南平・埋土	石斧頭	(8.20)	5.20	2.50	196.40	凝灰岩	北上山地	基部欠損
314	46	46	S313砂石	石斧頭	(10.90)	(5.50)	(2.80)	238.83	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
315	46	46	S307・埋土上段	石斧頭	3.20	1.70	0.30	3.55	凝灰岩	北上山地	小型 完整
316	46	46	S309・埋土	石斧頭	(9.00)	5.20	2.30	187.83	砂岩	原地山層	基部欠損 側面、刃部磨 溝
317	55	46	S315・埋土	石斧頭	(4.60)	(3.00)	(1.20)	29.44	頁岩	北上山地	刃部欠損 欠損部分を再加工?
318	56	47	S315・埋土	石斧頭	(10.50)	5.70	3.30	360.20	凝灰岩	北上山地	基部欠損 一部に磨き
319	56	47	S315・埋土	石斧頭	(9.00)	5.00	2.60	205.60	凝灰岩	北上山地	基部欠損
320	47	47	S315・埋土	石斧頭	(6.90)	(4.70)	(2.50)	136.34	凝灰岩	北上山地	基部欠損
321	56	47	S317・埋土	石斧頭	12.10	4.90	3.70	334.90	凝灰岩	北上山地	刃部のみ
322	47	47	S317・埋土	石斧頭	(5.50)	(3.60)	(2.80)	81.98	砂岩	原地山層	刃部の一部
323	47	47	S325a・埋土	石斧頭	8.90	3.50	1.90	67.56	砂岩	北上山地	完整
324	47	47	S325b中央付近・埋土	石斧頭	(6.70)	(5.50)	(3.30)	253.81	凝灰岩	北上山地	基部欠損
325	48	48	S325b中央付近・埋土	石斧頭	(9.30)	(6.30)	(2.40)	166.91	凝灰岩	北上山地	基部欠損

3 出土土 遺物

図録No	図版	写真	出土地点・層位	形種	質量値 () は残存値			石材	産地	備考	
					長さ[mm]	幅[mm]	厚さ[mm]				重量[g]
326	46	2	日中央付法・直層	石片群	(12.40)	(5.90)	3.30	359.29	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
327	46	3	日中央付法・直層	石片群	(11.10)	5.20	2.50	234.63	デイヤイト	原山地層	刃部欠損
328	46	4	日中央付法・直層	石片群	(9.20)	(5.00)	(3.40)	266.83	砂岩	原山地層	刃部に磨り
329	46	5	日中央付法・直層	石片群	(7.00)	(6.20)	(2.70)	181.71	砂岩	原山地層	刃部のみ
330	46	6	日中央付法・直層	石片群	(7.70)	(4.70)	(3.30)	172.34	凝灰岩	北上山地	刃部のみ(刃部に磨り)
331	49	1	日中央付法・直層	石片群	(7.10)	(5.30)	(2.10)	113.40	凝灰岩	北上山地	刃部のみ(刃部に磨り)
332	49	2	日中央付法・直層	石片群	13.70	5.30	2.70	251.30	凝灰岩	北上山地	刃部(割製あり) 刃部に磨り
333	49	3	中央部・レンテ・直層	石片群	14.30	7.20	3.30	473.56	砂岩	原山地層	刃部
334	49	4	中央部・レンテ・直層	石片群	14.50	7.50	4.20	590.09	砂岩	原山地層	刃部
335	49	5	中央部・レンテ・直層	石片群	(6.60)	(3.70)	(1.50)	50.45	砂岩	原山地層	小型 裏面割製 刃部使用値?
336	49	6	中央部・レンテ・直層	石片群	(7.70)	(4.90)	(2.40)	130.20	砂岩	原山地層	刃部欠損
337	50	1	中央部・レンテ・直層	石片群	(6.90)	(4.90)	(2.90)	159.64	砂岩	原山地層	刃部のみ
338	56	50	5S02・埋土	石片群	8.60	3.90	1.90	87.60	ヒン岩	北上山地	刃部形成途中の磨片未成品? 磁石?
339	50	50	5S01南東ブロック・埋土	磁石	12.40	6.80	6.20	1025.88	花崗岩	北上山地	わずかに磨痕
340	56	50	5S02・埋土	磁石	13.20	8.75	5.45	977.38	デイヤイト	原山地層	側面磨 特殊磨石の可能性大
341	50	50	5S02・埋土	磁石	5.60	5.60	4.80	239.91	砂岩	原山地層	球状 両面磨・紐
342	50	50	5S03南東ブロック・埋土	磁石	5.50	5.20	5.10	235.54	ヒン岩	北上山地	球状 1面磨
343	50	50	5S03北西ブロック・埋土	磁石	7.00	6.70	4.70	362.49	凝灰岩	北上山地	球状 両面磨・紐
344	50	50	5S03北西ブロック・埋土	磁石	5.40	5.10	3.90	170.90	凝灰岩	北上山地	球状 片面磨 裏面紐?
345	50	50	5S05・埋土	磁石	6.80	6.30	3.90	277.09	デイヤイト	原山地層	球状 両面磨・紐
346	50	50	5S05・埋土	磁石	5.60	(4.40)	3.60	146.71	凝灰岩	原山地層	球状 両面磨 欠損
347	51	51	5S05・埋土	磁石	5.80	5.50	4.20	204.74	デイヤイト	原山地層	球状 両面磨・紐
348	51	51	5S07床面上	磁石	6.20	5.70	3.70	193.43	砂岩	原山地層	球状 両面磨・紐
349	51	51	5S10・埋土	磁石	6.90	5.70	5.50	336.82	デイヤイト	原山地層	球状 両面磨・紐
350	51	51	5S13南東ブロック・埋土	磁石	5.80	5.20	4.60	211.80	砂岩	原山地層	球状 両面磨・紐
351	51	51	5S13南平・埋土	磁石	6.00	5.60	3.30	186.61	デイヤイト	原山地層	球状 両面磨・紐
352	51	51	5S15・埋土	磁石	6.00	5.70	4.40	234.55	砂岩	原山地層	球状 両面磨・紐
353	51	51	5K13・埋土	磁石	5.20	5.00	4.70	178.40	砂岩	原山地層	球状 両面磨・紐
354	51	5S03・埋土	特殊磨石	14.40	8.60	4.60	870.60	花崗岩	北上山地	側磨	
355	51	5S03・埋土下位	特殊磨石	11.70	6.40	3.20	533.15	砂岩	原山地層	側磨・紐 産地石群の一つ	
356	51	5S03北東ブロック・埋土	特殊磨石	11.80	6.80	5.90	710.64	デイヤイト	原山地層	側磨・紐	
357	51	5S04・埋土	特殊磨石	13.60	6.40	4.50	544.61	デイヤイト	原山地層	側磨	
358	52	5S04・埋土	特殊磨石	12.00	6.10	5.00	539.27	砂岩	原山地層	側磨	
359	52	5S05・埋土	特殊磨石	11.90	7.50	6.80	860.30	砂岩	原山地層	側磨	
360	52	5S05北東ブロック・埋土	特殊磨石	15.00	8.40	5.70	1029.75	デイヤイト	原山地層	側磨	
361	52	5S05北東ブロック・埋土下位	特殊磨石	14.90	8.20	5.90	985.60	砂岩	原山地層	側+埋部磨	
362	52	5S07・埋土	特殊磨石	13.70	6.00	4.30	481.84	砂岩	原山地層	側磨	
363	52	5S07・埋土	特殊磨石	13.60	7.10	5.80	855.94	デイヤイト	原山地層	側磨+直磨	
364	52	5S07・埋土	特殊磨石	14.80	8.20	3.20	926.10	デイヤイト	原山地層	側磨+直磨? スリ付磨? 被動	
365	52	5S09・埋土	特殊磨石	15.80	5.70	5.70	768.43	砂岩	原山地層	側磨・紐 球状	
366	56	52	5S01南側・埋土埋土	特殊磨石	12.10	7.00	6.00	752.44	デイヤイト	原山地層	側磨
367	52	5S02南東ブロック・埋土	特殊磨石	(9.50)	6.20	3.20	300.11	デイヤイト	原山地層	側磨+両端紐	
368	57	52	5S03・埋土	特殊磨石	15.40	7.30	6.75	1102.08	頁岩	北上山地	側磨
369	57	52	5S03南西ブロック・埋土中～下位	特殊磨石	12.80	6.50	5.75	706.69	デイヤイト	原山地層	側磨
370	52	5S03北西ブロック・埋土	特殊磨石	14.80	7.00	4.70	751.15	頁岩	北上山地	側磨+紐	
371	52	5S03北側・埋土	特殊磨石	14.70	7.20	3.90	727.61	頁岩	北上山地	側磨	
372	57	53	5S05・埋土	特殊磨石	12.95	6.95	4.90	659.80	花崗岩	北上山地	両面磨
373	53	53	5S05・埋土	特殊磨石	12.40	5.70	5.70	406.91	頁岩	北上山地	両面磨
374	57	53	5S05・埋土	特殊磨石	16.30	6.40	7.70	1444.24	頁岩	北上山地	両面磨
375	53	53	5S07・埋土上位	特殊磨石	(14.70)	8.00	4.00	720.23	頁岩	北上山地	側磨・紐
376	57	53	5S09・埋土	特殊磨石	12.40	7.90	4.80	718.70	花崗岩	北上山地	両面磨 端部紐
377	53	5S09・埋土	特殊磨石	(13.00)	6.80	4.90	598.97	頁岩	北上山地	側磨+紐	
378	53	5S13南西ブロック・埋土	特殊磨石	13.80	7.20	6.30	920.84	デイヤイト	原山地層	側磨・紐	
379	53	5S13南東ブロック・埋土	特殊磨石	14.70	8.00	5.50	1020.27	頁岩	北上山地	側磨+紐	
380	56	53	5S13南東ブロック・埋土	特殊磨石	11.35	6.15	2.55	372.56	頁岩	北上山地	側磨
381	53	5S14・埋土	特殊磨石	15.80	7.80	5.50	846.30	頁岩	北上山地	側磨	
382	56	53	5S14・埋土	特殊磨石	11.90	4.80	2.90	340.11	頁岩	北上山地	側磨+紐
383	53	5S15・埋土	特殊磨石	12.90	7.50	5.00	740.61	デイヤイト	原山地層	側磨+紐	
384	57	54	5S15・埋土	特殊磨石	14.15	7.05	5.95	755.01	頁岩	北上山地	側磨+紐
385	54	1	ASA-g・直層	特殊磨石	17.80	7.40	4.80	1106.77	デイヤイト	原山地層	側磨+直磨+両端部紐
386	54	1	C1-a・直層	特殊磨石	15.90	7.60	3.80	797.17	デイヤイト	原山地層	側磨
387	54	1	日中央付法・直層	特殊磨石	15.80	6.50	4.90	826.57	砂岩	原山地層	2面磨り
388	54	1	日中央付法・直層	特殊磨石	13.90	7.80	5.00	834.65	デイヤイト	原山地層	側磨+直磨
389	54	1	日中央付法・直層	特殊磨石	14.10	6.70	3.80	666.37	頁岩	北上山地	側磨+両端紐
390	54	1	中央部・レンテ・直層	特殊磨石	10.80	5.10	3.20	292.52	砂岩	原山地層	側磨
391	54	1	5S03・埋土	特殊磨石	12.80	5.80	4.80	442.80	砂岩	原山地層	紐行による割製あり
392	54	1	5S03南東ブロック・埋土	磁石	5.40	4.50	4.00	142.55	デイヤイト	原山地層	球状 端部紐
393	54	1	5S05・埋土	磁石	5.70	5.60	4.80	237.14	頁岩	北上山地	両面磨・側面全面紐
394	54	1	5S05・埋土	磁石	6.00	5.90	3.90	263.74	凝灰岩	北上山地	両端紐
395	54	1	5S05・埋土	磁石	5.00	4.30	3.90	125.52	砂岩	原山地層	球状 端部紐

図版No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重量[g]			
396	54	S05-埴土	埴石	6.80	6.20	3.60	223.43	デイヤイト	原産地	両端敲	
397	54	S00南ブロック-埴土	埴石	7.50	5.80	4.80	294.42	砂岩	原産地	両端敲	
398	58	S07-埴面上	埴石	5.75	6.00	5.10	307.22	ヒン貢	北上山地	片蓋磨	
399	54	S07-埴面上	埴石	6.00	6.00	5.30	325.26	ヒン貢	北上山地	片蓋磨	
400	54	S07-埴土	埴石	5.90	6.70	4.30	242.31	凝灰岩	北上山地	片蓋磨・片蓋敲	
401	54	S07-埴土	埴石	7.40	6.70	5.00	344.70	デイヤイト	原産地	球状 両端敲	
402	54	S07-埴土	埴石	8.90	6.10	4.90	396.73	砂岩	原産地	両端敲	
403	55	S09-埴土	埴石	5.70	5.40	4.90	233.62	砂岩	原産地	両端敲	
404	55	S09P	埴石	7.50	5.30	3.30	212.64	砂岩	原産地	両端敲	
405	55	S10-埴土	埴石	7.70	6.90	6.00	383.68	砂岩	原産地	球部3ヶ所敲	
406	55	S13南東ブロック-埴土	埴石	(10.00)	7.50	3.40	379.93	凝灰岩	北上山地	両端敲	
407	55	S13南東ブロック-埴土	埴石	12.30	6.40	4.60	525.93	凝灰岩	北上山地	球部・側面2ヶ所敲	
408	55	S13南東ブロック-埴土	埴石	10.00	(5.70)	3.60	319.81	デイヤイト	原産地	両端敲	
409	58	S14-埴土	埴石	9.70	6.00	3.20	292.87	砂岩	原産地	両端敲	
410	55	S14-埴土	埴石	7.50	7.50	3.40	301.43	ヒン貢	北上山地	両端敲	
411	55	S14-埴土	埴石	5.60	5.30	4.10	186.48	デイヤイト	原産地	球状 両端敲	
412	55	S15-埴土	埴石	(9.60)	7.30	6.00	606.92	頁岩	北上山地	両端敲	
413	55	S15-埴土	埴石	8.20	7.80	3.20	307.37	デイヤイト	原産地	両側面敲	
414	58	S5 K17-埴土	埴石	9.30	8.50	3.10	297.48	デイヤイト	原産地	両端敲	
415	55	埴B-埴磨	埴石	5.50	5.20	5.20	237.07	砂岩	原産地	球状 両端敲	
416	55	埴B-埴磨	埴石	5.60	5.50	4.50	244.07	デイヤイト	原産地	球状 両端敲	
417	55	埴B中央付近-埴磨	埴石	10.20	9.70	5.30	764.85	頁岩	北上山地	2点敲打底	
418	55	埴B&C-埴磨	埴石	9.60	8.40	4.60	555.31	凝灰岩	北上山地	2ヶ所敲	
419	55	埴B&C-埴磨	埴石	5.70	5.60	3.80	177.84	花崗岩	北上山地	球状 両端敲	
420	56	埴B&C-埴磨	埴石	9.80	7.30	3.20	340.87	砂岩	原産地	両端敲	
421	56	埴B&C-埴磨	埴石	(10.80)	8.80	7.50	1037.47	デイヤイト	原産地	両端敲	
422	56	埴B-埴磨	埴石	6.80	6.60	5.80	390.26	ヒン貢	北上山地	片蓋磨・片蓋敲	
423	56	埴B-埴磨	埴石	6.80	6.60	4.90	319.41	砂岩	原産地	球状 両端敲	
424	56	埴B-埴磨	埴石	8.20	6.70	3.90	284.30	砂岩	原産地	両端敲 側面あり	
425	58	S6 S01-伊前産部	凹み石	(12.15)	(8.10)	(3.50)	631.30	デイヤイト	原産地	凹面に凹み	
426	58	S6 S11南東ブロック-埴土	凹み石	(9.30)	(11.20)	3.70	507.06	頁岩	北上山地	凹面に凹み	
427	58	S6 S13-埴土	凹み石	12.00	8.10	6.60	849.27	花崗岩	北上山地	片面に凹み	
428	56	S01南側-埴土	石皿	(12.00)	(8.70)	(3.60)	487.87	凝灰岩	北上山地	欠損	
429	56	S01北東ブロック-埴土	石皿	(16.20)	(12.40)	(8.80)	1772.46	砂岩	宮古層群	欠損	
430	56	S01北東ブロック-埴土	石皿	(11.10)	(7.80)	(3.10)	284.28	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損	
431	56	S02-埴土	石皿	(9.50)	(7.80)	(2.70)	225.28	凝灰岩	北上山地	欠損	
432	59	S03南西ブロック-埴土中〜下位	石皿	(10.65)	(12.75)	(4.15)	515.94	砂岩	宮古層群	表面に加工痕あり	
433	56	S04南東ブロック壁磨-埴土	石皿	(32.80)	(24.30)	(9.20)	7000.00	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損	
434	56	S05-1伊石	石皿	(18.00)	(16.00)	(7.40)	2382.01	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損	
435	56	S06伊石	石皿	(15.10)	(10.40)	(3.20)	1122.10	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損	
436	57	S07-埴土ブロック	石皿	(8.50)	(4.70)	(3.70)	148.08	凝灰岩	北上山地	側面	
437	57	S07-埴土	石皿	(11.00)	(8.40)	(2.40)	242.62	凝灰岩	北上山地	欠損	
438	59	S7 S07-埴土上位	石皿	(12.20)	(10.70)	(3.80)	441.86	凝灰岩	北上山地	側付き	
439	57	S09-埴土	石皿	(18.00)	(16.00)	(4.90)	1789.58	砂岩	宮古層群	両面使用	
440	57	S10-埴土	石皿	(26.20)	(10.80)	(8.70)	1753.41	凝灰岩	北上山地	2片接合	
441	57	S13-埴土	石皿	(19.90)	(13.80)	(4.80)	1564.21	砂岩	宮古層群	両面使用 442, 443と同一か	
442	57	S13-埴土	石皿	(15.80)	(10.30)	(3.40)	458.83	砂岩	宮古層群	両面使用 441, 442と同一か	
443	57	S13-埴土	石皿	(14.70)	(11.40)	(3.90)	680.54	砂岩	宮古層群	両面使用 441, 442と同一か	
444	60	S7 S15-埴土	石皿	(26.95)	(16.00)	(8.20)	1833.69	凝灰岩	北上山地	2片接合 側付き	
445	59	S08球上	焼石	31.80	11.30	9.50	3000.00	砂岩	宮古層群	2面使用	
446	60	S8 S03北西ブロック-埴土	焼石?*	(34.00)	(14.40)	(10.30)	8600.00	デイヤイト	原産地	3片接合	

第3表 石製品観察表 (青野滝北I)

図版No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重量[g]			
447	61	59	S01北東ブロック-埴土	磨飾品	2.60	1.25	0.55	3.10	滑石	早池峰山周辺	有蓋周辺の可能性も
448	61	59	S03北西ブロック-埴土	磨飾品	1.25	0.95	0.35	0.70	滑石	早池峰山周辺	有蓋周辺の可能性も
449	61	59	S03南東-埴土	石棒	(25.72)	(8.05)	(7.25)	1644.00	砂岩	宮古層群	3片接合(裏面割磨)
450	61	59	S14-埴土	石棒	(14.20)	(8.80)	(7.20)	1021.49	砂岩	宮古層群	
451	61	59	S15-埴土	石刀	(10.15)	(3.70)	(1.35)	68.71	砂岩	宮古層群	
452	61	59	S10-埴土	石刀?	(5.90)	(2.60)	(1.20)	16.73	砂岩	宮古層群	

V 青野滝北Ⅱ遺跡

1 概 要

青野滝北Ⅱ遺跡では、竪穴住居跡1棟、土坑7基を検出した。調査区はほぼ平坦な台地状の地形であり、北半は緩やかに北に下っている。竪穴住居跡は調査区のほぼ中心で検出した。また、陥し穴状土坑を南、中央、北でそれぞれ確認した。青野滝北Ⅰ遺跡と同様に、遺構検出面としたⅢ層は部分的に十和田中振火山灰をブロック状に含む黄褐色土である。これに対して、遺構埋土も黄褐色～褐色土のものが多く、遺構検出作業（ジョレンがけ）において平面形をとらえることは困難であった。そのため、多くの遺構はトレンチにて存在を確認して精査を開始した。遺跡の中心付近での標高は、概ね152m～153mである。

2 検 出 遺 構

(1) 竪 穴 住 居 跡

SI01 竪穴住居跡（第63・64図、写真図版62・63）

〈検出状況〉調査区のほぼ中央部ⅡB7hグリッドで検出した。Ⅲ層上面で小規模な柄杓状の暗褐色土の広がりを検出した。当初は土坑と判断したが、精査中に石囲炉を検出したため、竪穴住居跡と認定した。

〈規模・形状〉平面形は径約9m×7mの楕円形に近いものと思われる

〈埋土〉褐色土が中心で、炉近辺の床直上の埋土は黒褐色土が厚く堆積し、炭化物も多く見られた。南北ベルトの南側から中心部にかけて斜に焼土や炭化物、土器がまとまって入り込んでいる。

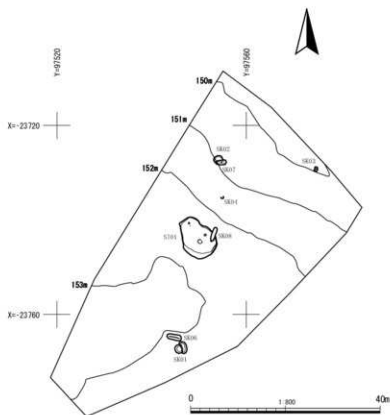
〈壁・床〉南側から西側にかけてテラス状の段が観察された。壁は、残存する箇所は一部やや外傾するが、ほとんどはほぼ直立する。南側壁面に2mの間隔で70cm×30cm、60cm×50cmの角礫が埋め込まれた様であった。

〈柱穴〉2個検出した。PP01はこの住居を切っている陥し穴状土坑に半分壊されている。PP02は浅い掘り込みである。

〈炉〉石囲炉と土器埋設炉を検出した。石囲炉は、本遺構の南寄りに位置し、短軸85cm×長軸100cmの方形を呈する。焼土の発達はあまり見られない。炉石は被熱によるものか、横長に据えてあるものはほとんど割れており、割れ目に埋土が入り込んでいる。使用中にすでにひびが入っていたように観察された。また石組みは、横長の石は横位にのっているが、一部に扁平な石を立位に埋め込んでいる箇所がある。土器埋設炉は本遺構の北西寄りで検出した。径28cm程の円形である。埋設土器は上部と下部を欠き、半円状に残存する。焼土は縁辺部にわずかにブロック状に残る。断面観察により中央部に黒褐色土が堆積していることがわかるが、これは炭化物が多く混じっている部分である。この層厚は最大でも8cmである。

〈重複〉土器埋設炉は、SI01の床、壁を精査中に検出したものである。当初は別の住居跡遺構として考えていたが、SI01の壁と連続すること、床面が同一レベルであること、SI01の石囲炉の長軸の延長線にあること等の理由からこれを同一遺構内の施設と考えた。

〈出土遺物〉縄文土器、石器、石製品が出土している。縄文土器は20点を掲載した（第67・68図、写真図版66・67）。大木8b～9式が主体であるが、早期の白浜式の土器片も遺構の北西側を中心



第 62 図 遺構位置図（青野滝北Ⅱ）

に出土している。石器は 23 点を掲載した（第 72～76 図、写真図版 72～75）。石製品は石刀（148）が 1 点出土している（第 77 図、写真図版 76）。

（時期） 縄文時代中期の遺構と考えられる。

（古館貞身）

（2）土 坑

SK01 土坑（第 65 図、写真図版 64）

〔位置〕 調査区南端のⅢB 2 g グリッドに位置する。

〔検出状況〕 検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に褐色土の広がりとして確認した。

〔重複関係〕 遺構との重複はないが、東側の一部は攪乱によって削平されている。

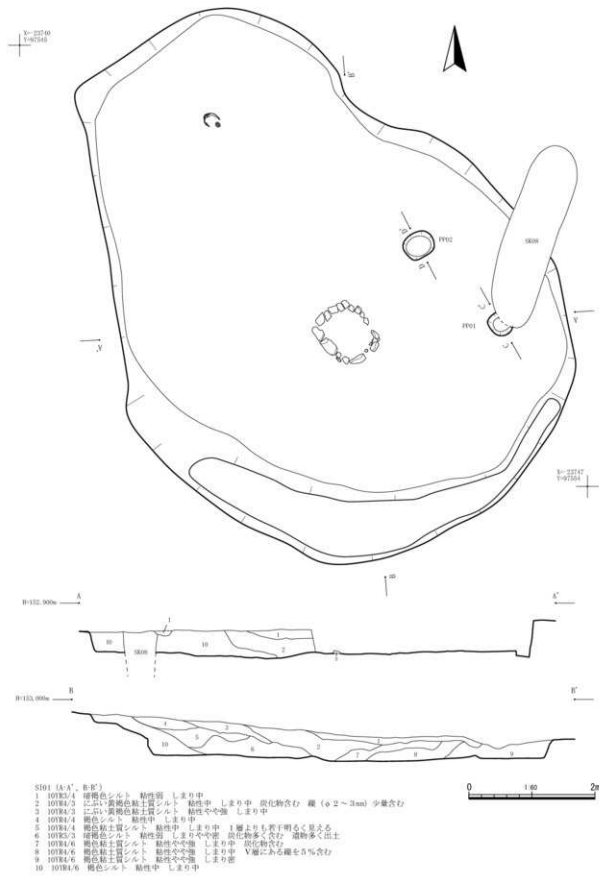
〔規模・形状〕 平面形は、開口部径が 1.8 m の円形を呈するものと考えられる。断面形はピーカー形を呈し、検出面から底面までの深さは 65cm である。底面はほぼ平坦である。

〔埋土〕 褐色～黄褐色土が主体である。中位から上位にかけて、炭化物や焼土ブロックの混入が見られた。人為堆積の可能性がある。

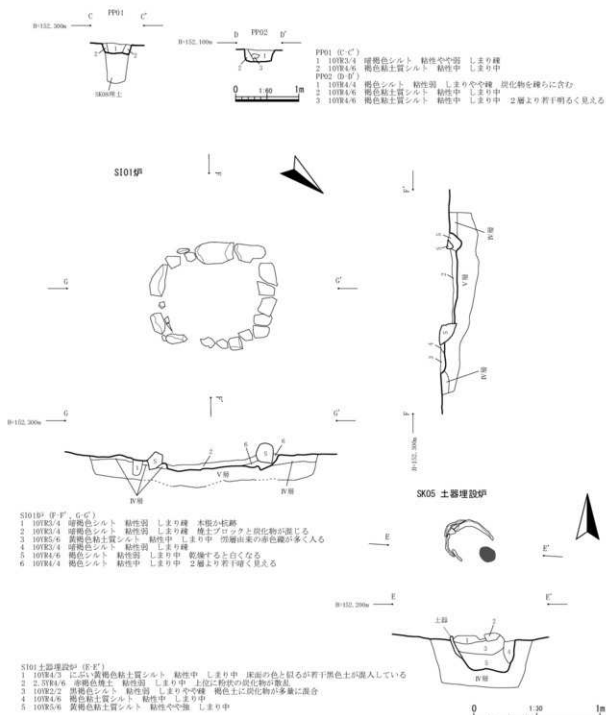
〔出土遺物〕 縄文土器が出土しており、8 点を掲載した（第 68・69 図、写真図版 67・68）。後期前葉のものが大勢を占めるとと思われる。

〔時期〕 出土遺物から、縄文時代後期の遺構と考えられる。

2 検出遺構



第63図 SI01 (青野滝北Ⅱ)



第64図 SI01柱穴、石田炉、土器埋設炉（青野滝北Ⅱ）

SK02土坑（第65図、写真図版64）

〈位置〉調査区北寄りのⅡB2グリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に褐色土の染み状の広がりとして確認した。

〈重複関係〉SK07と重複しており、本遺構が古い。

〈規模・形状〉南半はSK07により削平されているが、平面形は、開口部径が1.9mの円形を呈するものと考えられる。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは27cmである。底面は北に向かっ

2 検出遺構

て緩やかに下っている。

〈埋土〉褐色～にぶい黄褐色土が主体である。少量の炭化物粒を含む。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

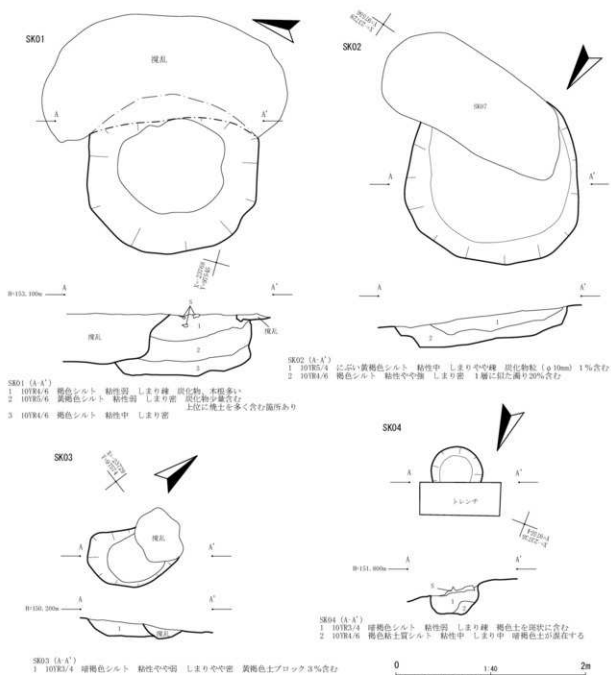
〈時期〉不明である。

SK03 土坑 (第 65 図、写真図版 64)

〈位置〉調査区北東端のⅡC3dグリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に暗褐色土の染み状の広がりとして確認した。

〈重複関係〉遺構との重複はないが、北側の一部は攪乱によって削平されている。



第 65 図 SK01、02、03、04 (青野滝北Ⅱ)

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が0.9 m × 0.6 mの楕円形を呈するものと考えられる。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは15cmである。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉暗褐色土の単層である。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉不明である。

(鈴木博之)

SK04 土坑 (第65図、写真図版64)

〈位置〉調査区中央部よりやや北側に下降する緩斜面上にある。ⅡB4 i グリッドに位置する。

〈検出状況〉表土除去後の検出作業中、32cm × 17cmの角罫が半分埋まった状態で検出された。特にプランは確認できなかったが念のため半載した結果、埋土を確認し、土坑として精査した。

〈重複〉なし

〈規模・形状〉石の埋設状況を観察のために箱掘りしたことによりプランの半分は失われているが、平面形は径50cmほどの円形を呈するものと考えられる。断面形は浅い鍋底状を呈し、検出面から最深で23cmを測る。Ⅲ層を掘り込んであり、底面は平坦である。

〈埋土〉暗褐色土を主体とするが、褐色土が斑状に混入しており人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉縄文土器が出土しており、1点を掲載した(第69図、写真図版68)。ミニチュア土器である。

〈時期〉縄文時代の遺構の可能性がある。

(古館貞身)

SK06 土坑 (第66図、写真図版65)

〈位置〉調査区南端のⅢB2 g グリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に薄い黒褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉なし。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が3.1 m × 1.1 mの長楕円形を呈する。断面形はV字形を呈し、検出面から底面までの深さは98cmである。底面はほぼ平坦である。形態から、陥し穴状土坑と考えられる。

〈埋土〉3層に分層した。上位は黒褐色土、中～下位は褐色土である。最下層は地山が崩落して堆積したものと考えられる。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉形態と類似遺構の年代観から、縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

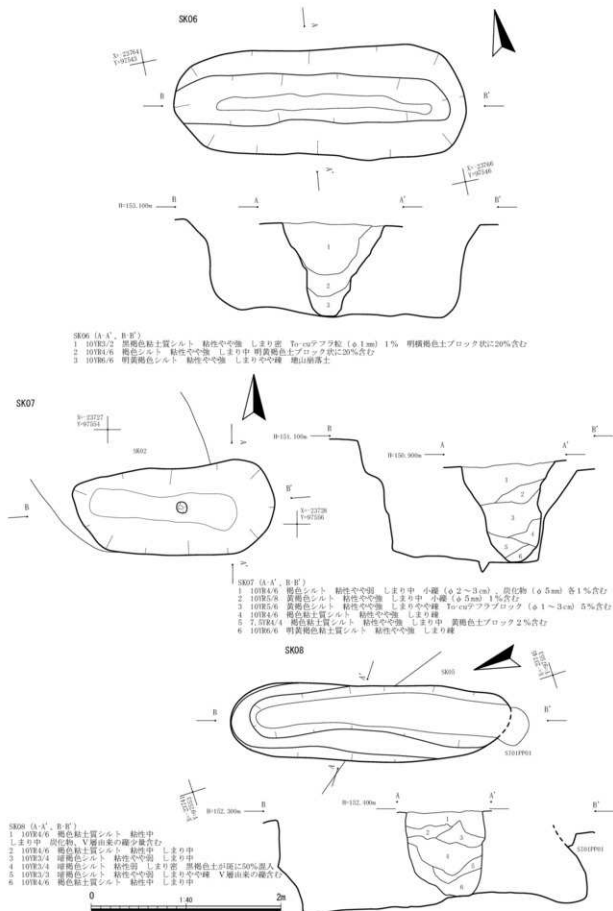
SK07 土坑 (第66図、写真図版65)

〈位置〉調査区北寄りのⅡB2 i グリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時には検出プランを確認できなかったが、SK02の埋土下位に異質の堆積土があることに気付き、SK02と重複していた本遺構を認識した。

〈重複関係〉SK02と重複し、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が2.1 m × 0.9 mの重な長楕円形を呈する。断面形はV字形を呈し、検出面から底面までの深さは100cmである。底面はほぼ平坦であるが、径が13cm × 11cm、深さが10cmの副穴を持つ。形態から、陥し穴状土坑と考えられる。



第66図 SK06、07、08 (青野滝北Ⅱ)

〈埋土〉6層に分層した。褐色～黄褐色が主体である。最下層は地山が崩落して堆積したものと考えられる。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉形態と類似遺構の年代観から、縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

(鈴木博之)

SK08 土坑 (第66図、写真図版65)

〈位置〉調査区中央部ⅡB6iグリッドに位置する。

〈検出状況〉SI01の床面で検出したが、SI01に設定したベルト断面と東側立ち上がりにも本遺構の埋土が観察できたことから、本来の検出面はⅢ層上面と考えられる。

〈重複〉SI01と重複しており、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉開口部径2.8m×0.8mの長楕円形を呈する。南端部はSI01の柱穴(PP01)の下部を切っている。北端部は試掘トレンチに切られている。断面形はU字形を呈し、深さは90cmである。Ⅳ層・Ⅴ層を掘り込んでおり底面はⅤ層の礫混じりの堅い面となっている。

〈埋土〉黒褐色土、暗褐色土が中心となるが、上位にⅢ層に似た褐色土が堆積する。

〈出土遺物〉縄文土器が出土しており、1点を掲載した(第69図、写真図版68)。ミニチュア土器である。

〈時期〉SI01との重複関係から、縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

(古館貞身)

3 出土遺物

(1) 縄文～弥生土器 (第66図～第70図、写真図版66～71、観察表は図版)

概要 大コンテナ(32×42×30cm)約4箱(接合前)出土した。青野滝北Ⅰ遺跡と同様、縄文時代中期後葉～末(大木9～10式前半)が多いが、後期前葉(釜沢式～十腰内Ⅰ式古段階)土器も比較的多く、また小片だが早期中葉(貝殻文期)も比較的多く出土している。その他、縄文時代前期、弥生時代の可能性のある破片が僅かに見られる。

整理状況・掲載基準 作業員4～5名で約3日間接合作業を行った。作業台は2×8mと狭かったが、あまり問題はなかったと思われる。掲載基準としては、有文土器については5×5cm以上が目安となるが、青野滝北Ⅰ遺跡同様、文様のある土器が少なかったため、小さめの破片も多めに掲載している。

記載要領・表の見方 個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。“赤付”は赤色付着物のこと。

出土状況 個々の遺構の出土状況は、遺構の節参照。本項担当者は室内整理以後に関わったため詳細は知り得ない。

出土土器の特徴 縄文時代早期貝殻文土器の内面調整が丁寧なのが印象に残った。

特徴的な土器・異形土器・小型土器 15、29、30、82、83は、小型土器である。83は、切断蓋付土器か。

時期・型式 最も多く、また粗製土器で時期の特定できないものの中にも多く含まれていると思われる縄文時代中期後葉～末は後で述べる。

早期は、全て中葉貝殻文期で、3?、4、6、8、12?、13、14??、16～19、58、59、62、84

が相当する。小破片のため土器型式は特定しにくい。白浜式が主体を占めるようだ。約2km南にある小堀内I遺跡と同様である（(財)岩手県埋蔵文化財センター 1983）。

後期は、前葉のみで、21?、22?、39、40、43、46、47?、50?、65?、68、71、77、81、83?は、釜沢式、26、55、64??（大木8b式?）は、釜沢式～十腰内I式古段階と思われる。

52は、縄文時代前期前葉、78は弥生時代の可能性がある。

以上の他は、多くが縄文時代中期後葉～末と思われる。1、5、9、41、42?、48（大木8b式最新?）、54、56、66、67、73（大木8b式最新?）、10、11（大木8b式最新?）、20は、大木9式。

(a) 遺構内出土の土器（第67図1～第69図34）

SI01 住居跡から出土した土器は、残りの良いものは大木9～10式前半である。SK01 土坑出土土器は、後期前葉釜沢式期にほぼ限定される。SK04、05 土坑出土土器も、ほぼ同時期か。

(b) 遺構外出土の土器（第69図35～第71図84）

遺構内と顕著な違いは認められないが、中期後葉～末より後期前葉の方が多いか。31～34は、粗製土器ばかりだが、中期末か。

（金子昭彦）

参考文献

（財）岩手県埋蔵文化財センター 1983『小堀内I遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財調査報告書第52集

(2) 土製品（第71図、写真図版71、観察表は図版）

円盤状土製品が1点（85）出土している。土器片の断面を整形して円盤状に加工したものである。遺構外からの出土であるが、他の出土遺物から推測して、縄文時代中期の遺物と考えられる。

(3) 石器（第72～76図、写真図版72～76、第4表）

石鏃（86～91） 6点出土しており全点掲載した。4点はほぼ完形である。88は先端部に僅かな欠けがあり、基部に付着物が見られる。装着剤の可能性がある。

石錐（92～93） 2点の出土である。92はつまみ部分の両面に付着物が見られる。93はつまみ部の大きさに対し錐部が極端に短く、特に欠けた跡が見られないためこのサイズでの使用だったようである。

石匙（94） 1点出土している。縦型であるが下半を欠き全形は推測である。柄部はしっかり作られている。

削器（95） 1点出土している。写真のみの掲載である。縁辺部に加工が施されているが、使用は先端部と片側面と思われる。なおこれらはすべて頁岩である。

石斧類（96～112） 残りの良いものを選んで17点掲載した。SI01の埋土から多く出土している。96は形状で石斧類に分類したが、剥離面等を考慮すると違い器種の未製品となるかもしれない。103、111のみ打製石斧で他はすべて磨製石斧である。完形品は109、110、111のみである。磨製石斧で刃部の残りの良いものは109、110、112であり、顕著な使用痕が認められるものは101、106、108である。

磨石（113～129） 17点掲載した。ほとんどが扁平で円形基調のものであり表裏面に磨きのような磨面をもつものであるが、例外的なものをここでは列挙する。113は三角錐に近い形状の底面に磨面が形成されている。114は扁平な楕円基調で表裏面の磨りの他に凹みが形成されておりさらに両側

縁に粗い磨面が形成されている。115は円礫に近い多面体で、それぞれの面に磨痕がある。116は特殊磨石の破片かもしれない。118は磨きのような磨面と、粗い磨面を持つ。119は表面に黒色のシミが広がっている。

特殊磨石 (130～135) 6点掲載した。いずれも長円形のもので600g以上990g以内におさまる。完形のは130、133、134の3点で、他の3点は欠損している。磨面の幅で2分類できそうである。№130と132は磨面の幅が2cm以内で、磨面と自然面の境目の稜線がはっきりしない。これに対し他の4点は2.5～3cmと厚い磨面が形成されており、自然面との境の稜線もはっきりしている。131は磨面と自然面の境界線上に剥離が見られ、意図的にこの箇所が敲かれている。さらに先端部に刃部形成の加工痕が見られ使用痕も観察される。

敲石 (136～141) 6点掲載した。136は円形に近いもので、側面の一箇所を残してほぼ全面に細かい敲痕がめぐる。137は扁平な細長な形状であるが短軸側縁部の中央部に敲打痕があり一部剥離面も見られる。138は半円状で扁平である。側面全周に敲痕と擦痕が見られる。139、140、141はいずれも先端部に敲痕をもつものである。石質は斑岩と砂岩である。

石皿 (142～143) いずれも欠損で全体像を窺い知れない。石質は砂岩で産地は宮古層群ということで、遺跡の近辺で手に入るものである。142は湾曲している内側が使用面で、きれいに擦られている。背面の状況から端のコーナー部分と思われる。143は両面に使用面が形成されている。厚さは厚いところで5cm、薄いところで1cmとなる。表裏で使用方向が違うようである。

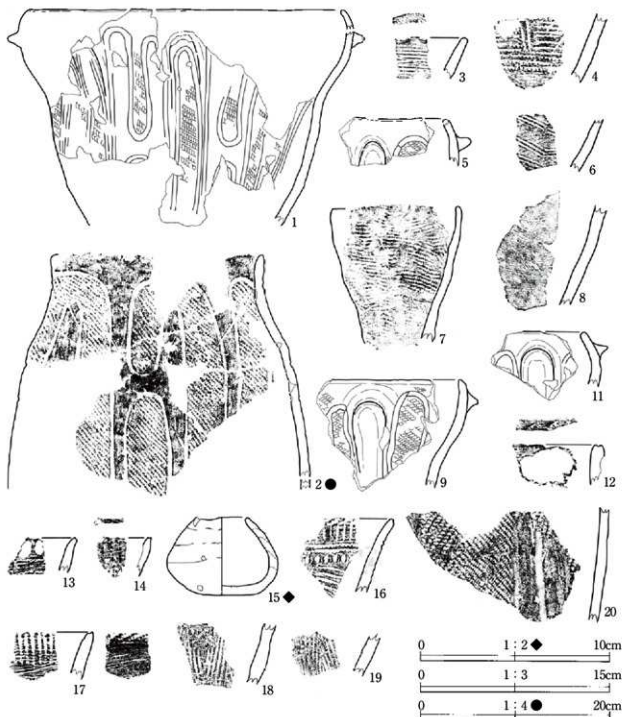
(4) 石製品 (第77図、写真図版76、第5表)

滑石製の有孔垂飾品とその未成品及び未加工の石材が合計27点、石刀が2点出土している。

滑石製の有孔垂飾品と未成品は4点掲載した。孔が貫通しているものが2点(144、147)、穿孔途中のものが2点(145、146)である。いずれも両面から穿孔している。これらは整形する前に穿孔しているものと、穿孔してから整形しようとしているものに分けられる。滑石の産地は早池峰山周辺、もしくは岩泉町有芸周辺の鑑定結果が出た。

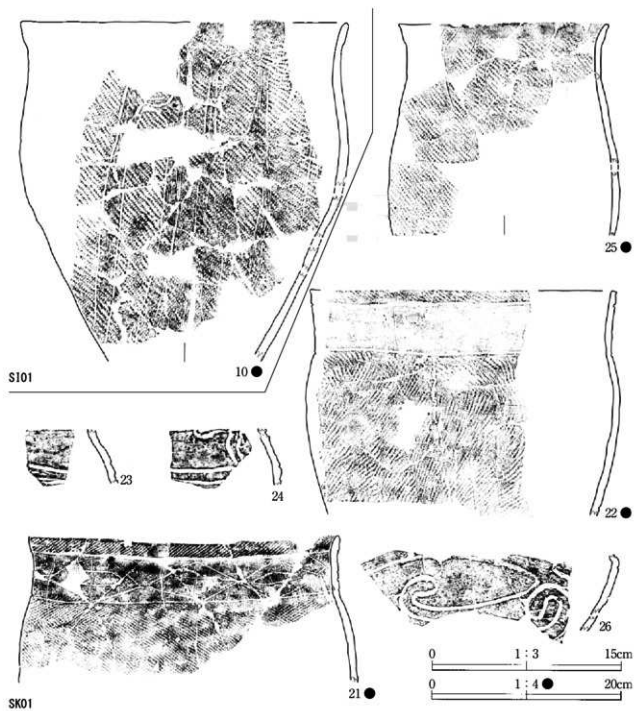
石刀は2点(148、149)を掲載した。いずれも折損しているが、扁平な棒状の形態で、石材は北上山地のホルンフェルスが用いられている。

(古館貞身)



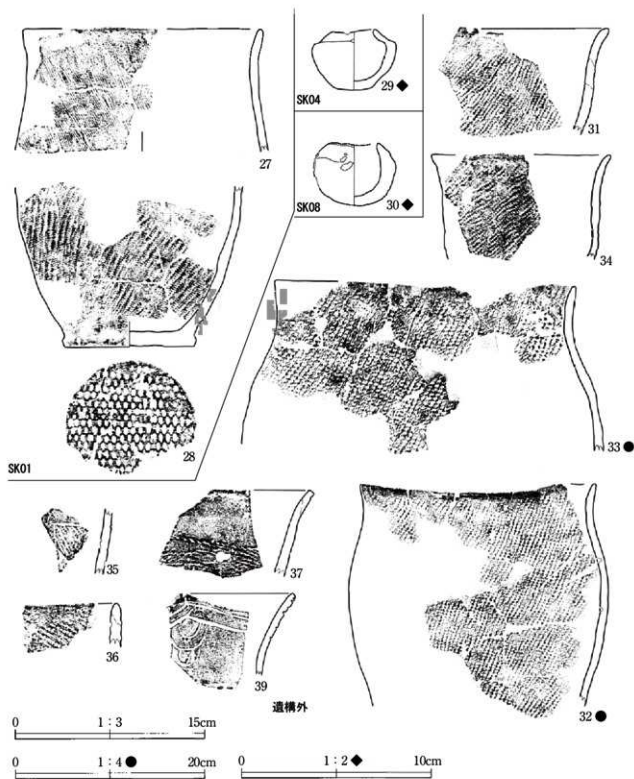
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/肩部/底部/底高, 縄文部体など)	内面 (縄文など)	備考
1	S801	深鉢(1/3周未満)	高い頸状隆部・L9タテ→太く深い沈線ナリ	ナリ	外底ス入付蓋, 二次焼成
2	S801	深鉢(2/3周未満)	文様8単位?・L9タテ→太く深い沈線(●外底裏面ナリ)	ナリ	外底ス入付蓋, 二次焼成, 内面だけ丸
3	S801	フ・口縁部	口縁にゴウ?ノ押突文字	ナリ	ナリ
4	S801	深鉢・底部	貝殻磨練文	ナリ	ナリ
5	S801	深鉢・口縁部	非常に高い頸状隆部・L9タテ→太く深い沈線	ナリ	外底ス入, 内面コグ付蓋
8	S801	深鉢・底部	押突文字	ナリ	ナリ
7	S801	鉢(1/3周未満)	L9タテナリ	ナリ	外底ス入二次焼成, 内面コグ多い
8	S801	深鉢・底部	貝殻磨練文	ナリ	ナリ
9	S801	深鉢・口縁部	高い頸状隆部・L9タテ→太く深い沈線	ナリ	外上ス入付蓋, 下二次焼成
11	S801	深鉢・口縁部	非常に高い頸状隆部・太く深い沈線	ナリ	外底ス入付蓋
12	S801	深鉢・口縁部	口縁にゴウ?	ナリ	外底磨練
13	S801	深鉢・口縁部	指頭状圧痕・貝殻磨練文?	ナリ	ナリ
14	S801	深鉢・口縁部	口縁貝殻磨練文?ノ何かの圧痕	ナリ	内面磨練
15	S801	太器理設砂用器・埋土下段	小型一部欠損	ナリ	ナリ
16	S801	太器理設砂用器・埋土下段	深鉢・口縁部	貝殻磨練文・爪形文	ナリ
17	S801	太器理設砂用器・埋土下段	深鉢・口縁部	口縁→貝殻磨練文?・貝殻磨練?	ナリ
18	S801	太器理設砂用器・埋土下段	深鉢・底部	貝殻磨練	ナリ
19	S801	太器理設砂用器・埋土下段	深鉢・口縁部	貝殻磨練	ナリ
20	S801	太器理設砂用器	深鉢・底部	L9タテ→太く深い沈線ナリ	ナリ
					外底ス入, 内面コグ付蓋

第 67 図 遺構内出土土器 (1) (青野滝北Ⅱ)



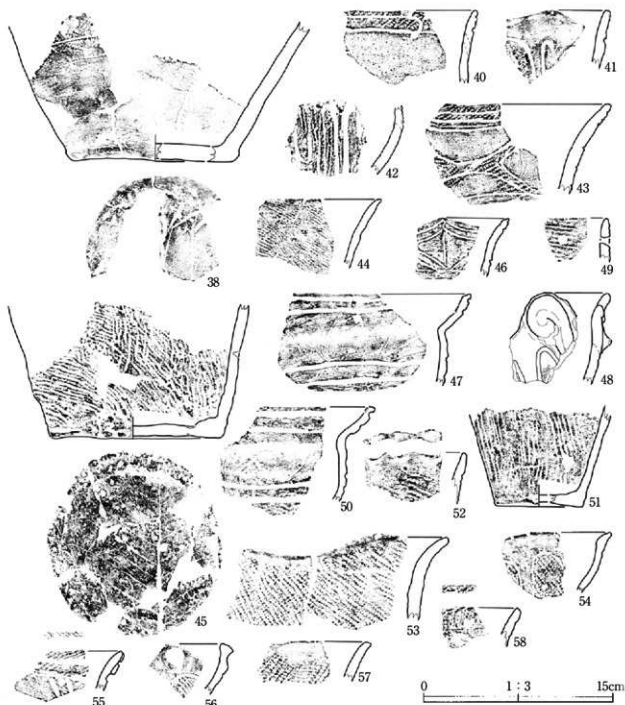
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面/縄文身体など)		備考
			内面 (調整など)		
10	S101(77(水鏡中層不明))	深鉢(1/4底面深)	LR9字→太く浅い波線ノ字/縄文消し忘れ	ノ字	外周又入付蓋
21	SK01	深鉢(口縁部一週)	文様無彫刻?・LR上3字, 下ノ字・極く浅い波線	ノ字	外周又、二次後戻りひびい、内周たがれ
22	SK01	深鉢(1/3底面深)	向土3字、上ノ字→太く浅い波線	ノ字	外周又多、二次後戻、内周アタリ付ひびい
23	SK01	フ・胴部	太の浅の波線	ノ字薄ひか	外周又入付蓋
24	SK01	深鉢?・胴部?	太の波線	ノ字	外周又入付蓋
25	SK01	深鉢(1/3底面深)	口縁無文/LR9字	ノ字薄ひか	外周又? 外周二次後戻
26	SK01	深鉢?・胴部		ノ字薄ひか	

第 68 図 遺構内出土土器 (2) (青野滝北Ⅱ)



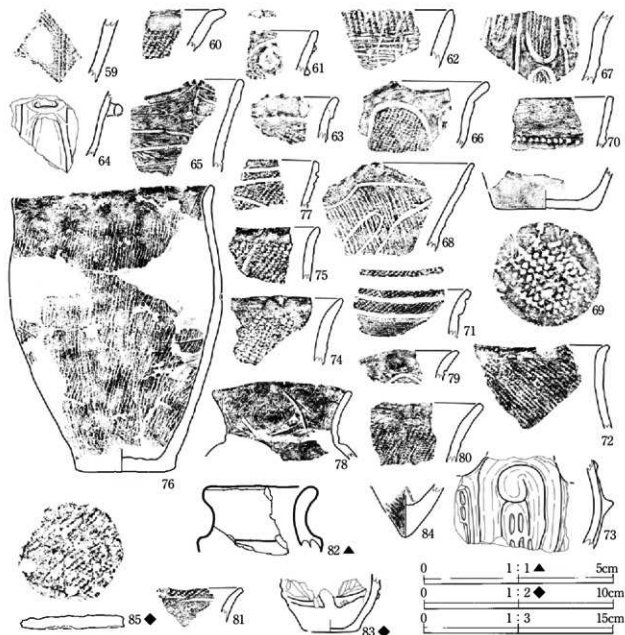
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/腹部/底部/底面/器文・器体など)		内面 (器底など)		備考
			口縁部	腹部	底面	器底	
27	SK01	深鉢・口縁部	単線1(R)ナメテ		ナデ	ナデ	外底スリ付着、下の別口粘土器と類似
28	SK01	深鉢(器)3層	底面ナデー丸底多量タテノ直線・斜状線		線刻	ナデ	外底ス二次焼成、内底コグ付着
29	SK03・埋木上段	小型(深鉢)	ナデ		ナデ	ナデ	内外ス付着?
30	SK08・埋木上段	小型(深鉢)	ナデ		ナデ	ナデ	
31	埋木コグリッド	深鉢・口縁部	口縁無文/丸タテ		ナデ	ナデ	
32	埋木コグリッド	深鉢(1.4層未満)	丸タテ		ナデ	ナデ	外底ス付着、内底コグ付着
33	埋木コグリッド	深鉢(1.5層未満)	丸タテ		ナデ	ナデ	外底ス二次焼成、内底コグ付着
34	埋木コグリッド	深鉢・口縁部	丸タテ		ナデ	ナデ	
35	トレンチ1 南西側	深鉢・腹部	S.Rタテ一線/深い沈線		ナデ	ナデ	
36	トレンチ1 南西側	深鉢・口縁部	口縁無文/丸タテ		線刻	ナデ	
37	トレンチ1 南西側	深鉢・口縁部	口縁無文/丸タテ		ナデ	ナデ	
38	トレンチ1 2層	深鉢・口縁部	口縁交差/細い沈線		ナデ	ナデ	

第69図 遺構内出土土器(3)・遺構外出土土器(1)(青野滝北II)



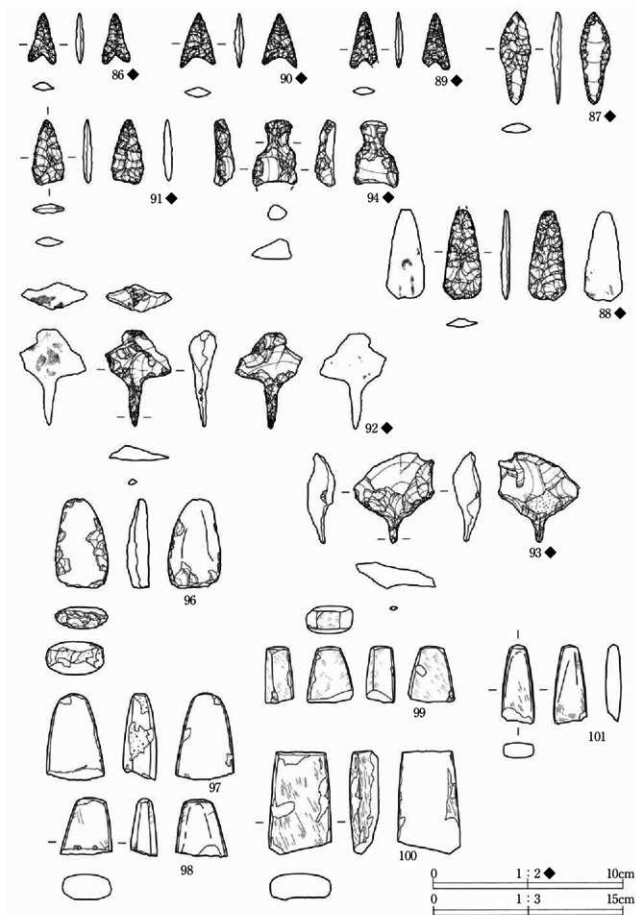
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			口縁部・腹部・底部／表面、縄文身体文記	内面 (調整文記)	
38	トレンチ1	深鉢(口縁未測)	1.口縁部—黒部子ノ/黒部—木葉文	ナデ	内面黒刷
40	トレンチ1-1層	深鉢・口縁部	1.口縁部—太い沈線	ナデ	
41	トレンチ1-最上下	深鉢・口縁部	口縁突起/丸タテ—太い沈線十字、縄文渦、乱れ・ヒタテ	ヒタテ	ヒタテ
42	トレンチ1-最上下	深鉢・腹部?	厚輪縁(1.ヒタテ—太い沈線)	ナデ	ナデ
43	トレンチ1-最上下	深鉢・口縁部	1.口縁部—太い沈線、縄文渦、乱れ	ナデ	ナデ
44	トレンチ1-最下、本文部ト1-西側	深鉢・口縁部	1.口縁部	ナデ	ナデ
45	トレンチ1-2中間部	深鉢(表面一層)	1.ヒタテ/表面—木葉文	ナデ	内面コグ付着、黒刷
46	トレンチ1-2中間部	深鉢・口縁部	細く深い沈線	ナデ	ナデ
47	トレンチ1-2中間部	深鉢・口縁部	太く深い沈線	ナデ	ナデ
48	トレンチ1-2東側	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ、高径最大、縄文身体不明	ナデ	ナデ
49	トレンチ1-2東側	深鉢・口縁部	1.ヒタテ	ナデ	ナデ
50	トレンチ1-2中間部	深鉢・口縁部	1.口縁部—太く深い沈線	ナデ	ナデ
51	トレンチ1-2中間部	深鉢(口縁以下)	厚輪縁(1.ヒタテ—黒部—高径最大)	ナデ	ナデ
52	トレンチ1-2東側	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ	ナデ	ナデ
53	トレンチ1-2西側、トレンチ6~7中間部	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ	ナデ	ナデ
54	トレンチ1-2西側	深鉢・口縁部	1.口縁部—太い沈線	ナデ	ナデ
55	トレンチ1-2東側	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ、高径最大、竹管状工具による刻文	ナデ	ナデ
56	トレンチ1-2	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ、高径最大	ヒタテ	ナデ
57	トレンチ1-2	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ	ナデ	ナデ
58	トレンチ1-2東側	深鉢・口縁部	口縁突起、乱れ	ナデ	ナデ

第70図 遺構外出土土器(2)(青野滝北Ⅱ)

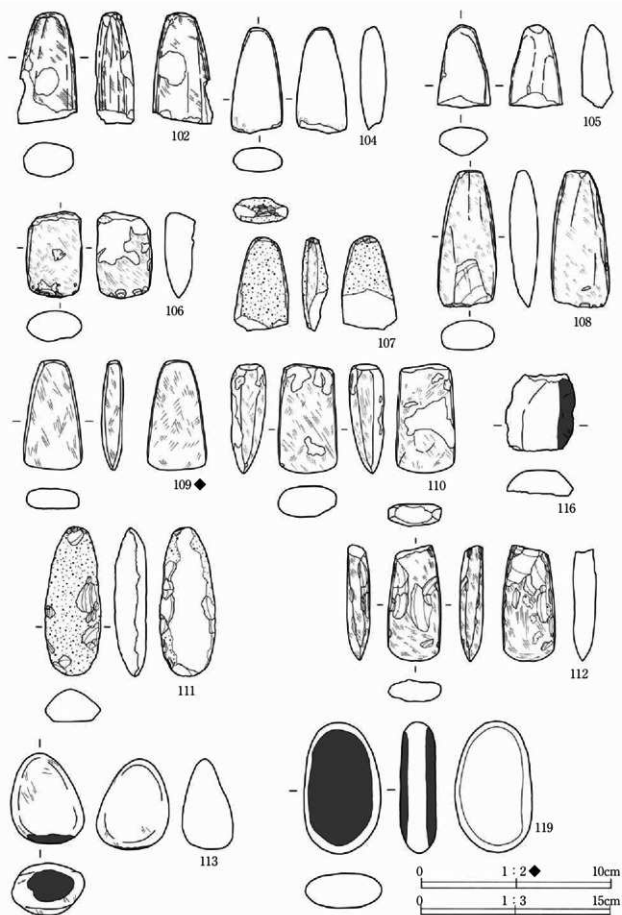


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面		備考
			(口縁部・腹部・底面・底面・縁文部等)	(器底等)	
59	トレンチ2・Ⅱ層	深鉢・口縁部	貝殻隠線文	ナデ	内面磨鉢
60	トレンチ2・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口縁及シノ丸タテ	ナデ	内面スス付着
61	トレンチ2・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口縁押圧ノ高い隆起・縁文部不備	ナデ	
62	トレンチ4・Ⅱ層	深鉢・口縁部	貝殻隠線文	ナデ	内面磨鉢
63	トレンチ4・Ⅱ層	深鉢・口縁部	押し出し口縁無文ノ丸タテ	ナデ	内面磨鉢
64	南西1・Ⅱ層上段	深鉢・口縁部	隠線文	ナデ	内面磨鉢
65	南西1・Ⅱ層上段	深鉢・口縁部	波状口縁部部目2ノ丸タテ一極ノ深い沈線・刺交	ナデ	内面スス付着
66	南西1・Ⅱ層上段	深鉢・口縁部	口縁突起ノ丸タテ一高い沈線ナデ	3ガキ?	
67	南西1・Ⅱ層上段	深鉢・口縁部	沈線隠1ノ丸タテ一高い沈線ナデ	ナデ	内面スス付着・内面コグ付着
68	南西1・Ⅱ層上段	深鉢・口縁部	口縁突起ノ半輪縁1ノ丸タテ一高い沈線	磨鉢	内面スス付着
69	南西1	底面	底面ナデ光沢ノ底面・網代底	ナデ	内面磨鉢付
70	中央部西側	深鉢・口縁部	口縁ナデノ縁部上粗目	ナデ	内面スス付着
71	中央部西側	深鉢・口縁部	口縁ノ内コ一太ノ沈線	ナデ	
72	中央部西側	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
73	北西1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	高い隆起・深い沈線・刺交	3ガキ?	
74	南西1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	丸タテ	3ガキ?	内面磨鉢一説・内面赤褐色
75	南西1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	丸タテ	3ガキ?	
76	トレンチ1・Ⅱ層上段	鉢・口縁部(一説)	口縁無文ノ半輪縁1ノ丸タテ一底面一底面ナデ	ナデ	内面コグ付着?
77	南西1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	丸タテ一太ノ沈線	ナデ	内面スス付着
78	南西1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	丸タテ一太ノ沈線	3ガキ?	
79	南西1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	丸タテ一太ノ沈線	3ガキ?	
80	トレンチ1・Ⅱ層	深鉢・口縁部	丸タテ	ナデ	
81	南西1	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
82	トレンチ1・Ⅱ層	小底面?	ナデ	ナデ	
83	トレンチ1・Ⅱ層	小底面?	ナデ	ナデ	
84	トレンチ1・Ⅱ層	小底面?	ナデ	ナデ	
85	トレンチ1・Ⅱ層	深鉢・底面	貝殻隠線文?・3ガキ?光沢	ナデ	底面磨鉢付蓋?
85	トレンチ1・Ⅱ層	深鉢・底面	貝殻隠線文?・3ガキ?光沢	ナデ	重量200g

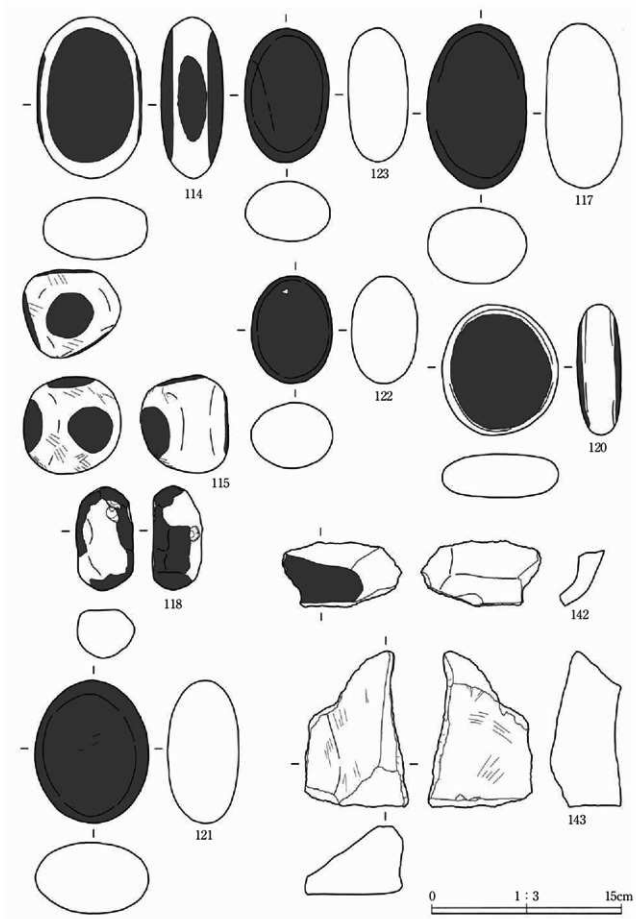
第71図 遺構外出土土器(3)・土製品(青野湖北Ⅱ)



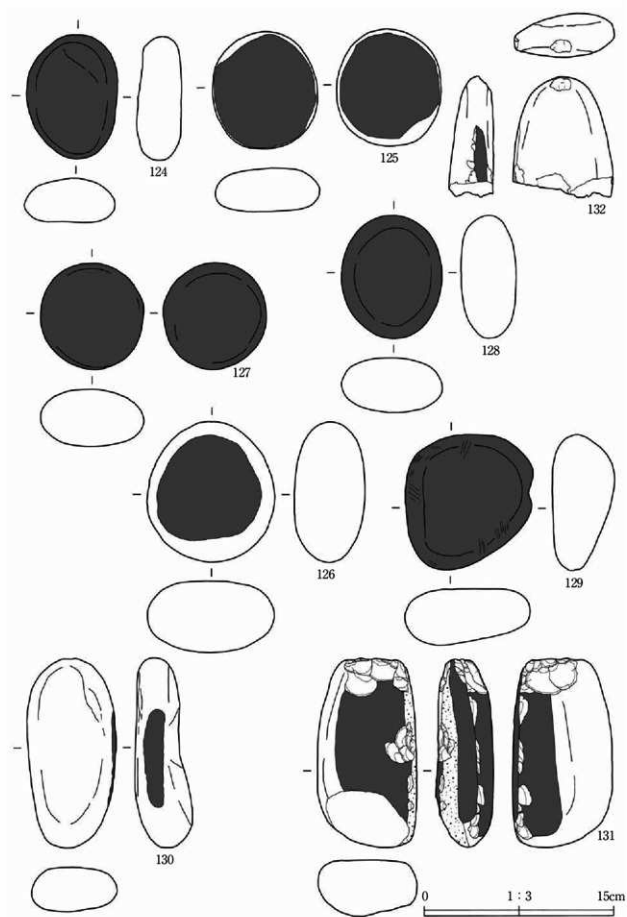
第72図 石器(1)(青野滝北II)



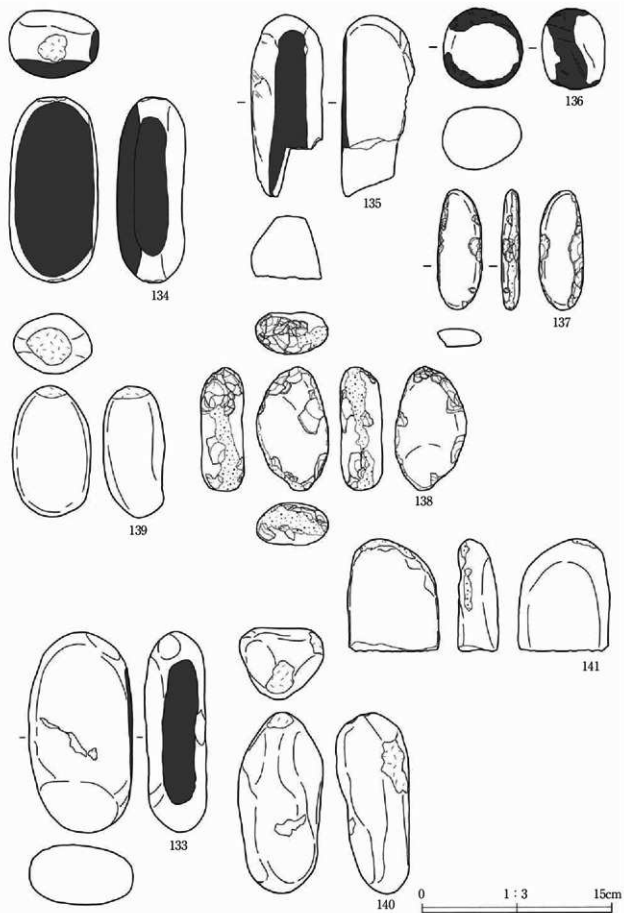
第73圖 石器(2)(青野滝北Ⅱ)



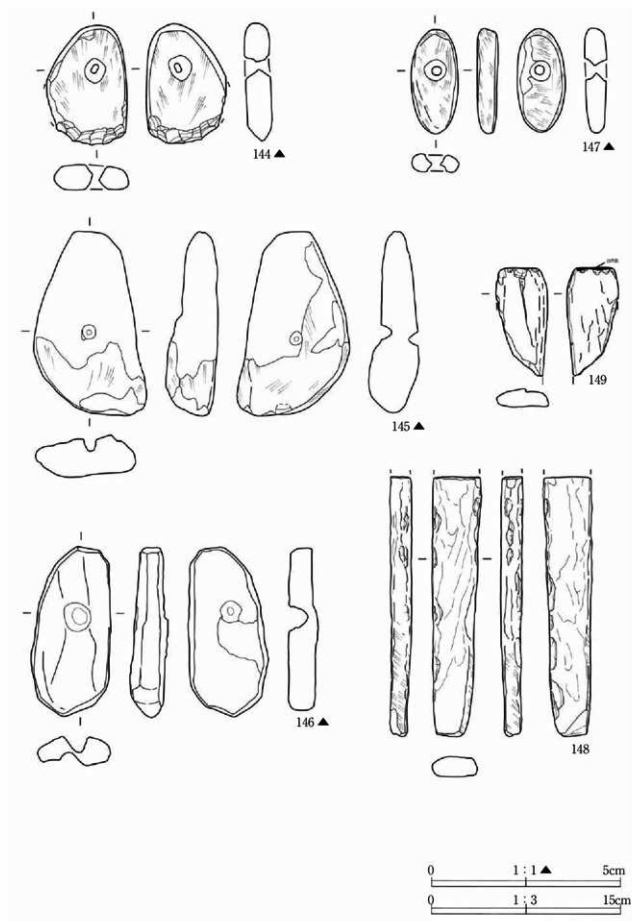
第74図 石器(3)(青野滝北Ⅱ)



第75図 石器(4)(青野滝北Ⅱ)



第76図 石器(5)(青野滝北Ⅱ)



第77図 石製品 (青野滝北Ⅱ)

第4表 石器観察表(青野滝北Ⅱ)

掲載順	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値()は残存値			石材	産地	備考	
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]				重量[g]
86	72	72	S01西側・床	石鏃	2.80	1.42	0.40	0.98	真岩	北上山地	欠形 凹基
87	72	72	S01西側・床	石鏃	4.82	1.80	0.30	3.34	真岩	北上山地	欠形 有基
88	72	72	S01北東プロック・埋土	石鏃	(4.70)	2.00	4.50	4.17	真岩	北上山地	平基 無蓋 先端部欠け 付着物あり
89	72	72	II B2a・耳簾	石鏃	3.00	(1.40)	0.40	1.04	真岩	北上山地	凹基無蓋、扉部一部欠け
90	72	72	II B10a・耳簾	石鏃	2.90	1.85	0.30	1.36	真岩	北上山地	凹基無蓋、扉部一部欠け
91	72	72	2フレ-3フレ-1層	石鏃	3.40	1.60	0.45	2.11	真岩	北上山地	欠形、平基無蓋
92	72	72	S01西側・床	石鏃	5.02	3.50	1.40	9.43	真岩	北上山地	欠形 付着物あり
93	72	72	1フレ-耳簾下層	石鏃	4.70	4.20	1.30	16.40	真岩	北上山地	欠形
94	72	72	1フレと2フレの中間・耳簾	石鏃	(3.45)	2.30	1.05	7.52	真岩	北上山地	欠形
95	72	72	II B2a・耳簾	磨石	2.80	1.90	0.50	17.10	真岩	北上山地	無蓋
96	72	72	S01西側・埋土中～下位	石斧頭	(7.00)	4.10	1.75	64.90	ホルンフェルス	北上山地	無蓋部?
97	72	72	S01西側・埋土中～下位	石斧頭	(6.80)	4.60	2.80	117.70	砂岩	北上山地	下半欠損、先端・側面に敲行痕あり
98	72	72	S01埋土中位～下位	石斧頭	(4.50)	4.10	2.10	56.80	砂岩	北上山地	下半欠損
99	72	72	S01埋土中～下位	石斧頭	(4.40)	(3.60)	(2.80)	56.10	砂岩	北上山地	下半欠損 全面に調整痕あり
100	72	72	S01埋土	石斧頭	(6.10)	(4.90)	(2.30)	151.50	砂岩	北上山地	刃部・基部欠損
101	72	72	S01埋土	石斧頭	(6.20)	(2.60)	1.30	30.50	砂岩	北上山地	刃部欠損
102	73	73	S01埋土	石斧頭	(6.70)	(4.70)	(3.00)	162.70	砂岩	北上山地	下半欠損
103	73	73	S01西側・埋土	石斧頭	(6.50)	(3.20)	(2.40)	285.40	砂岩	原産地不明	刃部欠損 磨面あり
104	73	73	II B2a・耳簾	石斧頭	(6.20)	(4.00)	2.10	99.69	ヒン岩	北上山地	刃部欠損
105	73	73	II B・耳簾	石斧頭	(6.50)	(4.10)	(2.50)	88.10	ヒン岩	北上山地	刃部欠損
106	73	73	II B・耳簾	石斧頭	(6.25)	(4.35)	2.45	114.40	砂岩	北上山地	基部欠損 欠損部削行痕
107	73	73	2フレ-耳簾	石斧頭	(7.40)	(4.25)	(2.00)	225.50	砂岩	北上山地	下半を欠く 基部先端部に敲行痕
108	73	73	2フレ-3フレの中間-耳簾	石斧頭	10.75	4.80	2.30	116.30	デイスサイト	北上山地	刃部欠損
109	73	73	1フレと2フレの中間-耳簾	石斧頭	4.30	2.80	0.80	14.66	ヒン岩	北上山地	欠形、刃部使用痕あり
110	73	73	1フレと2フレの中間-耳簾	石斧頭	5.55	4.40	2.70	181.90	デイスサイト	北上山地	基部先端に敲行痕
111	73	73	1フレと2フレ-耳簾	石斧頭	11.60	4.40	2.50	193.10	砂岩	北上山地	刃部磨面及使用痕あり
112	73	73	耳簾	石斧頭	(9.10)	4.10	1.75	113.07	砂岩	北上山地	基部欠損、刃部使用痕あり
113	73	73	S01西側・埋土下位	磨石	8.10	5.70	4.10	217.20	デイスサイト	北上山地	
114	74	74	S01埋土中位～下位	磨石	17.70	8.20	4.90	787.20	花崗岩	北上山地	磨面、背面・側面に磨面あり
115	74	74	S01埋土中～下位	磨石	7.30	7.70	6.90	599.50	花崗岩	北上山地	6面に磨り磨り
116	74	74	S01埋土	磨石	(6.00)	(5.40)	(2.00)	101.50	花崗岩	北上山地	特殊磨石の断片の可能性
117	74	74	S01床土	磨石	12.90	7.80	6.00	875.80	デイスサイト	北上山地	両面に磨面
118	74	74	S01床土	磨石	8.20	4.50	3.90	244.30	花崗岩	北上山地	上下面に磨り磨り
119	74	74	II B・耳簾	磨石	10.30	6.05	2.80	281.30	花崗岩	北上山地	早期に薄く白色のシラ面あり
120	74	74	II B7・耳簾	磨石	10.30	9.10	3.40	483.80	花崗岩	北上山地	扁平・両面磨面あり
121	74	74	2フレ-耳簾	磨石	11.30	9.05	5.80	788.40	花崗岩	北上山地	
122	74	74	2フレ-3フレの中間-耳簾	磨石	8.40	6.40	5.20	394.50	花崗岩	北上山地	
123	74	74	2フレ-3フレの中間-耳簾	磨石	10.50	6.70	4.70	471.50	花崗岩	北上山地	
124	75	75	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	9.70	7.20	3.50	396.60	デイスサイト	北上山地	両面使用
125	75	75	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	9.20	8.20	3.40	410.50	デイスサイト	北上山地	
126	75	75	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	11.05	10.10	5.90	904.30	デイスサイト	北上山地	
127	75	75	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	8.30	8.10	4.50	438.50	花崗岩	北上山地	
128	75	75	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	9.60	7.95	4.30	475.80	花崗岩	北上山地	両面使用
129	75	75	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	10.75	10.00	4.90	816.00	花崗岩	北上山地	
130	75	75	S01埋土中位～下位	特殊磨石	14.90	7.00	4.50	642.30	デイスサイト	北上山地	
131	75	75	S01埋土	特殊磨石	(14.80)	7.80	4.50	825.60	ホルンフェルス	北上山地	下端部欠損、先端部磨面、側面にも打痕
132	75	75	II B2a・耳簾	特殊磨石	(9.40)	(7.90)	3.30	375.60	ヒン岩	北上山地	欠損、下端部磨面あり、白色シラあり
133	76	76	II B9a・耳簾	特殊磨石	15.80	8.10	4.90	991.20	デイスサイト	北上山地	
134	76	76	1フレと2フレの中間-耳簾	特殊磨石	14.80	7.00	5.30	877.90	花崗岩	北上山地	先端部に敲行痕あり
135	76	76	1フレと2フレの中間-耳簾	特殊磨石	(14.30)	(5.85)	5.65	570.00	デイスサイト	北上山地	欠損
136	76	76	S01西側・埋土下位	磨石	8.30	6.30	4.90	294.00	花崗岩	北上山地	内側の磨面を利用
137	76	76	S01床土	磨石	9.40	3.50	1.40	75.80	花崗岩	北上山地	加工痕あり
138	76	76	S01床土	磨石	9.70	6.60	3.30	248.70	花崗岩	北上山地	両側面と上下面に敲行痕あり
139	76	76	II B・耳簾	磨石	10.30	6.10	4.70	460.70	花崗岩	北上山地	側面と先端部に敲行痕あり
140	76	76	II C・耳簾	磨石	14.30	6.65	5.70	738.10	石英質凝岩	北上山地	側面と先端部に敲行痕あり
141	76	76	1フレと2フレの中間-耳簾	磨石	(8.85)	7.20	3.20	324.30	砂岩	北上山地	欠損
142	74	74	1フレと2フレ-耳簾	石鏃	(5.00)	(9.40)	(2.70)	102.80	砂岩	宮古群賢	欠損
143	74	74	1フレ-耳簾上層	石鏃-台石	(12.30)	(8.10)	(5.50)	521.70	砂岩	宮古群賢	

第5表 石製品観察表(青野滝北Ⅱ)

掲載順	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値()は残存値			石材	産地	備考	
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]				重量[g]
144	77	76	II B2a・耳簾	磨石製品	3.20	2.10	0.70	8.30	滑石	早池峰山産地	有蓋面説の可能性も
145	77	76	2フレ-耳簾	磨石製品	5.00	2.95	1.35	23.40	滑石	早池峰山産地	有蓋面説の可能性も
146	77	76	2フレ-耳簾	磨石製品	4.50	2.10	1.00	11.67	滑石	早池峰山産地	有蓋面説の可能性も
147	77	76	II B4a・耳簾	磨石製品	2.80	1.35	0.50	3.33	滑石	早池峰山産地	有蓋面説の可能性も
148	77	76	S01西側・埋土中～下位	石刀	(10.60)	(3.80)	1.80	225.00	ホルンフェルス	北上山地	欠損 調整痕あり
149	77	76	調査区南西側-耳簾	石刀	(8.50)	4.10	1.40	86.10	ホルンフェルス	北上山地	欠損

VI 青野滝北Ⅲ遺跡

1 概 要

青野滝北Ⅲ遺跡では、竪穴住居跡2棟、炉跡1基、陥し穴状土坑1基を検出した。遺跡は、東西を谷状の地形に挟まれた南北方向の尾根と、この尾根から西に張り出した尾根状地形の頂部に立地する。遺構は南北方向の尾根頂部と西側の尾根に下る斜面で検出した。遺構検出面のⅢ層は黄褐色土であるが、既出の青野滝北Ⅰ、Ⅱ遺跡とは異なり、遺構検出面としたⅢ層には十和田中振火山灰のブロックは混入しない。遺構埋土は青野滝北Ⅰ、Ⅱ遺跡と同様に黄褐色～褐色土が主体であり、遺構検出作業（ジョレンがけ）において平面形をとらえることは困難であった。トレンチで炉や焼土を検出して遺構を確認している。南北方向の尾根頂部における検出面の標高は、概ね146m、西側尾根の付け根付近で概ね144mである。

2 検 出 遺 構

(1) 竪穴住居跡

SI01 竪穴住居跡（第79図、写真図版79）

〈位置〉調査区のほぼ中央部、II B 3 h グリッド付近に位置する。西側尾根へ下る緩斜面の下位にあたる。

〈検出状況〉県教委生涯学習文化課が行った試掘調査のT 31 トレンチにより、焼土面等が確認されていた。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉一部攪乱や削平によりはっきりしないが、残存部分から平面形は径4×5m弱の楕円形を呈すると推定される。

〈埋土〉ふい褐色土と褐色土の自然堆積を呈する。

〈壁・床〉断面の観察を行ったが、明瞭な壁の立ち上がりはつかめなかった。床面は概ね平坦で部分的に焼土や炭化物が混入おり、非常に堅く締まっている箇所が検出された。

〈柱穴〉北側の壁沿いに径30cm、深さ25cmの柱穴を1個検出した。平面形は円形である。

〈炉〉小規模な炉跡が2基並んで検出された。2つの炉は大きな角礫により区切られており、北側の1基は角礫を長径40cm、短径30cmに配置している。南側の1基は西側に2個の角礫が残存しているが、本来は角礫が四方に置かれた石囲炉と推測される。

〈重複〉なし

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は12点を掲載した（第81図、写真図版82）。

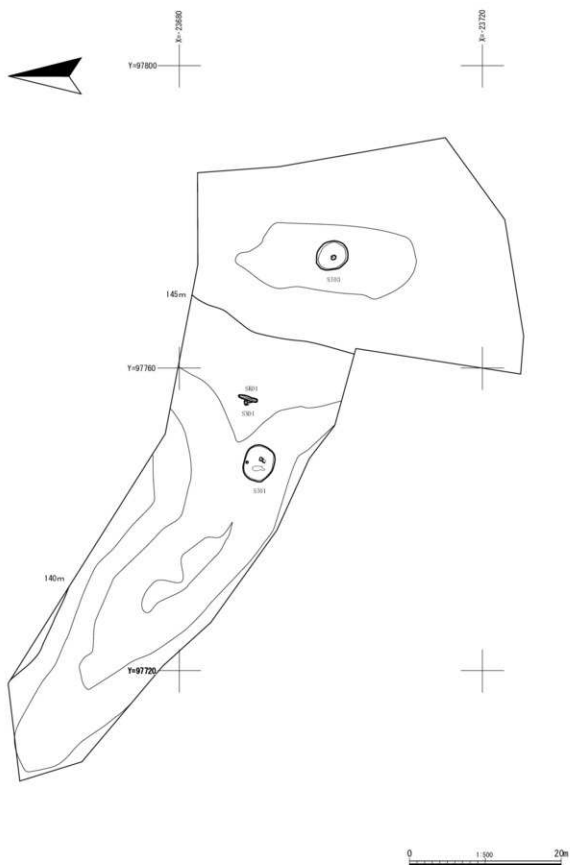
大木10式が大勢を占める。石器は3点を掲載した（第84図、写真図版84）。いずれも特殊磨石である。（時期）縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

SI03 竪穴住居跡（第80図、写真図版80）

〈位置〉調査区東側の南北方向の尾根頂部、II C 5 d グリッド付近に位置する。

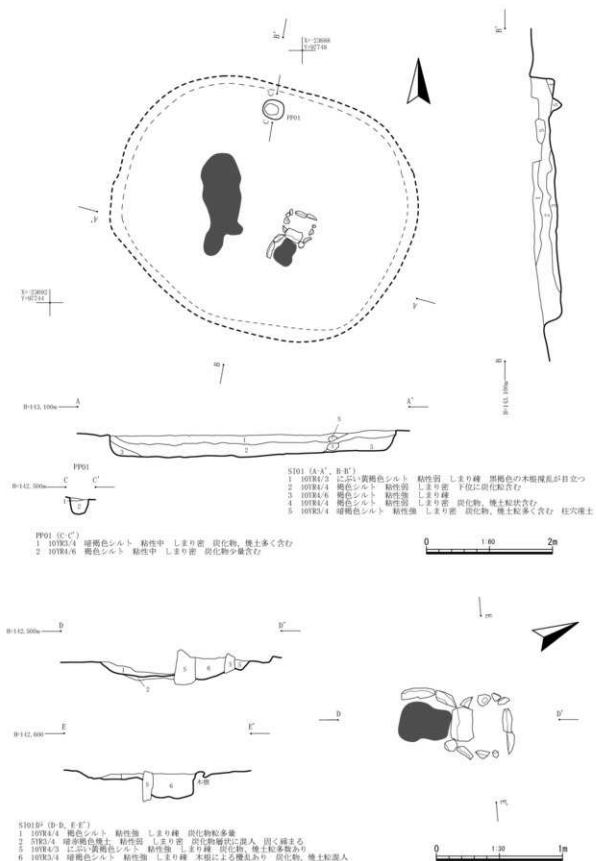
〈検出状況〉表土除去後の検出作業では確認できなかったが、最終確認のトレンチで石囲炉の一部を検出した。

〈形状・規模〉平面形は概ね、径4m弱の楕円形を呈するものと推測される。



第 78 図 遺構位置図 (青野滝北Ⅲ)

2 検出遺構



第 79 図 SI01 (青野滝北Ⅲ)

- 〈埋土〉炭化物が混入する褐色土を主体として構成されており、部分的に黒褐色土が混じる自然堆積を呈する。
- 〈壁・床〉断面の観察を行ったが、明瞭な壁の立ち上がりはつかめなかった。床面は概ね平坦で炉の周辺部を含め堅く締まる面がなかった。
- 〈柱穴〉検出されなかった。
- 〈炉〉大小併せて10個前後の角礫を径40×50cmほどに並べた楕円形の石囲炉である。炉内には厚さ10cm弱の焼土が形成されていたが、底面が堅く締まっていた。
- 〈重複〉なし
- 〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は5点を掲載した(第82図、写真図版82)。粗製土器が主体であるが、中期後葉のものと考えられる。また、後期と思われる土器片も出土している。石器は2点を掲載した(第84図、写真図版84)。いずれも特殊磨石である。
- 〈時期〉縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

(2) 炉 跡

SX01 炉跡 (第80図、写真図版81)

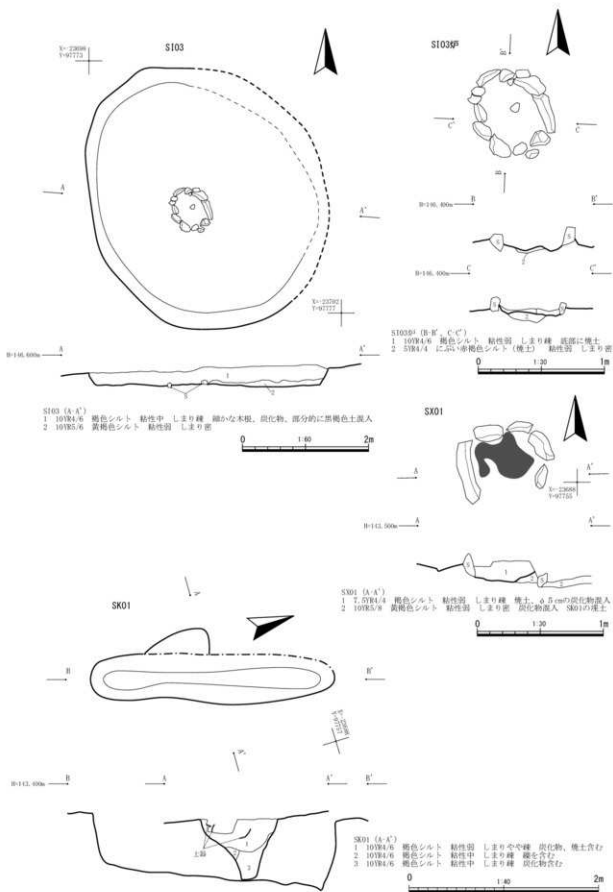
- 〈位置〉調査区中央部のⅡB3 i グリッドに位置する。西側尾根へ下る緩斜面の下位にあたる。
- 〈検出状況〉最終確認のために稼働した重機により、トレンチ断面に石囲炉の一部と思われる角礫を検出した。当初、堅穴住居跡として精査したが、床面と壁面を確認できなかったため、単独の炉跡とした。
- 〈規模・形状〉残存部分から、径約50cmの円形状に角礫を並べた石囲炉と推測される。
- 〈出土遺物〉なし
- 〈時期〉縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

(3) 土 坑

SK01 土坑 (第80図、写真図版81)

- 〈位置〉調査区中央部、ⅡB3 i グリッド付近に位置する。
- 〈検出状況〉SX01 炉跡の精査中に炉石の下部から検出された。
- 〈規模・形状〉細長い溝状を呈し、開口部の規模は長軸方向で約2.5m、短軸方向で約50cmを測る。形状から、陥し穴状土坑と考えられる。
- 〈埋土〉上位は焼土、炭化物を含む褐色土で、下位も褐色土が主体で構成されている。
- 〈出土遺物〉埋土上部から縄文土器が出土した。(第82図、写真図版83)
- 〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

(鈴木貞行)



第 80 図 SI03、SX01、SK01 (青野滝北Ⅲ)

3 出土遺物

(1) 縄文土器 (第81図～第83図、写真図版82・83、観察表は図版)

概要 中コンテナ (32×42×20cm) 約2箱 (接合前) 出土した。青野滝北Ⅰ、Ⅱ遺跡と同様、縄文時代中期後葉～末(大木10式前半)が主体を占めるが、後期初頭～前葉土器も出土している。その他、縄文時代晩期の可能性のある破片が僅かに見られる。

整理状況・掲載基準 掲載基準としては、有文土器については5×5cm以上が目安となるが、青野滝北Ⅰ遺跡同様、文様のある土器が少なかったため、小さめの破片も多めに掲載している。

記載要領・表の見方 個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。“赤付”は赤色付着物のこと。

出土状況 個々の遺物の出土状況は、遺構の節参照。本項担当者は室内整理以後に関わったため詳細は知り得ない。

時期・型式 最も多く、また粗製土器で時期の特定できないものの中にも多く含まれていると思われる縄文時代中期後葉～末は後で述べる。

後期。15、16、27は、何れも細い隆帯上に刺突列を持つ。門前式の鎖状隆帯とは大きく異なるが、後期初頭～前葉に位置づけられよう。34の櫛歯状工具による条線を持つ土器も後期か。

18、19は、晩期大洞C2式期の可能性もある。

以上の他は、多くが縄文時代中期後葉～末と思われる。1、5、6?、7、12、22 = 23、32、33、38、39は、大木10式前半と思われる。

(a) 遺構内出土の土器 (第81図1～第82図24)

遺構は住居跡と土坑で、15、16のような時期の異なる細片も含むが、ほとんどが大木10式前半と思われる。

(b) 遺構外出土の土器 (第82図25～第83図39)

遺構内と同様である。

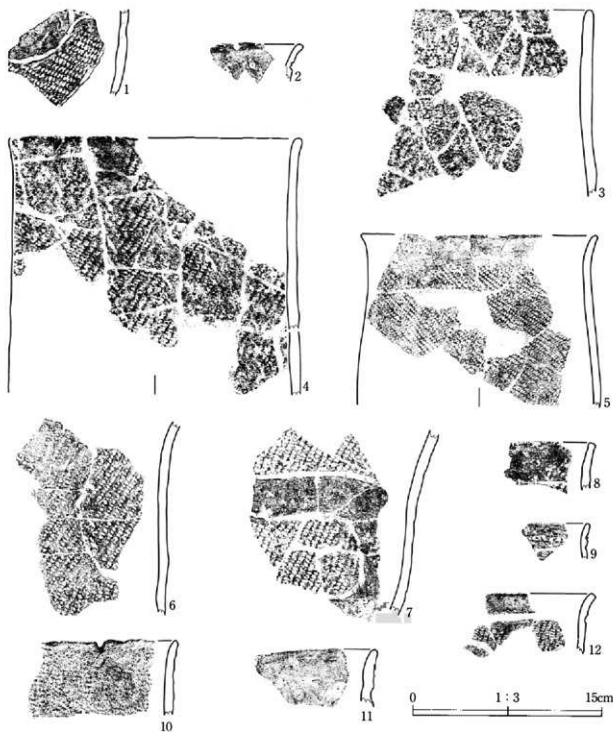
(金子昭彦)

(2) 石器 (第84図、写真図版84、第6表)

磨製石斧 1点(40)掲載した。側面に刃部と直行する方向で長さ8.4cm、幅6mmの切れ込みが入る。また、刃部には使用痕が認められる。石材は早池峰山周辺で採取された蛇紋岩が用いられている。

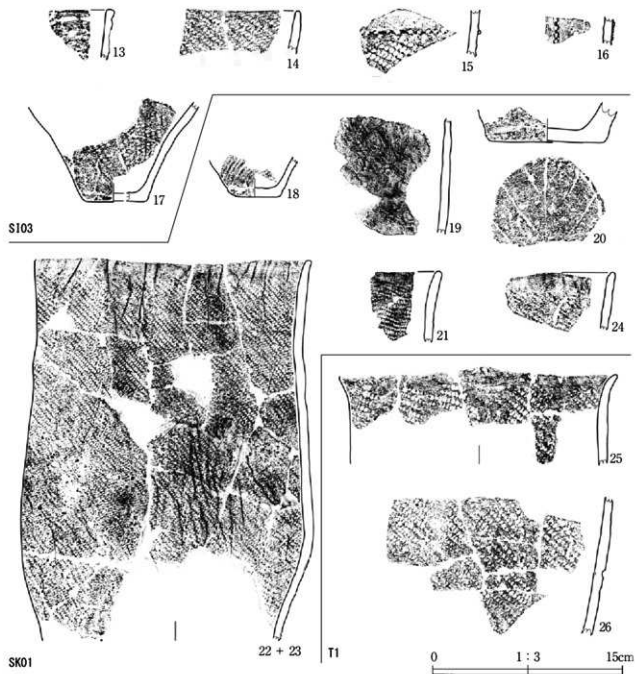
特殊磨石 5点(41～45)掲載した。いずれもやや扁平な礫を用いており、長軸方向の片側面に磨面がある。41は片側面のほかにも磨面が認められ、42は両方の先端部に敲打痕がある。石材は、41が奥羽山脈産のデイサイト、42～45は北上山地産の砂岩が用いられている。

(鈴木博之)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部・胴部・底部・肩部／意匠、施文・磨粒など)	内面 (磨粒など)	備考
1	S801	深鉢・胴部	LRコテ→大く深い沈線	ナデ	
2	S801	深鉢・口縁部	竹管状工具による斜交	ナデ	
3	S801	深鉢・口縁部	LRコテコテ？（＊4と同一器体）	ナデコテ	外底スス付着、内外磨粒はなし
4	S801	深鉢（L4取手未測）		ナデ	＊3と同一器体
5	S801	深鉢（L4取手未測）	口縁無文、LRコテ	ナデ	外底スス付着
6	S801	深鉢・胴部	HLコテ	ナデ	外底スス付着、内外磨粒
7	S801	深鉢・胴部	LRコテ→大く深い沈線	ナデ	外底スス付着
8	S801	深鉢・口縁部	LRコテコテ→深い沈線	ナデ	
9	S801	深鉢・口縁部	大く深い沈線部、竹管状工具による深い斜交列	ナデ	
10	S801	深鉢・口縁部	縦文コテ	磨粒	内外二次焼成で磨粒はなし
11	S801	深鉢・口縁部	大く深い沈線コテ	ナデ	
12	S801	深鉢・口縁部	HLコテ→大く深い沈線	ナデ	外底スス付着

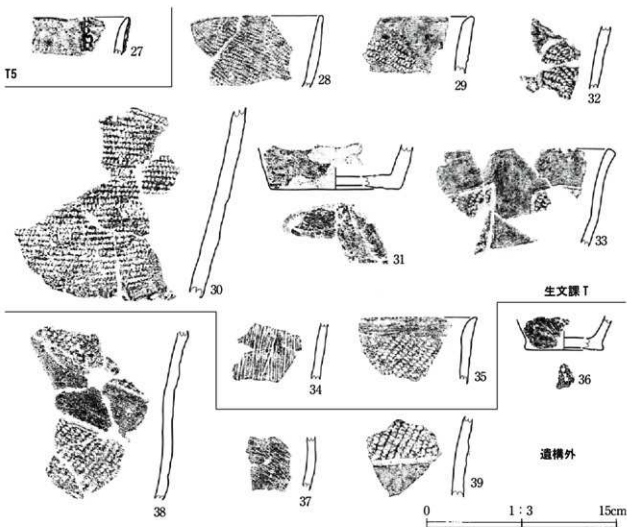
第81図 遺構内出土土器（1）（青野滝北Ⅲ）



No.	出土地点・層位	器種・部位	外 蓋 (口縁部・胴部・底面/蓋裏、縁文形状など)		内 蓋 (口縁部など)	備 考
			口縁部・胴部・底面	蓋裏、縁文形状など		
13	SK03	深鉢・口縁部	(刺溝)		ナデ	
14	SK03	深鉢・口縁部	L形ナデ		ナデ	
15	SK03	深鉢・胴部	縁部上割交刺・L形ナデ		ナデ	
16	SK03	深鉢・胴部	縁部上割交刺		ナデ	
17	SK03	鉢(1/2周未満)	L形ナデ		ナデラテ	内面コゲ付着、外二次焼成摩耗ひびい
18	SK01	鉢(1/2周未満)	R形ナデ→底面→直線ナデ		ナデ	内外黒色付着物?
19	SK01	壺(ラテ・胴部)	ナデラテ		ナデR面	内外黒色付着物
20	SK01	深鉢(1/2周未満)	縁部・底面直		縁部	内外黒色付着物
21	SK01	深鉢・口縁部	L形ナデ		ナデ	外蓋スス付着
22	SK01	深鉢(1/4周未満)	口縁部交刺・L形ナデ (※22と接合)		ナデ	外蓋スス厚、摩耗、内面下部コゲ付着
23	SK01					*22と接合
24	SK01	深鉢・口縁部	L形ナデラテ		ナデ	外蓋スス付着
25	T1トレンチ	深鉢(1/4周以下)	L形ナデ		ナデ	
26	T1トレンチ	深鉢・胴部	L形ナデ		ナデ	

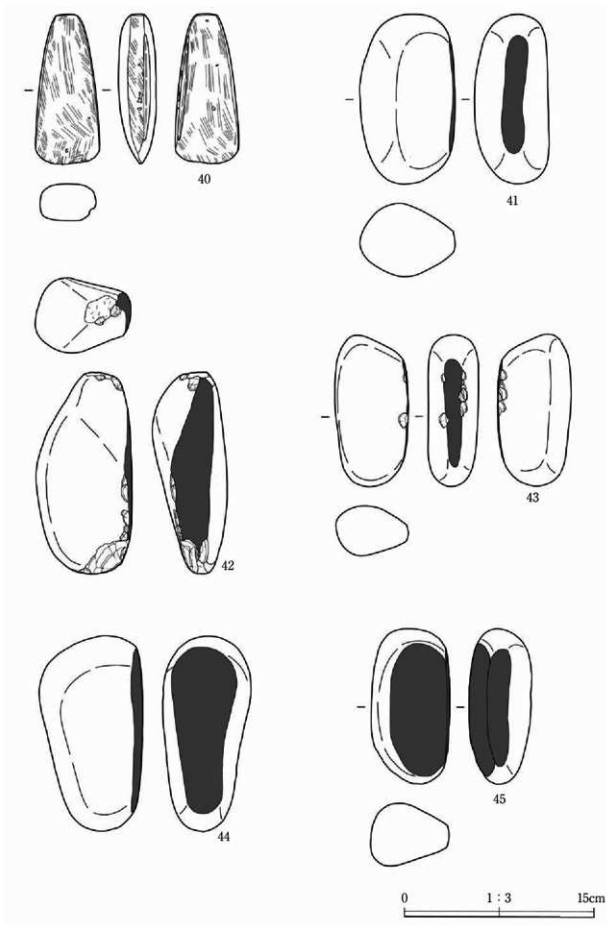
第82図 遺構内出土土器(2)・遺構外出土土器(1)(青野滝北Ⅲ)

3 出土遺物



No.	出土地点・層位	器種・部位	片 葉 (口縁部/底部/底面/流溝/縄文意味など)	片 裏 (顔装など)	備 考
27	5号トレンチ	深鉢・口縁部	突起 深部刻目?・浅部上刺突起	ナデ	
28	5号トレンチ231	深鉢・口縁部	しつた?	ナデ	片裏入込付着、片裏焼けはじけ?
29	5号トレンチ231	深鉢・口縁部	しつた?	ナデ	片裏入込付着
30	5号トレンチ231	深鉢・底部	しつた?	ナデ	片裏入込付着 二次焼成
31	5号トレンチ231	深鉢(1/3部未満)	底部~裏面ナデ	ナデ	片裏コゲ付着
32	5号トレンチ231	深鉢・底部	片ナメ?~太く深い流溝	ナデ	片裏厚肌ひたい
33	5号トレンチ231	深鉢・口縁部	片ナメ?~太く深い流溝・無底起華	3片本	片裏入込付着
34	5号トレンチ232	深鉢・底部	前後状工具による変形	ナデ	
35	5号トレンチ232	深鉢・口縁部	口縁無文/残ナデ	ナデ	片裏厚肌
36	遺構外	底部	底面・刻文?	ナデ	片裏赤色付着物?
37	遺構外	深鉢・底部	しつた?	ナデ	片裏赤色付着物?
38	遺構外	深鉢・底部	片ナメ?~太く深い流溝・無底起華	ナデ	片裏入込付着、片裏厚肌ひたい
39	遺構外	深鉢・底部	片ナメ?~太く深い流溝・無底起華	ナデ薄らか	片裏入込付着、片裏厚肌

第 83 図 遺構外出土土器 (2) (青野滝北Ⅲ)



第84図 石器(青野滝北Ⅲ)

3 出土遺物

第6表 石器観察表（青野滝北Ⅲ）

掲載順	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値（ ）は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重さ[g]			
40	84	84	ⅡC3d・Ⅱ層	石斧類	11.80	5.00	2.90	282.50	蛇紋岩	早池峰山麓辺	刃部に使用痕
41	84	84	SI01・埋土	特種磨石	13.40	5.85	7.50	821.70	デイサイト	奥羽山脈	白色
42	84	84	SI01・埋土	特種磨石	15.90	5.90	7.50	990.00	砂岩	北上山地	両端部に敲打痕
43	84	84	SI01・埋土	特種磨石	12.00	4.00	5.80	424.20	砂岩	北上山地	
44	84	84	SI03・埋土	特種磨石	15.40	8.10	6.90	1213.50	砂岩	北上山地	
45	84	84	SI03・炉周辺埋土	特種磨石	12.20	6.15	4.95	559.30	砂岩	北上山地	

Ⅶ 自然科学分析

1 青野滝北 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

青野滝北 I 遺跡は、岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、北上山地が太平洋に接する海岸段丘 (標高約 150m 前後) に立地する。測定対象試料は、炭窯かとされる土坑や堅穴住居跡等から出土した炭化物と木片の合計 8 点である (表 1)。

試料 4～8 が出土した遺構は、いずれも縄文時代中期の堅穴住居跡で、SI07、SI01、SI09、SI03、SI11 は複式炉、SI04 は石囲炉をもち、SI04、SI01、SI09、SI03、SI11 の炉には中期後葉の土器が伴出する。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹³C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ ¹³C は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は δ ¹³C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。¹⁴C 年代と誤差は、

下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

土坑(炭窯?を含む)出土試料2点の ^{14}C 年代は、いずれも $130 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、1が1682～1936cal ADの間に6つの範囲、2が1681～1937cal ADの間に6つの範囲で示される。なお、これらの較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する(表2下の警告参照)。

竪穴住居跡出土試料6点のうち、4を除く5点の ^{14}C 年代は、 $4160 \pm 30\text{yrBP}$ (試料8) から $4010 \pm 30\text{yrBP}$ (試料6) の狭い範囲にまとまっている。これら5点の暦年較正年代 (1σ) は、全体で縄文時代中期中葉から末葉頃、最も古い8が中期中葉から後葉頃、最も新しい7が中期末葉頃に相当し(小林編 2008)、出土土器や遺構の特徴から考えられる時期におおむね整合する。5は Modern となっており、上位から混入した新しい木片と見られる。

炭化物8点の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値、木片5は約45%のおおむね適正な値であった。化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(1), 337-360
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器、総覧縄文土器刊行委員会、アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4), 1869-1887
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data. Radiocarbon 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142763	1	SW01(炭窯?) 埋土	炭化物	AAA	-21.94 ± 0.28	130 ± 20	98.38 ± 0.27
IAAA-142764	2	SK02(土坑) 埋土上位	炭化物	AAA	-26.76 ± 0.26	130 ± 20	98.36 ± 0.27
IAAA-142765	3	SI07(住居跡) 炉埋土	炭化物	AAA	-23.25 ± 0.38	4,040 ± 30	60.51 ± 0.20
IAAA-142766	4	SI04(住居跡) 床面	木片	AAA	-27.59 ± 0.24	Modern	105.90 ± 0.27
IAAA-142767	5	SI01(住居跡) 埋土	炭化物	AAA	-25.18 ± 0.29	4,130 ± 30	59.83 ± 0.20
IAAA-142768	6	SI09(住居跡) 床面焼土下	炭化物	AAA	-25.96 ± 0.25	4,010 ± 30	60.67 ± 0.20
IAAA-142769	7	SI03(住居跡) 床面	炭化物	AAA	-23.90 ± 0.26	4,090 ± 30	60.08 ± 0.20
IAAA-142770	8	SI11 出土土器内	炭化物	AAA	-26.97 ± 0.28	4,160 ± 30	59.60 ± 0.22

[#7094]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142763	80 ± 20	99.00 ± 0.27	131 ± 22	1682calAD - 1700calAD (10.6%) ^a 1720calAD - 1737calAD (9.1%) ^a 1758calAD - 1761calAD (1.2%) ^a 1804calAD - 1819calAD (7.8%) ^a 1833calAD - 1880calAD (27.6%) ^a 1915calAD - 1936calAD (12.0%) ^a	1678calAD - 1765calAD (34.9%) ^a 1774calAD - 1776calAD (0.5%) ^a 1800calAD - 1892calAD (44.8%) ^a 1908calAD - 1940calAD (15.2%) ^a
IAAA-142764	160 ± 20	98.00 ± 0.27	133 ± 22	1681calAD - 1700calAD (10.6%) ^a 1720calAD - 1738calAD (9.2%) ^a 1755calAD - 1762calAD (2.7%) ^a 1803calAD - 1819calAD (8.1%) ^a 1833calAD - 1880calAD (25.5%) ^a 1916calAD - 1937calAD (12.1%) ^a	1677calAD - 1765calAD (35.7%) ^a 1773calAD - 1777calAD (0.8%) ^a 1800calAD - 1892calAD (43.4%) ^a 1908calAD - 1940calAD (15.5%) ^a
IAAA-142765	4,010 ± 30	60.73 ± 0.19	4,035 ± 26	2580calBC - 2559calBC (20.3%) 2536calBC - 2491calBC (47.9%)	2621calBC - 2476calBC (95.4%)
IAAA-142766	Modern	105.34 ± 0.27	Modern		

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

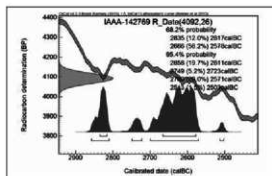
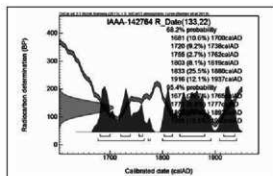
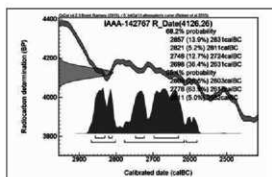
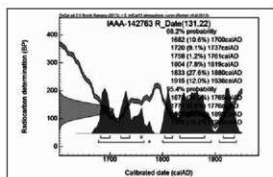
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142767	4,130 \pm 30	59.81 \pm 0.20	4,126 \pm 26	2857calBC - 2831calBC (13.9%) 2821calBC - 2811calBC (5.2%) 2748calBC - 2724calBC (12.7%) 2698calBC - 2631calBC (36.4%)	2868calBC - 2803calBC (26.5%) 2778calBC - 2617calBC (63.9%) 2611calBC - 2582calBC (5.0%)
IAAA-142768	4,030 \pm 30	60.55 \pm 0.19	4,014 \pm 26	2570calBC - 2514calBC (54.6%) 2503calBC - 2489calBC (13.6%)	2581calBC - 2471calBC (95.4%)
IAAA-142769	4,070 \pm 30	60.22 \pm 0.20	4,092 \pm 26	2835calBC - 2817calBC (12.0%) 2666calBC - 2578calBC (56.2%)	2858calBC - 2811calBC (19.7%) 2749calBC - 2723calBC (5.2%) 2700calBC - 2571calBC (69.0%) 2513calBC - 2503calBC (1.5%)
IAAA-142770	4,190 \pm 30	59.36 \pm 0.22	4,156 \pm 29	2871calBC - 2839calBC (14.3%) 2814calBC - 2802calBC (5.6%) 2779calBC - 2676calBC (48.3%)	2878calBC - 2831calBC (18.9%) 2821calBC - 2631calBC (76.5%)

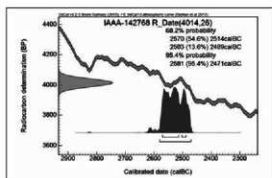
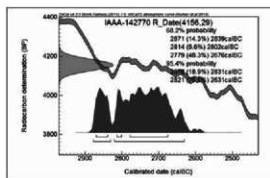
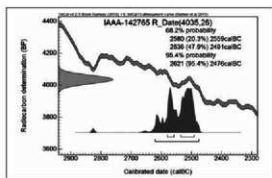
[参考値]

* Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

(この警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)





【図版】 暦年較正年代グラフ (参考)

2 青野滝北Ⅱ遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

青野滝北Ⅱ遺跡は、岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、北上山地が太平洋に接する海岸段丘（標高約150m前後）に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した炭化物1点である（表1）。試料が出土した竪穴住居は、縄文時代中期後葉の土器が伴出する石囲炉をもつ。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい（¹⁴Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正し

た値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1σ=68.2%)あるいは2標準偏差(2σ=95.4%)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ¹⁴C補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10の¹⁴C年代は4120 ± 30yrBP、暦年較正年代(1σ)は縄文時代中期中葉から後葉頃に相当し(小林編2008)、出土土器の示す時期におおむね整合する。

試料の炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 (δ¹⁴C補正值)

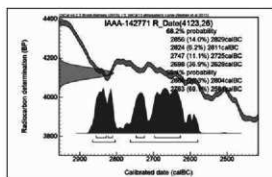
測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹⁴ C (‰) (AMS)	δ ¹⁴ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
[AAA-142771]	10	SK05 床面	炭化物AAA		-25.49 ± 0.28	4,120 ± 30	59.85 ± 0.20

[#7095]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142771	4,130 \pm 30	59.79 \pm 0.19	4,123 \pm 26	2856calBC - 2829calBC (14.0%) 2824calBC - 2811calBC (6.2%) 2747calBC - 2725calBC (11.1%) 2698calBC - 2628calBC (36.9%)	2866calBC - 2804calBC (26.3%) 2763calBC - 2581calBC (69.1%)

[参考値]



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

Ⅷ 総 括

青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡は岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、海岸段丘上に立地している。この海岸段丘は、河川の開析によって大小の谷が形成されており、今回調査を行った3遺跡はいずれもこの谷に面した場所に位置している。

今回の発掘調査では、縄文時代中期後葉～末葉を中心とした堅穴住居跡が青野滝北Ⅰ遺跡で15棟、青野滝北Ⅱ遺跡で1棟、青野滝北Ⅲ遺跡で2棟検出され、当該時期における集落がこの地域に形成されていたことが明らかとなった。これらの堅穴住居跡はほとんどが重複関係にあり、比較的限定された期間内に居住域として頻繁に利用されていたことが窺える調査成果を得た。

土器は3遺跡とも共通で、大木9～10式前半のものがほとんどを占めている。出土量全体からみると、口縁から底部まで接合できた資料は少ない。また、文様を持つ土器も少ない傾向がある。

縄文時代早期中葉の土器も散見できる。この時期の土器は昭和56年度に発掘調査が行われた小堀内Ⅰ遺跡でもまともに出て出土しており、これまでに遺構は確認できていないものの、生活の場が近隣にあった可能性が窺える。

石器は礫石器が多く、剥片石器が少ない傾向がある。礫石器の中でも特殊磨石が目立って多く、円形の敲石も比較的多く出土している。いずれの石器もほとんどが磨りや敲きなど、複合的に使用されている。また、石斧類も多く出土しており、中でも打裂石斧が多く見受けられる。打ち欠いて粗い調整を施したもののほかに、刃部や側面のみを磨いているものもある。石器に使用している石材の多くは北上山地で採取できるもので、容易に調達できるものである。

Ⅰ遺跡とⅡ遺跡では滑石製の有孔垂飾品が出土している。特に、Ⅱ遺跡では穿孔途中で廃棄されたものや滑石の原石が複数出土しており、製作工程を検討できる資料を得ることができた。素材とした滑石は北上山地で採取できるものだが、石質鑑定の際に、本遺跡から約15km西に位置する岩泉町有芸地区でも滑石の露頭があり、本遺跡から出土した滑石の産地であるとの指摘を得た。

本遺跡では堅穴住居跡を合計18棟検出した。このうち、複式炉を持つ堅穴住居跡はⅠ遺跡の11棟である。また、Ⅲ遺跡のSI01で検出した炉は、複式炉のような形態ではあるが、堅穴住居跡と推定した範囲内における位置から複式炉とは考えにくく、作り変えが行われた新旧の石囲炉として捉えた。

複式炉の分類は中村良幸氏によって行われている(中村 1982)。これに従って本遺跡の複式炉を分類すると、以下のようになる。

A類 石囲部+ (a前庭部 b石組部) SI01, SI03, SI07, SI09, SI10, SI11, SI15?

B類 石囲部+石囲部+ (a, b, c施設なし) SI02, SI05, SI13

D類 土器埋設炉+石組炉+ (a, b, c) SI12

(本稿では中村分類の「石組部」を「石囲部」、「掘り込み部」を「前庭部」にそれぞれ言い換えている。)

A類に分類したものは、長軸方向の規模が概ね2～2.5mの範囲におさまる。総じて比較的大型の部類に入ると思われる。また、一部は石囲部の外側や前庭部にも燃焼部が見られる。

B類も長軸方向の規模はA類と同等である。いずれも石囲部に焼土が形成されている。

D類はSI12のみである。2つの石囲部を持ち、石囲部の北側に土器が正位で埋設されているが、東半は失われている。

以上、本遺跡における複式炉の分類を行ったが、A類が多数を占めていることが判明した。また、土器埋設炉を持つ複式炉が非常に稀であることが特徴と言える。盛岡市の上米内遺跡では、大木9式土器に伴うA類が初現で、B類、土器埋設炉を持つ複式炉(C類、D類)へと変遷を辿っている(阿

部 1995) が、本遺跡においては明確な変遷を示すことはできなかった。また、同報告書では規模も次第に大型化していく傾向を見出しているが、本遺跡ではA類とB類に規模の大きな差は見られない。

駒木野氏の集成によると、本遺跡が所在する田老以北の沿岸部における複式炉の調査事例は少ない(駒木野 2004)が、東日本大震災後の復興に伴う調査で資料が増加している可能性がある。当該地域における複式炉の集成については今後の検討課題としたい。

(鈴木博之)

参考文献

中村良幸 1982 「複式炉」について『考古風土記』7

阿部勝則 1995 『上米内遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第220集

駒木野智寛 2004 「複式炉の研究—岩手県内における複式炉の地域別分布傾向とその分析—」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

写 真 图 版

(青野滝北 I 遺跡)



遺跡遠景（南から）



調査区全景（直上）



SI01 全景 (西から)



SI01 断面 (南から)



SI01 炉全景 (東から)



SI01 炉断面 (南から)



SI02 全景 (南東から)



SI02 断面 (南から)



SI02 炉全景 (南東から)



SI02 炉断面 (南西から)



S103 全景 (東から)



S103 断面 (北から)

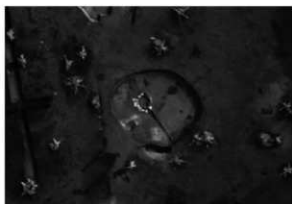


S103 炉全景 (東から)



S103 炉断面 (南から)

写真図版 4 竪穴住居跡 (3)



SI04 全景 (直上)



作業風景



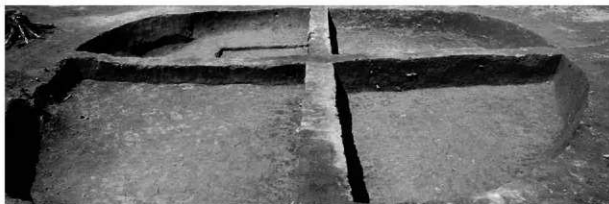
SI04 伊全景 (北西から)



SI04 伊断面 (北から)



SI04 断面 (西南から)



SI04 断面 (南から)



SI05、SI12 全景 (南西から)



SI05、SI12 断面 (北西から)



SI05、SI12 断面 (北東から)

写真図版 6 竪穴住居跡 (5)



SI05 炉全景 (南から)



SI05 炉断面 (西から)



SI05 炉断面 (北から)



SI05 炉断ち割り断面



SI12 炉全景



SI12 炉断面 (西から)



SI12 炉断面 (南から)



埋土下位検出焼土 (南から)



SI06 全景 (南から)



SI06 断面 (南西から)



SI06 炉全景 (南から)



SI06 炉断面 (南から)



SI07 全景 (北西から)



SI07 断面 (東から)



SI07 炉全景 (南から)



SI07 炉断面 (西から)



S108 全景 (南から)



S108 断面 (東から)



S109 全景 (南から)



S109 断面 (南から)



S109 炉全景 (東から)



S109 炉断面 (南から)

写真図版 11 竪穴住居跡 (10)



S110 全景 (東から)



S110 断面 (南から)



S110 炉全景 (南から)



S110 炉断割り断面 (南から)



SI11 全景 (東から)



SI11 断面 (東から)



SI11 炉全景 (東から)



SI11 炉断面 (南から)



S113 全景 (東から)



S113 断面 (東から)



S113 炉全景 (東から)



S113 炉断面 (南から)

写真図版 14 竪穴住居跡 (13)



S114 全景 (西から)



S114 断面 (西から)



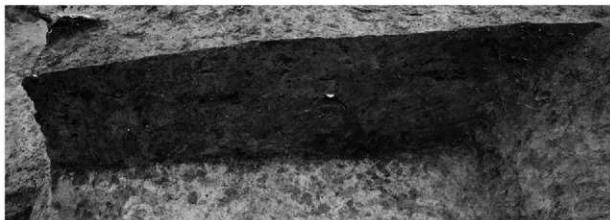
S114 炉棧出状況 (西から)



S114 炉断面 (南西から)



SI15 全景 (北から)



SI15 断面 (北西から)



SI15 炉全景 (南から)



SI15 炉断面 (西から)

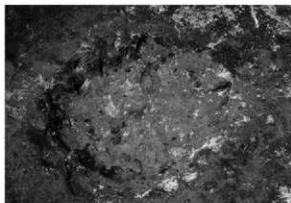
写真図版 16 竪穴住居跡 (15)



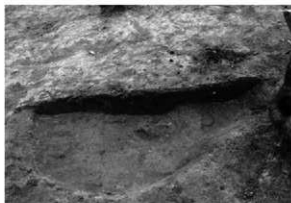
SK01 全景 (南から)



SK01 断面 (北から)



SK02 全景 (東から)



SK02 断面 (北西から)



SK03 全景 (南から)



SK03 断面 (南から)



SK05 全景 (南から)



SK05 断面 (南から)



SK07 全景 (東から)



SK07 断面 (東から)



SK09 全景 (南から)



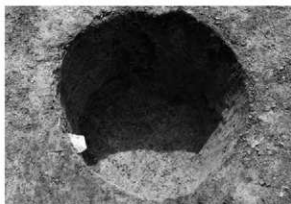
SK09 断面 (北から)



SK11 全景 (西から)



SK11 断面 (東から)



SK12 全景 (北から)



SK12 断面 (東から)



SK13全景 (北から)



SK13断面 (南東から)



SK14全景 (東から)



SK14断面 (東から)



SK15全景 (西から)



SK15断面 (南東から)



SK16全景 (西から)



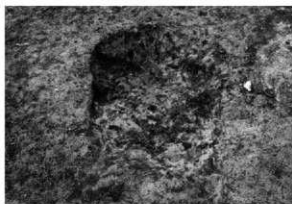
SK16断面 (南から)



SW01 全景 (東から)



SW01 断面 (北から)



SW03 全景 (南から)



SW03 断面 (南から)



基本土層 (東から)



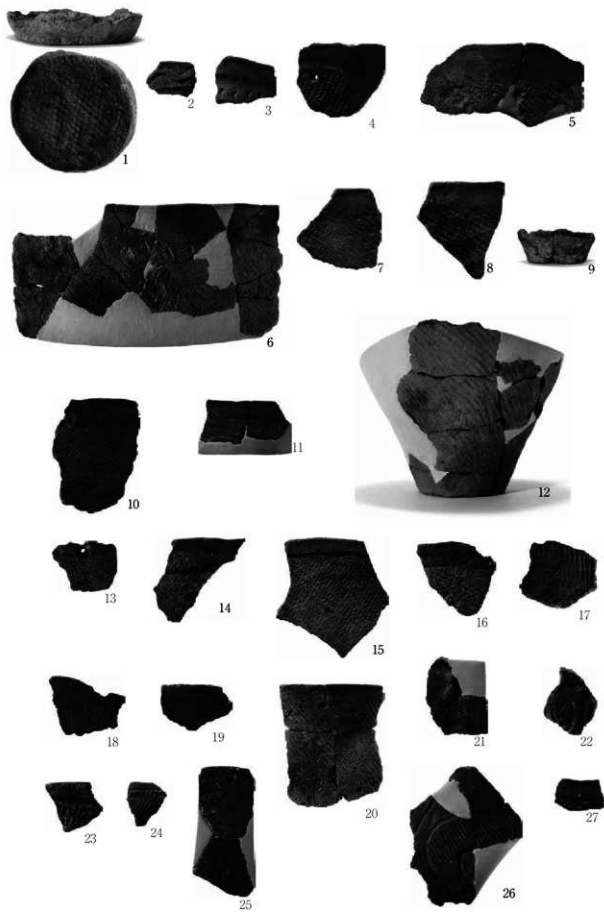
遺跡近景 (青野滝北Ⅰから)



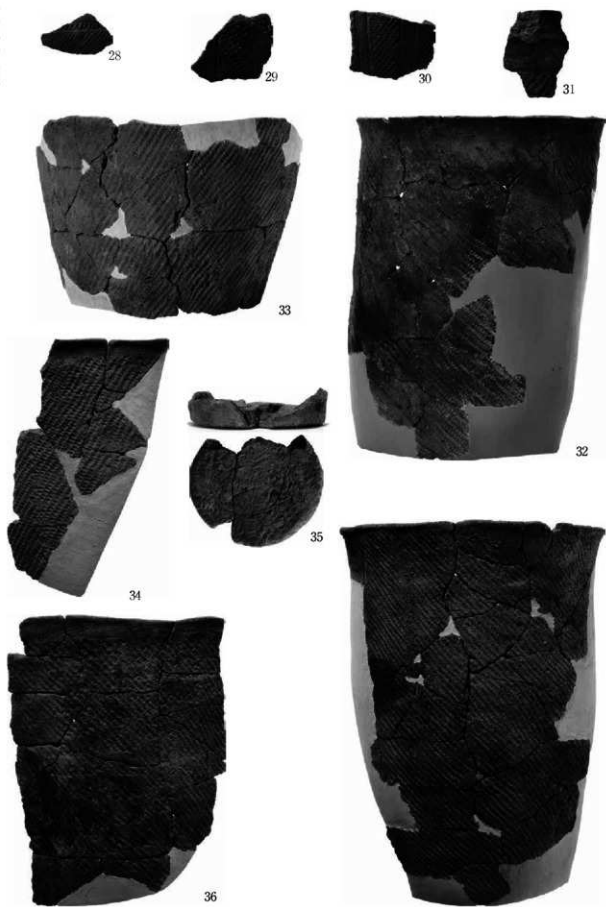
現地説明会



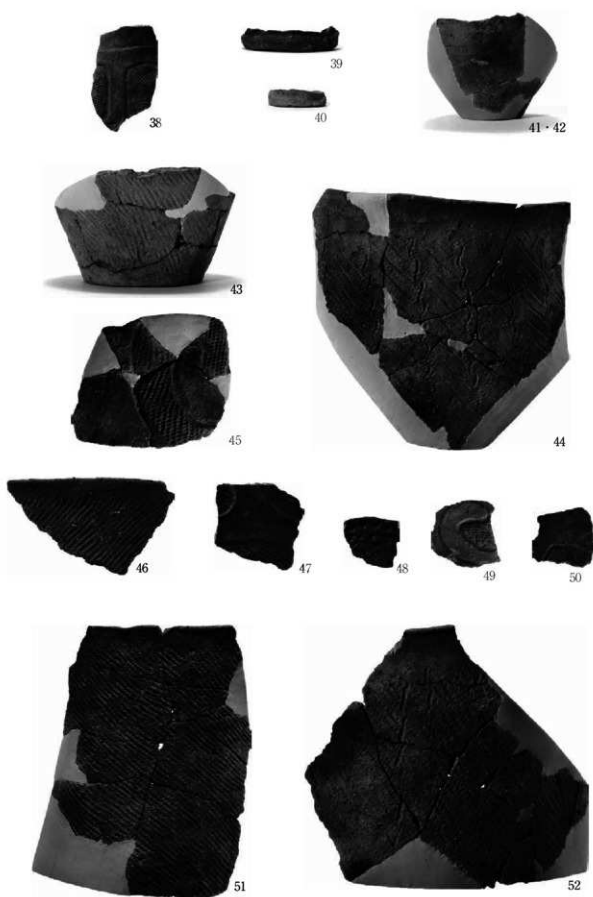
作業風景



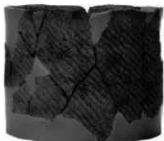
写真図版 21 遺構内出土土器 (1)



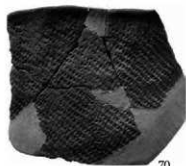
写真図版 22 遺構内出土土器 (2)



写真図版 23 遺構内出土土器 (3)



写真図版 24 遺構内出土土器 (4)



写真図版 25 遺構内出土土器 (5)



86



87



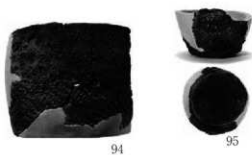
88



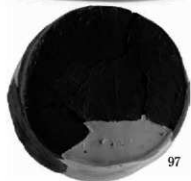
90



89



写真図版 27 遺構内出土土器 (7)



97



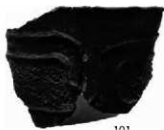
98



99



100



101

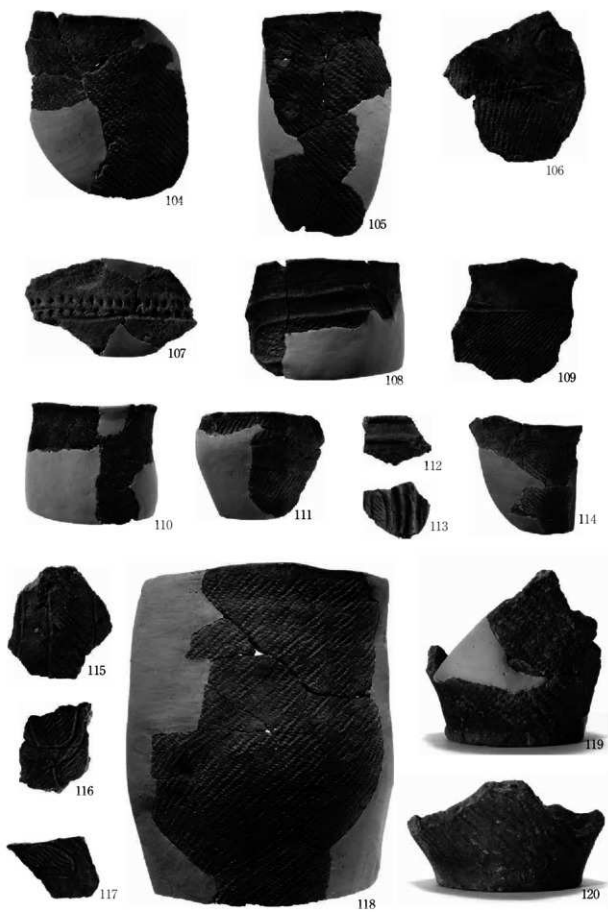


102

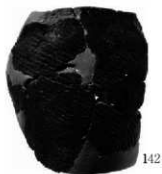
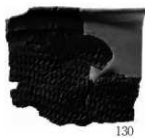


103

写真図版 28 遺構内出土土器 (8)



写真図版 29 遺構内出土土器 (9)



写真図版 30 遺構内出土土器 (10)



143



144



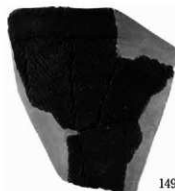
145



146



147



149



148



150



151

写真図版 31 遺構内出土土器 (11)



152



153n



153b



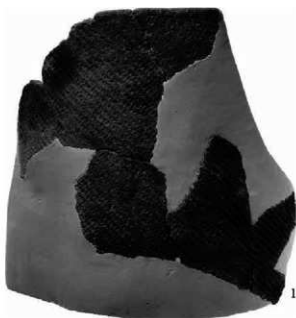
157



154



155

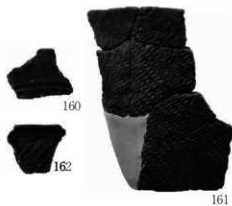


156



158

写真図版 32 遺構内出土土器 (12)



写真図版 33 遺構内出土土器 (13)



166



167



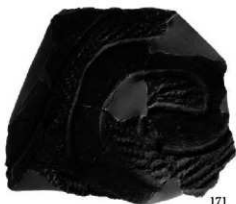
168



169



170



171



172



173



174



175

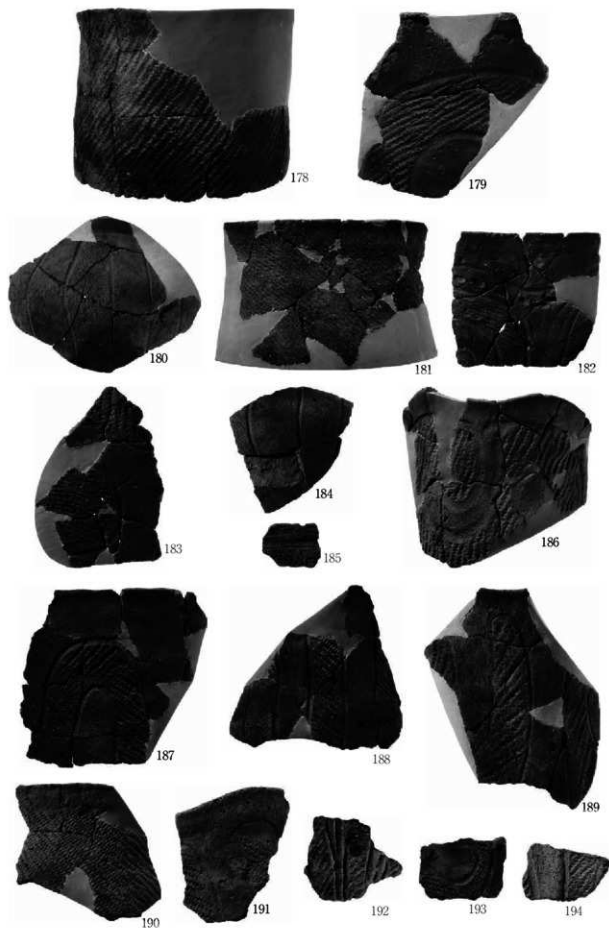


176

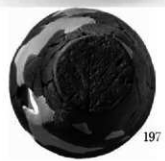
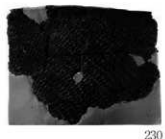


177

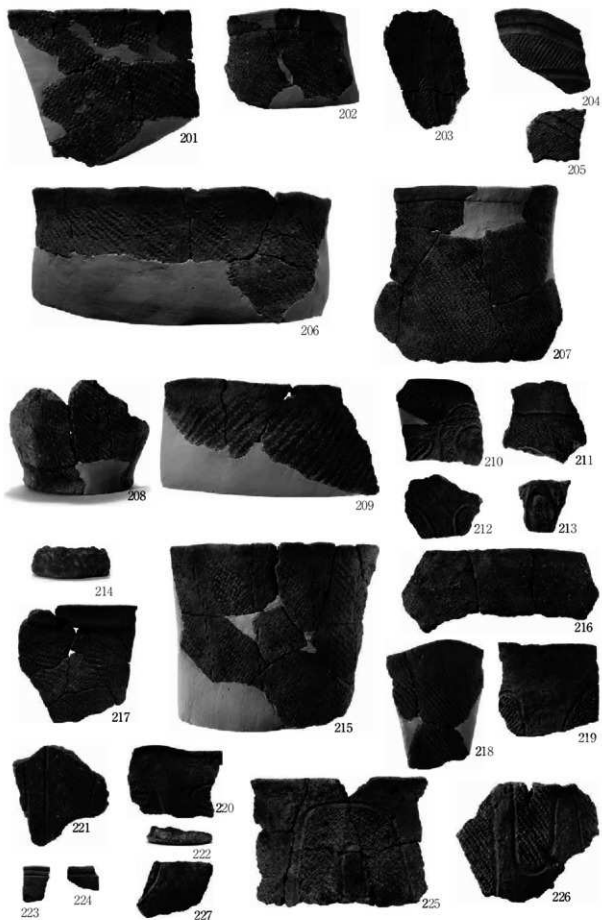
写真図版 34 遺構内出土土器 (14)



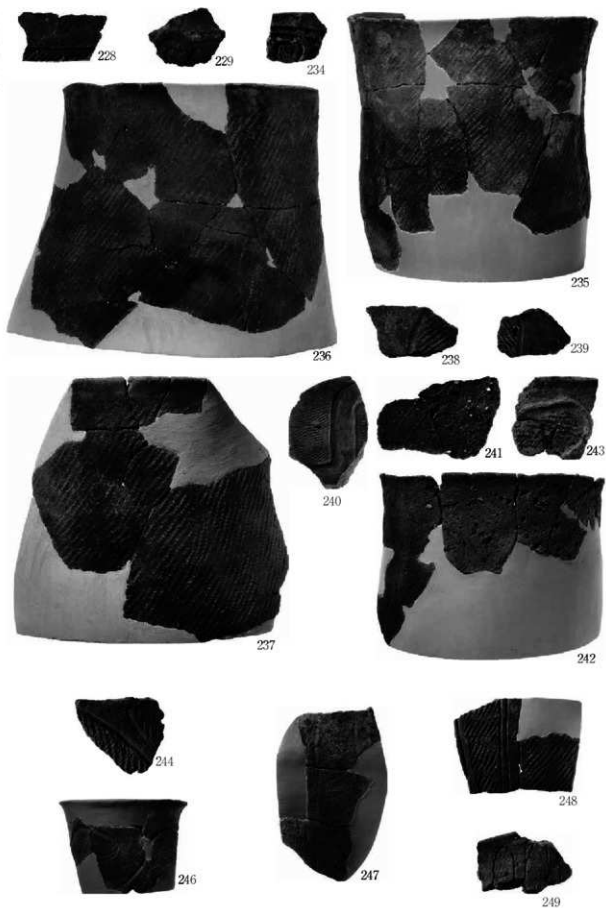
写真図版 35 遺構内出土土器 (15)



写真図版 36 遺構内出土土器 (16)



写真図版 37 遺構内出土土器 (17)



写真図版 38 遺構内出土土器 (18)、遺構外出土土器 (1)



写真図版 39 遺構外出土土器 (2)



257



258



259



260



261



262



263



264



265



266



267



268



269



270



271



272



273



274



275



276



280

青野
滝北Ⅰ
遺跡



277



278



281



279



282



283



284



286



285



287



288



289



写真図版 43 石器 (4)



297



298



299



301



300



302



303



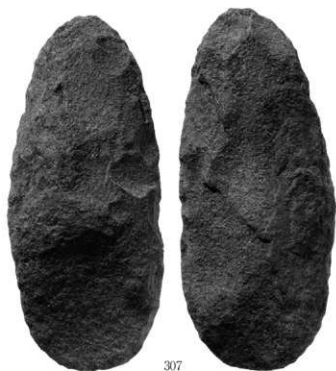
304



305



306



307



308



309

写真図版 45 石器 (6)



310



312



313



314



315



317



316



311



318



319



320



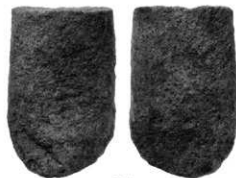
322



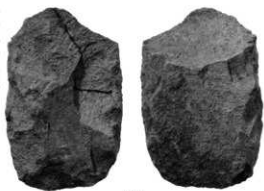
323



321



324



325



327



326



328



329



330



331



332



333



335



334



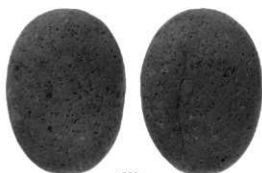
336



337



338



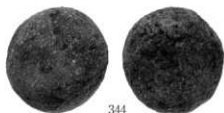
339



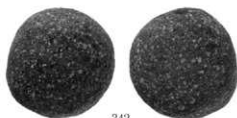
340



341



344



342



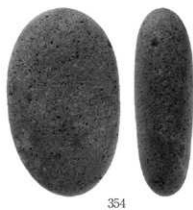
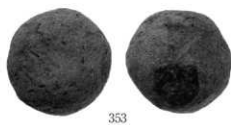
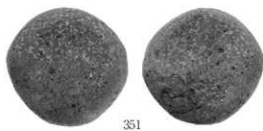
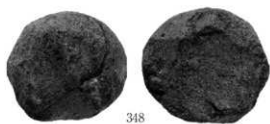
345



343



346





358



359



360



361



362



363



364



365



367



366



368



369



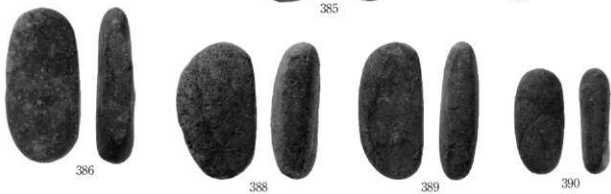
370



371



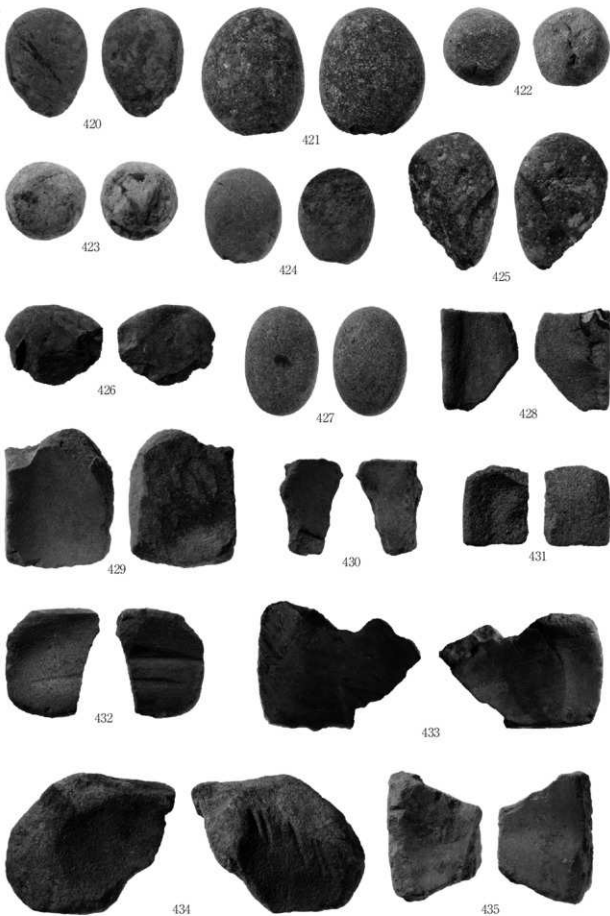
写真図版 53 石器 (14)



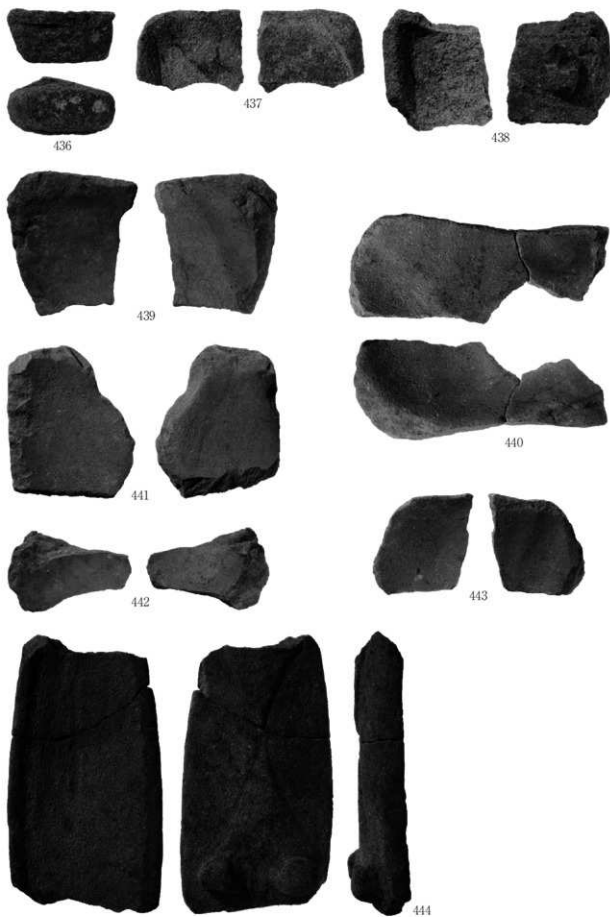
写真図版 54 石器 (15)



写真図版 55 石器 (16)



写真図版 56 石器 (17)



写真図版 57 石器 (18)



445



446



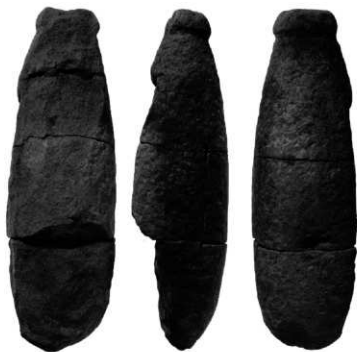
447



448



451



449



450



452

写 真 图 版

(青野滝北Ⅱ遺跡)



遺跡遠景（西から）



調査区全景（直上）



調査前現況



基本土層



SI01 全景 (南から)



SI01 断面 (東から)



SI01 炉全景 (南から)



SI01 炉断面 (南から)



SI01 土器埋設炉全景 (南東から)



SI01 土器埋設炉断面 (南東から)



SI01PP01 全景 (東から)



SI01PP01 断面 (東から)



SI01PP02 全景 (東から)



SI01PP02 断面 (東から)



作業風景



作業風景



SK01 全景 (西から)



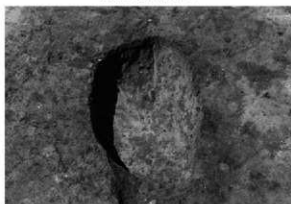
SK01 断面 (南から)



SK02 全景 (東から)



SK02 断面 (北から)



SK03 全景 (北から)



SK03 断面 (東から)



SK04 全景 (北から)



SK04 断面 (西から)



SK06全景 (東から)



SK06断面 (西から)



SK07全景 (西から)



SK07断面 (西から)



SK08全景 (南西から)



SK08断面 (南西から)



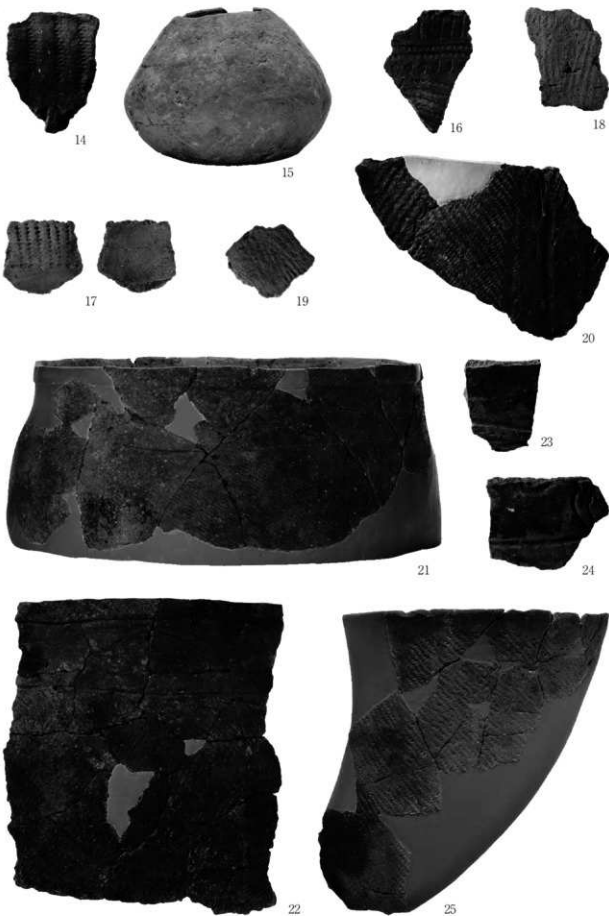
重機稼働風景



作業風景



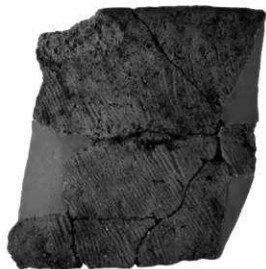
写真図版 66 遺構内出土土器（1）



写真図版 67 遺構内出土土器（2）



26



27



28



32



31

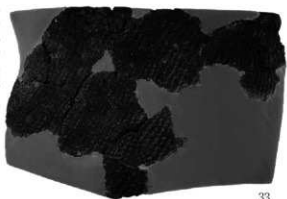


29



30

写真図版 68 遺構内出土土器 (3)



33



34



35



36



37



39



40



38



43



41



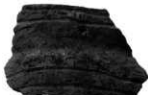
42



44



46



47



45

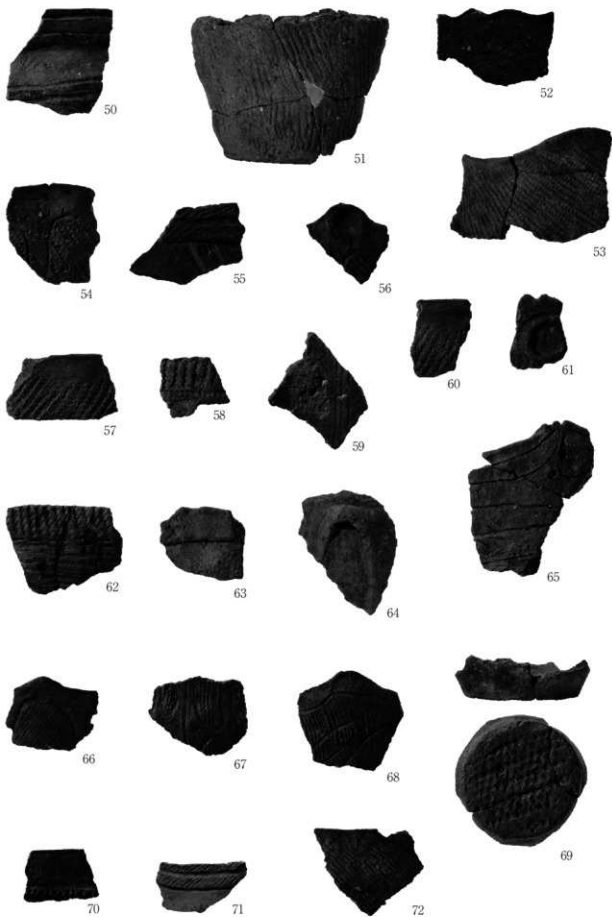


49



48

写真図版 69 遺構内出土土器 (4)、遺構外出土土器 (1)



写真図版 70 遺構外出土土器 (2)



76



73



74



75



77



78



79



80



81



82



83



84



85

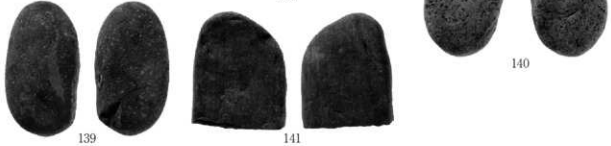
写真図版 71 遺構外出土土器 (3)、土製品





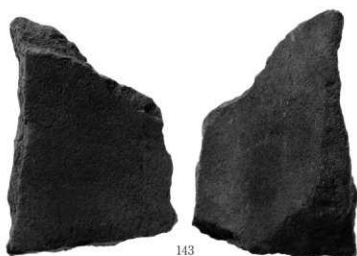
写真図版 73 石器 (2)







142



143



144



145



146



147



148



149

写 真 图 版

(青野滝北Ⅲ遺跡)



遺跡遠景（南から）



遺跡全景（直上）



遺跡近景 (西から)



基本土層



SI01 全景 (西から)



SI01 断面 (北から)



SI01 炉全景 (南から)



SI01 炉断面 (東から)



SI03 全景 (南から)



SI03 断面 (南から)



SI03 炉全景 (南から)



SI03 炉断面 (北から)



SX01 全景 (南から)



SX01 断面 (南から)



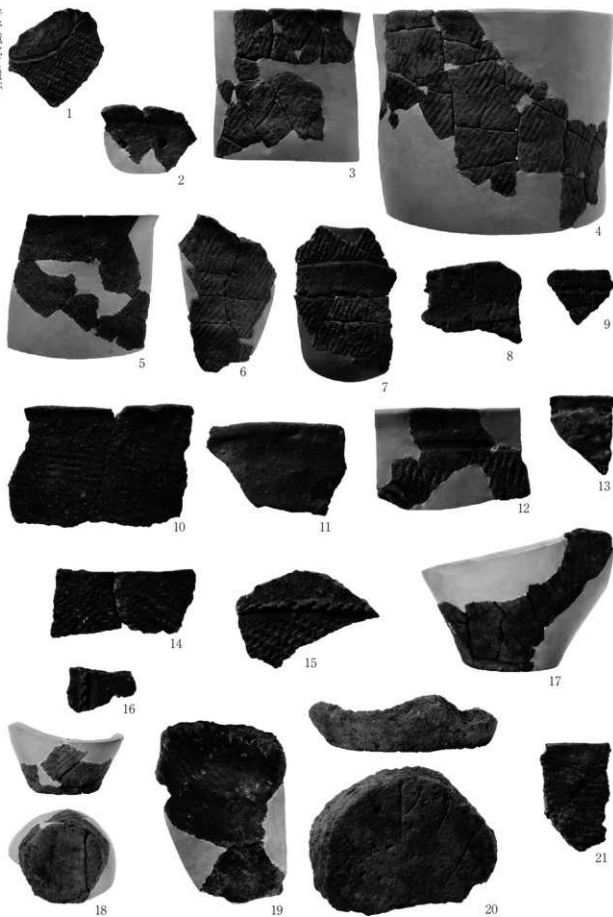
SX01 検出状況 (南東から)



SK01 全景 (南から)



SK01 断面 (南から)



写真図版 82 遺構内出土土器 (1)



写真図版 83 遺構内出土土器 (2)、遺構外出土土器



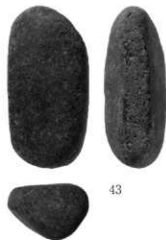
40



41



42



43



44



45

報告書抄録

ふりがな	あおのたききた1・2・3いせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	青野滝北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第658集							
編著者名	鈴木博之、金子昭彦、古館貞身、鈴木貞行							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2016年3月18日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あおのたききたⅠいせき 青野滝北Ⅰ遺跡	いわてけん みやこし たろろ あおのたききたちのい 岩手県宮古市田老字青野滝北地内	03202	KG84-0118	39度 46分 46秒	141度 58分 20秒	2014.04.10 ～ 2014.09.12	4,200㎡	三陸沿岸道路関連発掘調査
あおのたききたⅡいせき 青野滝北Ⅱ遺跡	いわてけん みやこし たろろ あおのたききたちのい 岩手県宮古市田老字青野滝北地内	03202	KG84-0108	39度 46分 50秒	141度 58分 20秒	2014.04.10 ～ 2014.06.20	2,100㎡	三陸沿岸道路関連発掘調査
あおのたききたⅢいせき 青野滝北Ⅲ遺跡	いわてけん みやこし たろろ あおのたききたちのい 岩手県宮古市田老字青野滝北地内	03202	KG74-2290	39度 46分 52秒	141度 58分 27秒	2014.04.10 ～ 2014.09.30	2,300㎡	三陸沿岸道路関連発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
青野滝北Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(中期) 土坑	15棟 12基	縄文土器 石器 石製品			
青野滝北Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(中期) 土坑	1棟 7基	縄文土器 石器 土製品 石製品			
青野滝北Ⅲ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(中期) 土坑 炉跡	2棟 1基 1基	縄文土器 石器			
要約	<p>青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡は岩手県宮古市田老に所在する。海岸段丘上に立地し、段丘が開析された小規模な谷に面している。縄文時代中期後葉～末葉にかけての集落跡が見つかった。竪穴住居跡の多くは重複関係にあり、比較的限定された期間に本遺跡が居住域として利用されていたことが明らかとなった。</p>							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 658 集
青野滝北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連道路発掘調査

印刷 平成 28 年 3 月 11 日

発行 平成 28 年 3 月 18 日

編集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川 4 番 1 号
電話 (0193) 71-1716

(公財) 岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印刷 セーコー印刷
〒020-0877 岩手県盛岡市下の橋町 2 番 23 号
電話 (019) 651-3606

